

7. 動物

7.1 調査結果の概要

調査結果を以下に示します。

7.1.1 既存資料調査結果

既存資料調査については、「第 3 章 対象事業実施区域及びその周囲の概況」の「1.4.2 動物の状況」に示します。

7.1.2 現地調査結果

(1) 調査項目

① 動物の状況

a. 陸上動物

哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類について調査を行いました。

b. 水生生物

動物プランクトン、魚卵・稚仔魚、底生生物、干潟・付着生物、カブトガニ、魚類、海生哺乳類について調査を行いました。

② 生息環境

水生生物の生息環境を把握するため、底質・基盤について調査を行いました。

(2) 調査地域・地点

陸上動物及び水生生物の調査地域・地点は以下のとおりとしました。調査地域・地点の一覧を表 8-7.1 に示します。

① 陸上動物

調査地域は、築城基地周囲 250m の範囲としました。

調査地点は、哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類は築城基地周囲 250m の範囲を対象とし、重点調査範囲として、4 地点を設定しました。鳥類は、2 定点、2 ルートで調査を行いました。

陸上動物の調査地域、調査地点及びルートを図 8-7.1 に示します。

② 水生生物

調査地域は、築城基地周辺の海域としました。

動物プランクトン、魚卵・稚仔魚は直接改変される範囲を含めた 4 地点で調査を行いました。

底生生物は直接改変される範囲を含めた 6 地点及び潮下帯に設定した 9 測線上で調査を行いました。

干潟生物は潮間帯に設定した 9 測線上の 27 地点、1 地点（汽水域）で調査を行いました。

付着生物は既存護岸周辺の 4 地点で調査を行いました。

なお、カブトガニについては、築城基地周辺の干潟において、調査を行いました。

魚類は、直接改変される範囲を含めた 9 測線及びその周辺で調査を行いました。

海生哺乳類は、築城基地周辺の陸域 2 定点及び周辺海域で調査を行いました。

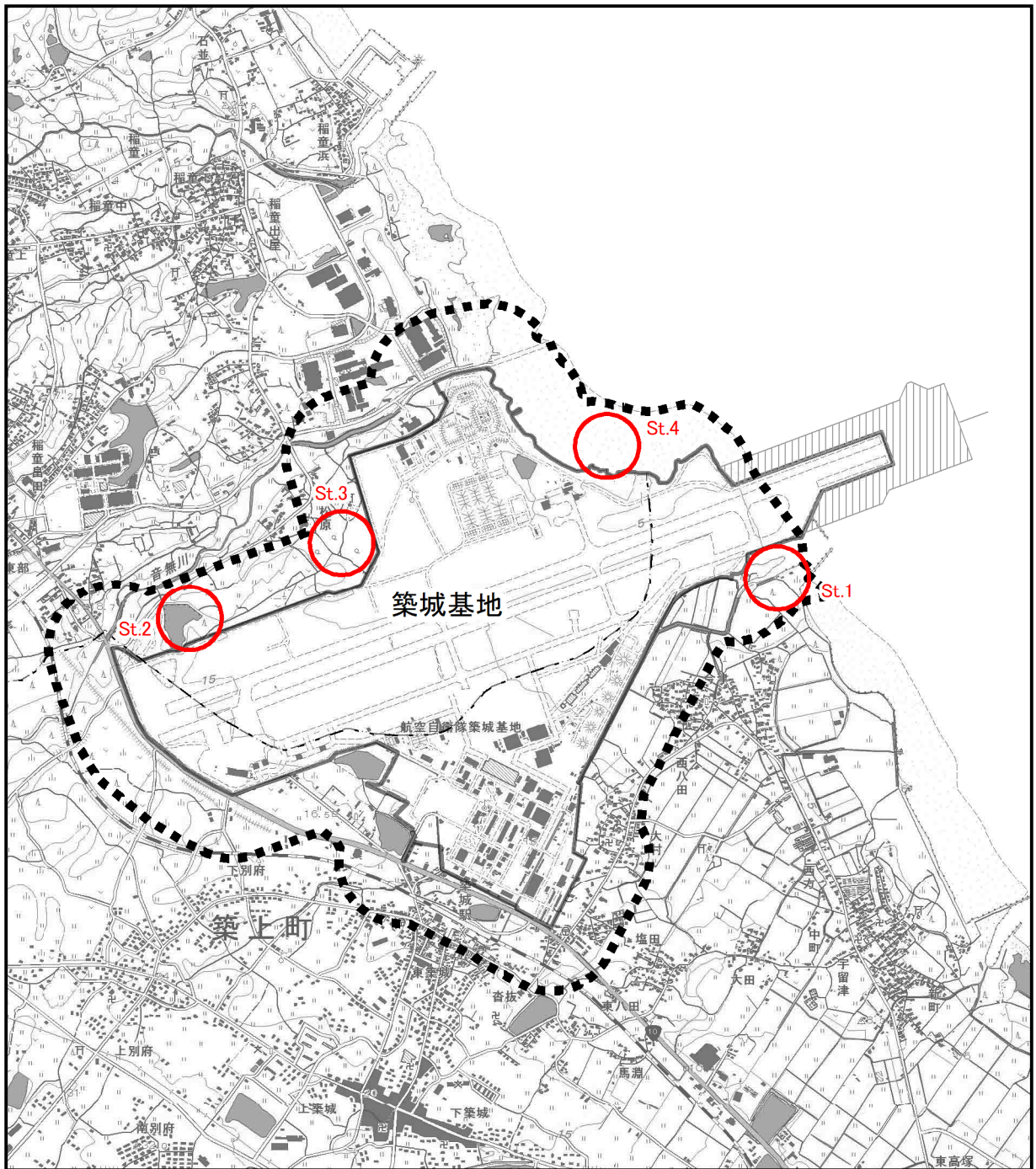
水生生物の調査地域及び調査地点を、図 8-7.2 に示します。

表 8-7.1(1) 調査項目及び調査地点一覧表

調査項目	調査範囲及び調査地点	地点選定理由
哺乳類 爬虫類 両生類 昆虫類 (図 8-7.1(1))	築城基地周囲 250m	築城基地周辺の哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類を把握するために選定
	【重点調査範囲】	
	St. 1	対象事業実施区域の南側に位置するクロマツ植林で、宮の川の河道内にはヨシ群落、西八田漁港周辺には海岸植生が分布していることから選定
	St. 2	対象事業実施区域近隣の溜め池で、水辺環境の利用状況を把握するために選定
	St. 3	対象事業実施区域近隣の二次林で、樹林の利用状況を把握するために選定
	St. 4	対象事業実施区域の北側に位置する海岸植生で、水辺環境の利用状況を把握するために選定
鳥類 (図 8-7.1(2))	築城基地周辺北側	築城基地周辺における鳥類を把握するために選定
	築城基地周辺南側	
動物プランクトン 魚卵・稚仔魚 底生生物（定量） (図 8-7.2(1)、 (2))	St. 1	築城基地周辺海域の北側における生物相を把握するために選定
	St. 2	既存滑走路沖における生物相を把握するために選定
	St. 3	築城基地周辺海域の南側における生物相を把握するために選定
	St. 4	対象事業実施区域内で、既存護岸に最も近い地点として選定。底生生物調査のみを実施。
	St. 5	対象事業実施区域内における生物相を把握するために選定
	St. 6	延長後の滑走路の先端付近の地点として選定。底生生物調査のみを実施。
底生生物（目視） (図 8-7.2(2))	藻場調査と同様の測線	築城基地周辺に生息する底生生物を把握するために選定

表 8-7.1(2) 調査項目及び調査地点一覧表

調査項目	調査範囲及び調査地点	地点選定理由
干潟生物 (図 8-7.2(3))	測線 1	対象事業実施区域から離れており、対照区として選定
	測線 2	音無川河口から沖にかけての生物相を把握するために選定
	測線 3	築城基地周辺に存在する比較的大きな干潟の生物相を把握するために選定
	測線 4	対象事業実施区域内の生物相を把握するために選定
	測線 5	対象事業実施区域内の生物相を把握するために選定
	測線 6	対象事業実施区域内の生物相を把握するために選定
	測線 7	築城基地周辺の潮間帯の生物相を把握するために選定
	測線 8	築城基地周辺の潮間帯の生物相を把握するために選定
	測線 9	対象域から離れており、対照区として選定
汽水域 (図 8-7.2(3))	西八田漁港周辺	宮の川河口周辺の汽水域の生物相を把握するために選定
付着生物 (図 8-7.2(3))	北側・南側 (各 2 地点) : 坪刈り法	既存護岸に生息する付着生物を把握するために選定
カブトガニ	稲童漁港から八津田漁港にかけての汀線及び築城基地北側の潮間帯	築城基地周辺のカブトガニの産卵及び生息状況を把握するために選定
魚類 (図 8-7.2(4))	干潟生物と同様の調査地点	築城基地周辺に生息する魚類相を把握するために選定
	藻場調査と同様の測線	
	西八田漁港周辺	
	築城基地周辺海域	
海生哺乳類 (図 8-7.2(5))	稲童漁港・八津田漁港: 定点観察	目撃情報もあり、見通しが良く、対象事業実施区域周辺海域の利用状況を把握するのに適していることから選定
	築城基地周辺: 船上からの任意観察	



凡例

- ▨ 対象事業実施区域
- ▭ 航空自衛隊 築城基地
- - 市町村界
- 陸上動物調査位置
- 重点調査範囲

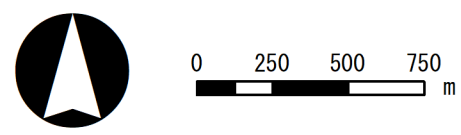
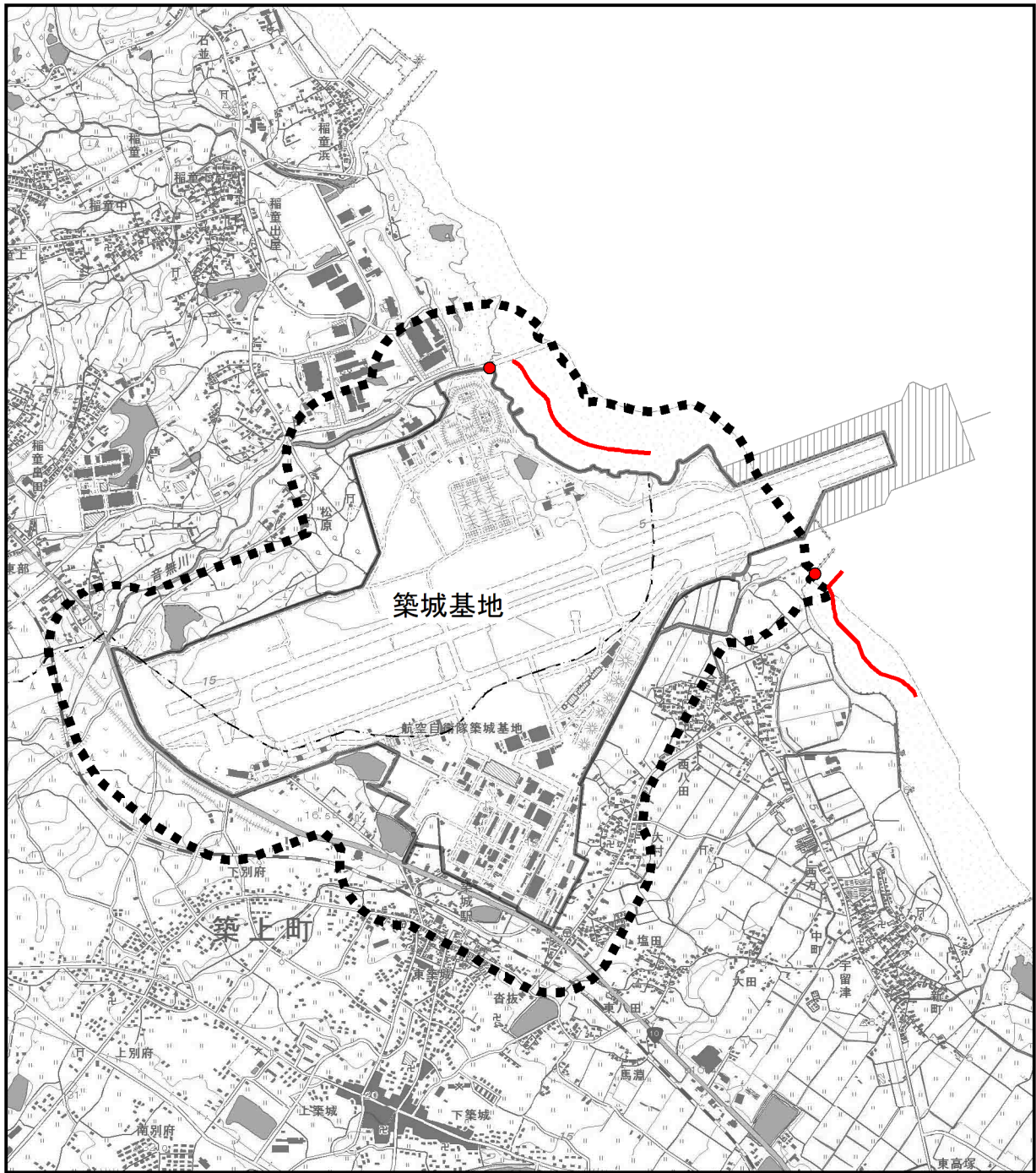








図 8-7.1(1) 陸上動物調査位置図
(哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類)



凡例

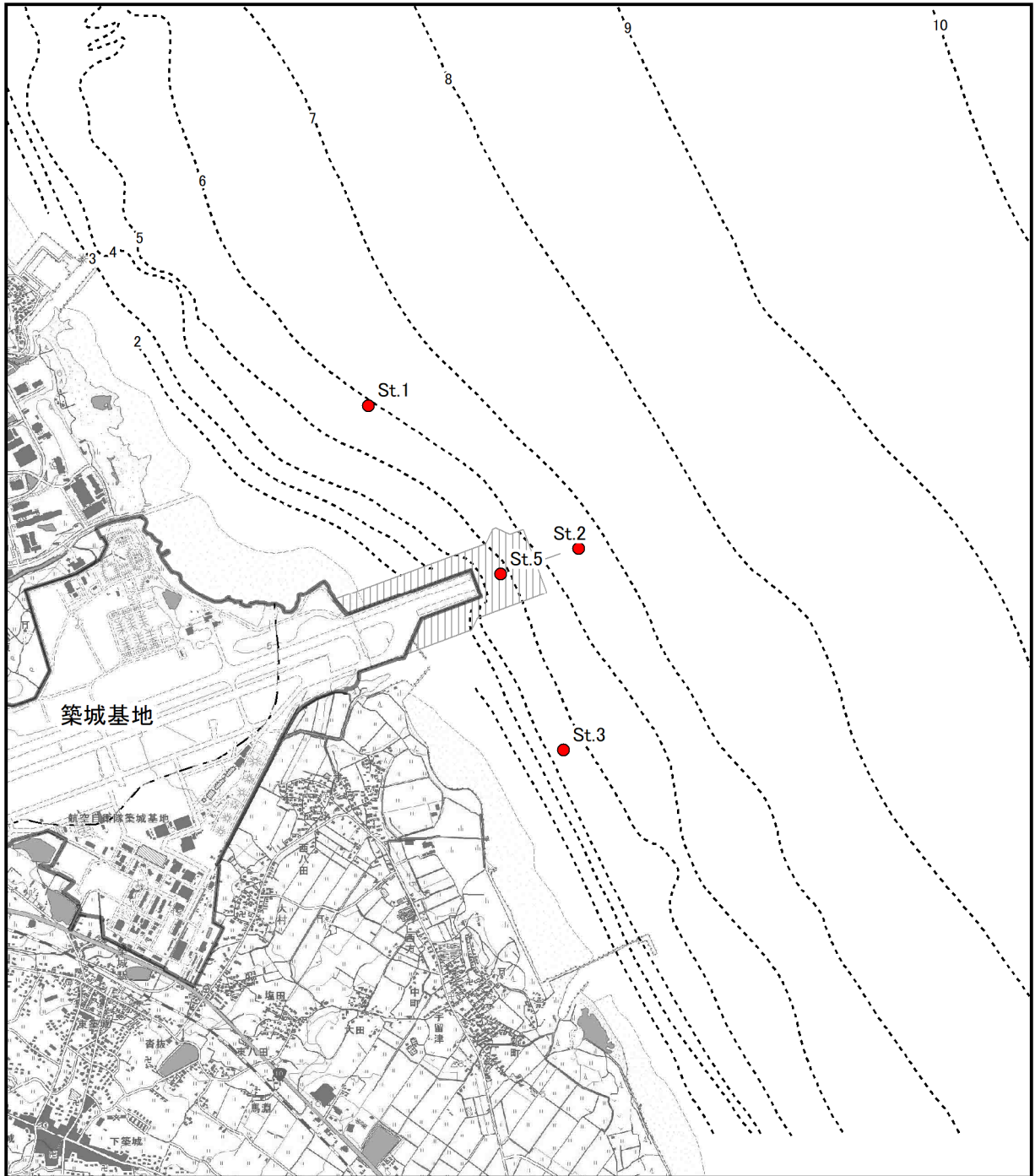
-  対象事業実施区域
-  航空自衛隊 築城基地
-  市町村界

-  陸上動物調査位置
-  鳥類定点観察地点
-  鳥類ラインセンサスルート



0 250 500 750 m

図 8-7.1(2) 陸上動物調査位置図 (鳥類)



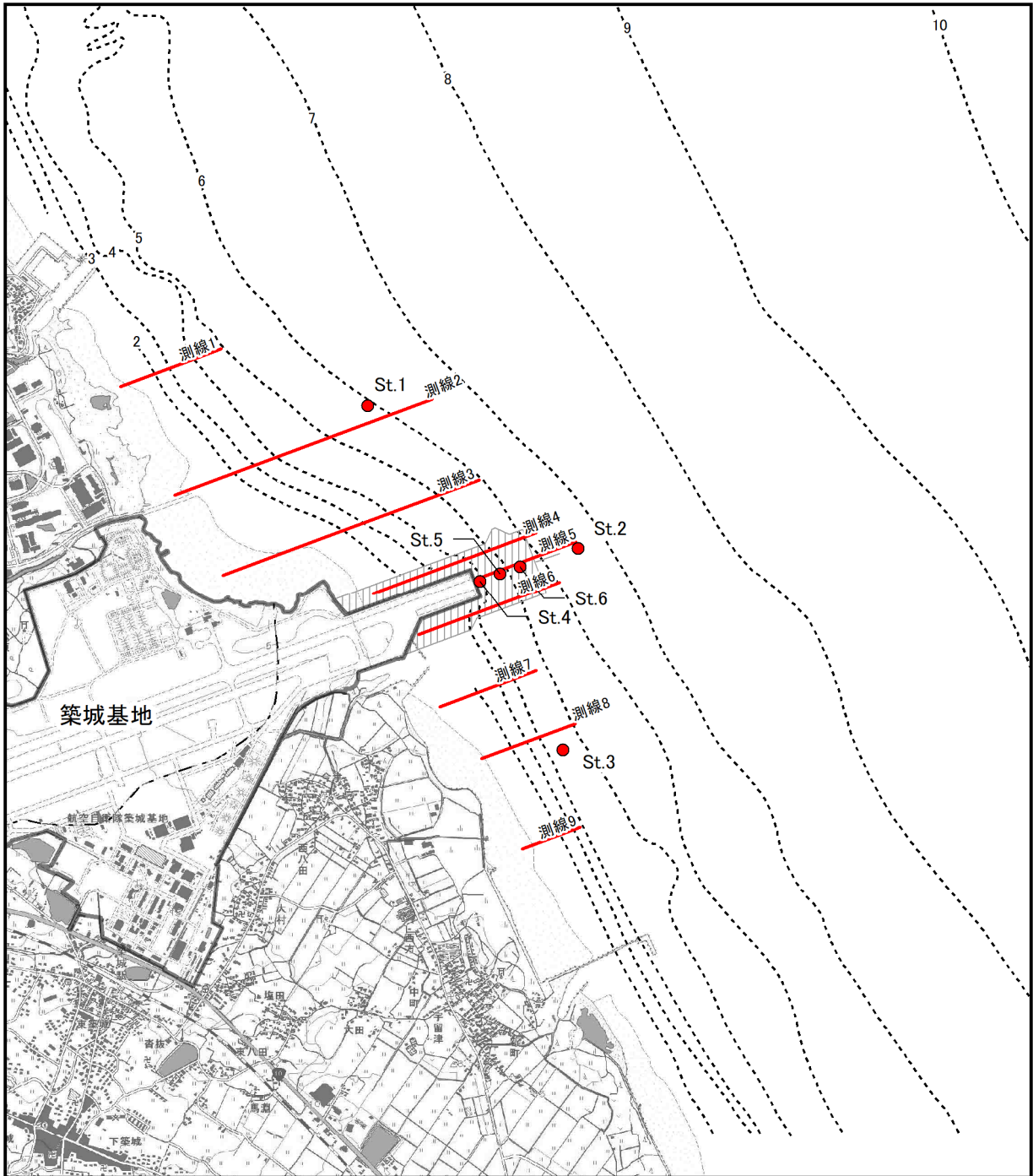
凡例

- ▨ 対象事業実施区域 ● 動物プランクトン・魚卵・稚仔魚調査地点
- ▭ 航空自衛隊 築城基地
- - 市町村界
- 等深線









0 500 1,000
m

図 8-7.2(1) 水生生物調査位置図
(動物プランクトン、魚卵・稚仔魚)



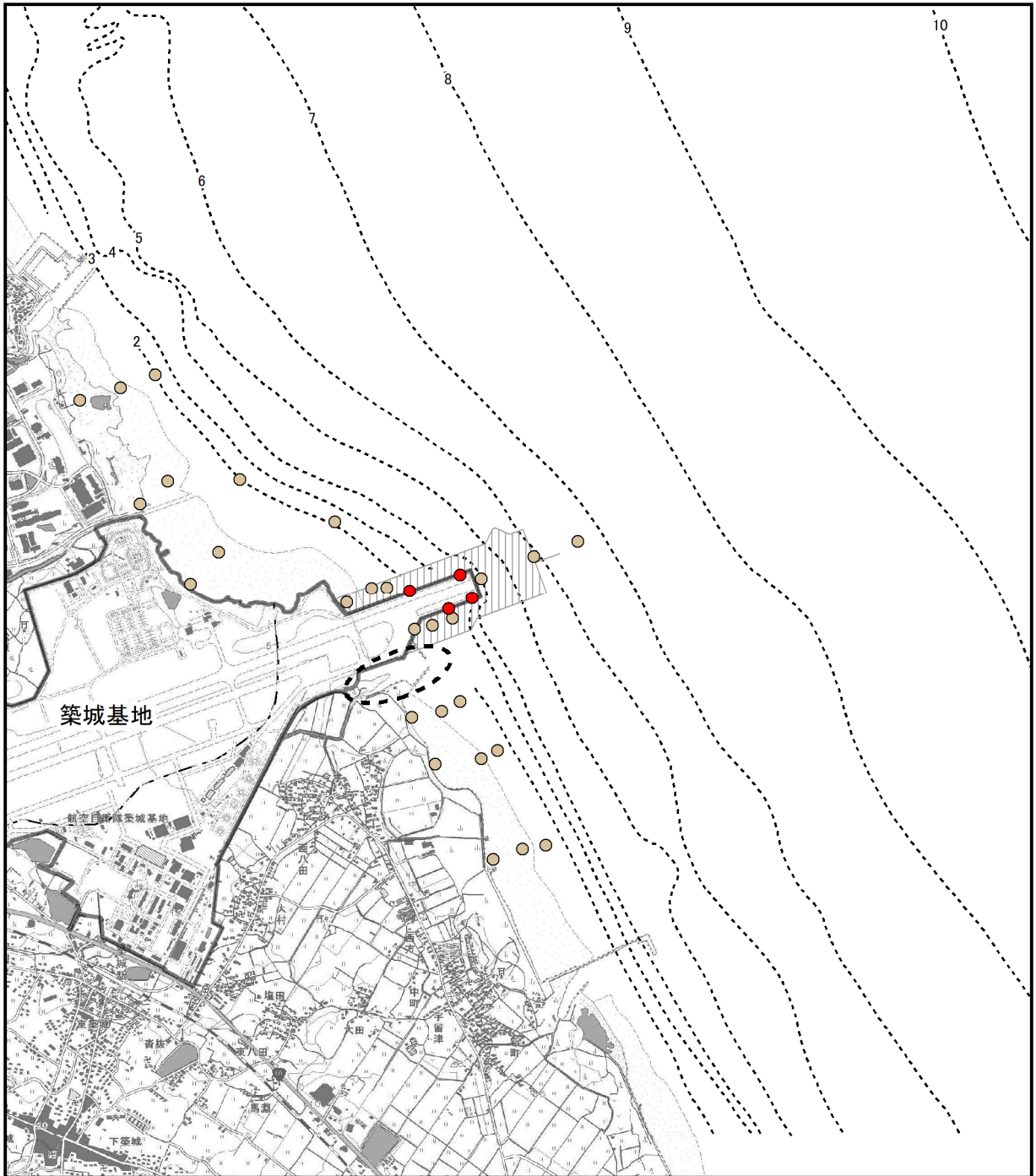
凡例

-  対象事業実施区域
-  底生生物調査地点
-  底生生物調査測線(潮下帯)
-  航空自衛隊 築城基地
-  市町村界
-  等深線



0 500 1,000 m

図 8-7.2(2) 水生生物調査位置図
(底生生物)



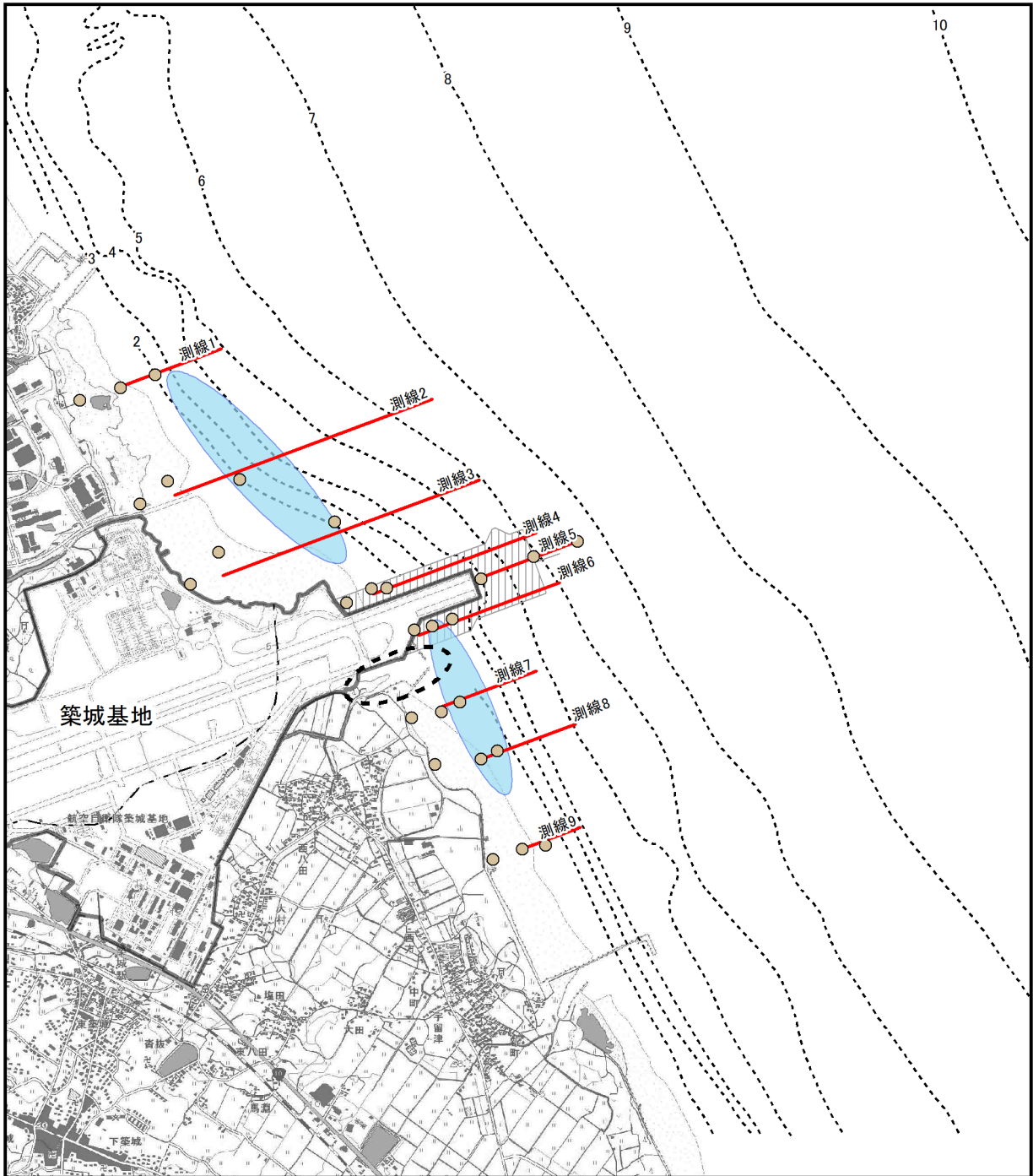
凡例

- 対象事業実施区域
- 航空自衛隊 築城基地
- - 市町村界
- - - 等深線
- 付着生物調査地点
- 干潟調査地点
- 汽水域調査地点



0 500 1,000 m

図 8-7.2(3) 水生生物調査位置図
(干潟生物、汽水域、付着生物、カブトガニ)



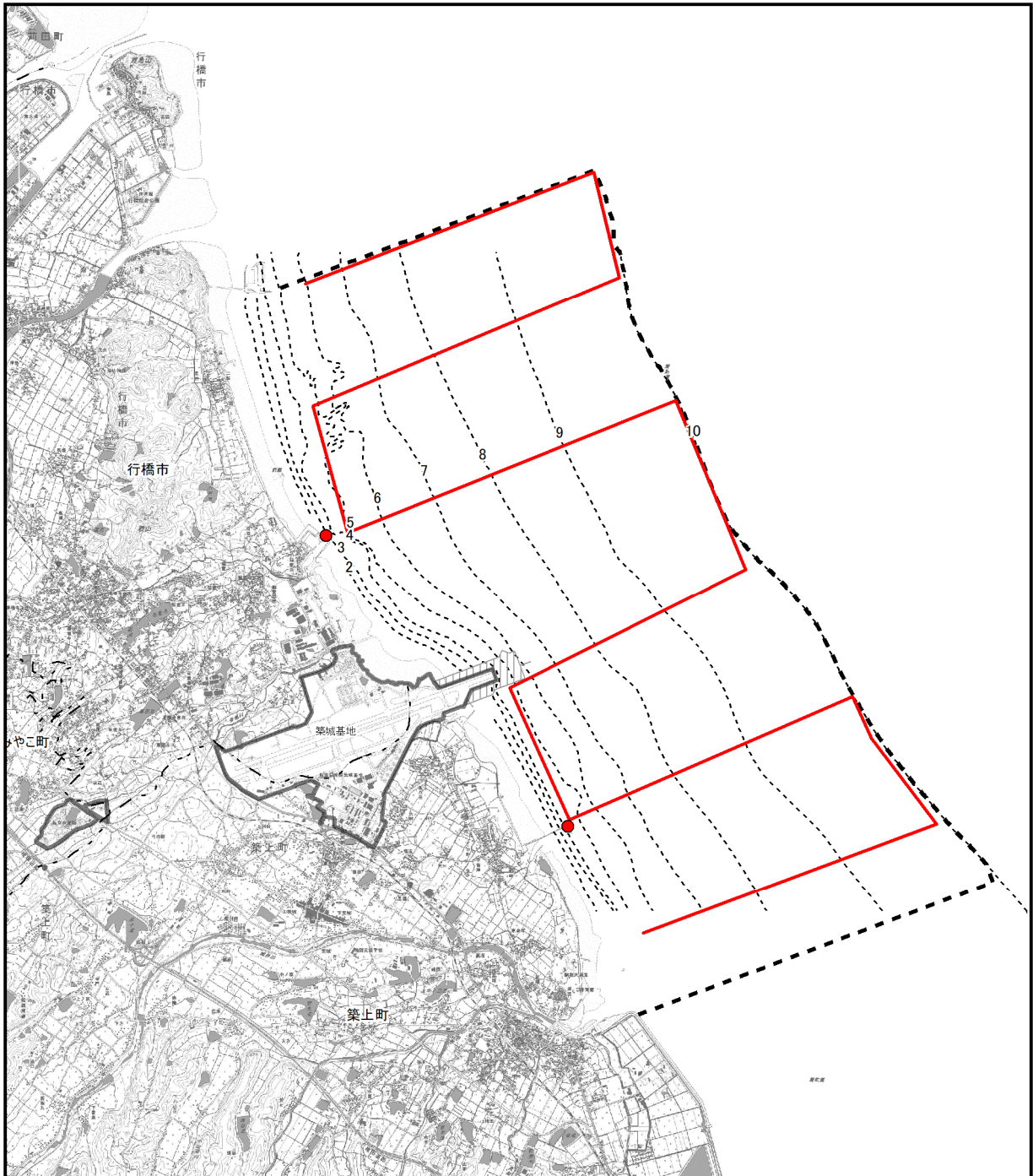
凡例

- ▨ 対象事業実施区域
- ▭ 航空自衛隊 築城基地
- - 市町村界
- ⋯⋯ 等深線
- 魚類調査地点(干潟)
- ▭ 魚類調査範囲(汽水域)
- 魚類調査測線(潮下帯)
- 魚類調査範囲(捕獲)



0 500 1,000 m

図 8-7.2(4) 水生生物調査位置図 (魚類)



凡例

- 対象事業実施区域
- 航空自衛隊 築城基地
- 市町村界
- 等深線
- 海生哺乳類調査地点
- 調査船航路
- 海生哺乳類調査範囲



0 1,000 2,000 m

図 8-7.2(5) 水生生物調査位置図
(海生哺乳類)

(3) 調査期間等

調査期間を表 8-7.2 に示します。

表 8-7.2(1) 調査期間一覧表

調査すべき情報	調査方法	調査地域・地点	調査期間等
陸上動物	哺乳類	無人撮影法、フィールドサイン法、任意観察法	図 8-7.1 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季、 (秋季: 令和 2 年 10 月 21 日、10 月 23 日、11 月 4 日、11 月 12 日) (冬季: 令和 3 年 2 月 15 日～16 日、2 月 24 日) (春季: 令和 3 年 5 月 13 日～14 日、5 月 21 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 5 日～6 日、7 月 15 日)
	鳥類	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	図 8-7.1 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季、 (秋季: 令和 2 年 10 月 21 日、10 月 23 日) (冬季: 令和 3 年 2 月 15 日～16 日) (春季: 令和 3 年 5 月 13 日～14 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 5 日～6 日) 調査時間帯: 満潮時及び干潮時
	爬虫類	捕獲法、目撃法	図 8-7.1 参照 調査時期: 秋季、春季、夏季、 (秋季: 令和 2 年 10 月 21 日、10 月 23 日) (春季: 令和 3 年 5 月 13 日～14 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 5 日～6 日)
	両生類	捕獲法、目撃法	図 8-7.1 参照 調査時期: 冬季、春季、夏季、 (冬季: 令和 3 年 2 月 15 日～16 日) (春季: 令和 3 年 5 月 13 日～14 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 5 日～6 日)
	昆虫類	スウィーピング法、ビーティング法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法	図 8-7.1 参照 調査時期: 秋季、春季、夏季、 (秋季: 令和 2 年 10 月 20 日～10 月 23 日) (春季: 令和 3 年 5 月 17 日～18 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 5 日～6 日)
水生生物	動物プランクトン	北原式定量ネットによる採集	図 8-7.2 参照 調査時期: 春季、夏季、秋季、冬季 (秋季: 令和 2 年 10 月 26 日) (冬季: 令和 3 年 1 月 6 日) (春季: 令和 3 年 4 月 15 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 12 日) 調査時間帯: 昼間
	魚卵、稚仔魚	丸稚ネットによる採集	図 8-7.2 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季 (秋季: 令和 2 年 10 月 25 日) (冬季: 令和 3 年 2 月 6 日) (春季: 令和 3 年 4 月 15 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 12 日) 調査時間帯: 昼間
	底生生物	スミス・マッキンタイヤ型採泥器による採泥、目視観察法	図 8-7.2 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季 (秋季: 令和 2 年 10 月 25 日～26 日) (冬季: 令和 3 年 1 月 22 日) (春季: 令和 3 年 4 月 15 日、20 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 12 日) 調査時間帯: 昼間 ※目視観察は水生植物調査と同一日程で行いました。

表 8-7.2(2) 調査時期一覧表

調査すべき情報	調査方法	調査地域・地点	調査期間等
水生生物	干潟生物	任意観察法	図 8-7.2 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季 (秋季: 令和 2 年 10 月 27 日～31 日) (冬季: 令和 3 年 2 月 1 日～3 日、5 日、9 日) (春季: 令和 3 年 4 月 22 日、25 日、27 日～30 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 24 日～27 日、8 月 7 日) 調査時間帯: 昼間
	汽水域	任意観察法 投網等による捕獲	図 8-7.2 参照 調査時期: 夏季 (夏季: 令和 3 年 7 月 10 日、8 月 23 日)
	付着生物	坪刈り法	図 8-7.2 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季 (秋季: 令和 2 年 10 月 27 日～31 日) (冬季: 令和 3 年 2 月 1 日～3 日、5 日、9 日) (春季: 令和 3 年 4 月 22 日、25 日、27 日～30 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 24 日～27 日、8 月 7 日) 調査時間帯: 昼間
	カブトガニ	任意観察法	図 8-7.2 参照 調査時期: 夏季、秋季 (夏季: 令和 3 年 6 月 25 日、7 月 9～10 日、24 日～25 日、8 月 6 日～7 日、8 月 23 日～24 日) (秋季: 令和 3 年 9 月 6 日～7 日、21 日～22 日) 調査時間帯: 満潮時及び干潮時
	魚類	潜水士による目視 投網等による捕獲	図 8-7.2 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季 (秋季: 令和 2 年 11 月 23 日～27 日、11 月 30 日～12 月 1 日) (冬季: 令和 3 年 1 月 18 日、2 月 9 日～12 日、2 月 22 日～23 日) (春季: 令和 3 年 4 月 19 日～24 日) (夏季: 令和 3 年 7 月 9～11 日、8 月 2 日～8 日、8 月 21 日～23 日) 調査時間帯: 昼間 ※目視観察は水生植物調査と同一日程で行いました。
	海生哺乳類 (スナメリ)	目撃法 定点観測法 任意観測法 (船舶による観測)	図 8-7.2 参照 調査時期: 秋季、冬季、春季、夏季 (秋季: 令和 2 年 10 月 29 日～30 日、11 月 26 日～27 日、令和 3 年 9 月 8 日) (冬季: 令和 2 年 12 月 22 日、令和 3 年 1 月 21 日、2 月 22 日) (春季: 令和 3 年 3 月 18 日、4 月 16 日、5 月 18 日) (夏季: 令和 3 年 6 月 17 日、7 月 15 日、8 月 17 日) 調査時間帯: 昼間
生息環境 (底質・基盤)	スミス・マッキンタイヤ型採泥器による採泥、目視観察法	底質は底生生物調査と同一地点(図 8-7.2 参照)で、基盤は水生植物調査と同一地点(図 8-6.2 参照)です。	調査時期: 冬季、夏季 (冬季: 令和 3 年 1 月 22 日) (夏季: 令和 2 年 6 月 1 日～2 日、7 月 27 日、令和 3 年 7 月 12 日) 調査時間帯: 昼間

(4) 調査手法

調査手法を表 8-7.3 に示します。

表 8-7.3(1) 調査項目別調査手法

調査すべき情報		調査手法	
陸上動物	哺乳類	無人撮影法	主に夜行性の哺乳類を対象に、哺乳類が頻繁に往来しているような「けものみち」などに無人撮影カメラを設置して撮影を行いました。
		フィールドサイン法	調査範囲内を任意に踏査し、足跡、糞、食痕、巣、爪痕、抜毛、掘り返し等のフィールドサインを観察・記録しました。
		任意観察法	双眼鏡等を用いて調査中に見かけた哺乳類の姿から種類を識別し、目撃した場所の状況と合わせて記録しました。
	鳥類	ラインセンサス法	調査範囲内に設定したルートを時速約 1.5 km～2km 程度の速さで歩きながら目撃や鳴き声により確認された鳥類を記録しました。
		定点観察法	調査範囲内の見晴らしのよい場所に設定した定点調査地点で約 1 時間程度観察しました。
		任意観察法	調査範囲内を任意に踏査し、確認した鳥類を記録しました。
	爬虫類	捕獲法	調査範囲内を任意に踏査し、確認された個体を、タモ網・素手により直接採集しました。
		目撃法	調査範囲内を任意に踏査し、目視確認した爬虫類を記録しました。
	両生類	捕獲法	調査範囲内を任意に踏査し、確認された個体を、タモ網・素手により直接採集しました。
		目撃法	調査範囲内を任意に踏査し、目視確認した爬虫類を記録しました。カエル類については、鳴き声での確認も記録しました。
	昆虫類	スウィーピング法	捕虫ネットを強く振り、草や木の枝の先端や、花をなぎ払うようにしてすくいとることで、木や草、花の上に静止している陸上昆虫類等を捕まえました。同じ場所で連続して捕虫ネットを振るのではなく、植生等の目的とする環境を決め、その中を移動しながら捕虫ネットを振るようにしました。
			ビーティング法
ライトトラップ法		夜間に灯火に集まる陸上昆虫類の習性を利用して採集する方法として、ボックス法を採用しました。	
ベイトトラップ法		地上を歩きまわる陸上昆虫類等を採集する方法で、1 地点につき 1 晩 10 個設置しました。	

表 8-7.3(2) 調査項目別調査手法

調査すべき情報		調査手法	
水生生物	動物プランクトン	定量ネットによる採集	北原式定量ネットを用いて海底面上 1.0m から海面までの鉛直曳きをして試料を採取しました。採取した試料は、3%程度ホルマリンで固定し、実験室に持ち帰り、出現種の同定・種類別個体数、沈殿量の計測を行いました。
	魚卵、稚仔魚	丸稚ネットによる採集	表層下 0.5m に丸稚ネットを設置し、船で 2 ノットの速度で水平方向に 10 分間曳網し、試料を採取しました。採取した試料は、5%程度の中性ホルマリンで固定後、魚卵と稚仔魚に分けて各々出現種の検索・同定、魚卵については卵数を、稚仔については個体数及び全長を計測しました。
	底生生物	採泥による採集	船上よりスミス・マッキンタイヤ型採泥器を用い、海底堆積物を 3 回採取しました。採取した堆積物を 1mm のふるいにかけて、残った生物を定量採集しました。採取した試料は 10%程度の中性ホルマリンにて固定し、出現種の検索・同定、種類別個体数、湿重量の計測を行いました。
		目視観察法	水生植物調査(藻場調査)と同じ測線上において、大型底生生物の目視観察を行いました。
	干潟生物	任意観察法	干潮時に干出した干潟を目視観察及び手網・ハンドスコープ等を用いて、大型底生生物等を記録しました。各区分で確認された代表的な生息環境(礫、砂等)において方形枠の動植物の種類及び被度について記録しました。
	付着生物	坪刈り法	既存滑走路の北側及び南側の既存護岸の各 2 地点において、低潮域、中潮域、高潮域における方形枠内(10cm×10cm)の生物を、スクレイパー等ではぎ取り、10%程度の中性ホルマリンで固定した後、分析室に持ち帰り、種の同定、個体数の計数、湿重量の測定を行いました。
	カブトガニ	目視観察法	海岸線や流入河川周辺において踏査・目視により本種の分布状況や産卵状況を確認しました。
		漁協への聞き取り	漁協に依頼し、定置網や底曳網等で本種が捕獲された場合、日付、写真、位置情報等を可能な限り記録しました。
	魚類	目視観察法	対象事業実施区域周辺に測線を設定し、その測線に沿って潜水土による目視観察を行いました。
		捕獲法	投網、地曳網、タモ網、定置網等による捕獲を行い種の同定を行いました。
	海生哺乳類 (スナメリ)	定点観測法	陸上の定点観測地点での調査は、双眼鏡、フィールドスコープを用いた目視観察により行いました。
		任意観察法	船を用いて、図 8-7.1 に示した航行ルートを 10 ノット以下の速度で巡回し目視観察を行いました。

表 8-7.3(3) 調査項目別調査手法

調査すべき情報		調査手法	
生息環境	生息環境 (底質・基盤)	採泥 (底質)	船上よりスミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて採泥し、室内分析により強熱減量、化学的酸素要求量 (COD)、全窒素 (T-N)、全リン (T-P)、硫化物、粒度組成について把握しました。
		目視観察法 (基盤)	潮間帯における底質の分布状況について、UAV 空撮結果を踏まえて整理しました。また、調査測線の底質状況について、潜水による目視観察により記録しました。

(5) 調査結果

動物の確認種数を表 8-7.4 に示します。

表 8-7.4 各動物調査における確認種数

分類	項目	確認種数
陸上動物	哺乳類	6 目 8 科 12 種
	鳥類	14 目 36 科 93 種
	爬虫類	2 目 7 科 11 種
	両生類	2 目 4 科 4 種
	昆虫類	16 目 163 科 597 種
水生生物	動物プランクトン	10 目 23 科 67 種
	魚卵・稚仔魚	3 目 4 科 10 種 (魚卵)
		5 目 10 科 12 種 (稚仔魚)
	底生生物	53 目 128 科 211 種
	干潟生物	41 目 92 科 155 種 (代表地点)
		18 目 54 科 103 種 (汽水域)
	付着生物	17 目 25 科 35 種
	カプトガニ	—
	魚類	12 目 43 科 102 種
海生哺乳類 (スナメリ等)	1 目 1 科 1 種	

① 陸上動物の状況

a. 哺乳類

現地調査結果を表 8-7.5 に示します。現地調査により、6 目 8 科 12 種の哺乳類が確認されました。

調査範囲全体において、一年を通じて確認された種は、コウベモグラ、ノウサギ、ネズミ科の一種、アライグマ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ属の一種、イタチ科の一種でした。これらの種はいずれも、福岡県内の平野部に広く分布します。コウベモグラ、タヌキ、キツネは、樹林環境、農耕地環境、河川環境等、様々な環境を利用します。また、ネズミ科の一種やテンは主に樹林環境を好み、アライグマやイタチ類は河川や農耕地の水路など、水辺環境を好みます。このほか、調査範囲では、草地環境においてカヤネズミ、樹林環境においてニホンアナグマやニホンジカが確認されました。

表 8-7.5 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期			
					令和2年	令和3年		
					10月・11月	2月	5月	7月
1	モグラ目	モグラ科	コウバモグラ	<i>Mogera wogura</i>	○	○	○	○
2	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科の一種	<i>Vespertilionidae</i> sp.	○			
3	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○	○	○	○
4	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	○	○		○
5			ネズミ科の一種	<i>Muridae</i> sp.	○	○	○	○
6	ネコ目	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	○	○	○	○
7		イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○	○	○	○
8			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	○	○	○	○
9		イタチ科	テン	<i>Martes melampus</i>	○	○	○	○
10			イタチ属の一種	<i>Mustela</i> sp.	○	○	○	○
11			ニホンアナグマ	<i>Meles meles anakuma</i>	○		○	○
-				イタチ科の一種	<i>Mustelidae</i> sp.	○	○	○
12	ウシ目	シカ科	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>			○	○
合計	6目	8科		12種	11種	9種	10種	11種

注:○は確認されたことを示します。

b. 鳥 類

現地調査結果を表 8-7.6 示します。現地調査により、14 目 36 科 93 種の鳥類が確認されました。

調査範囲全体において、一年を通じて確認された種は、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、シロチドリ、メダイチドリ、ミサゴ、カワセミ、モズ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等でした。これらの種のうち、カルガモ、カイツブリ、アオサギ、カワウ等は一般に河川や池沼等の水辺周辺で普通に見られる種群とされ、キジバトやヒヨドリ等は樹林やその林縁部を好む種群とされています。また、ヒバリ等は人工草地など丈の低い草が生える環境を好み、モズ、カワラヒワ、ホオジロ等は、林縁から農耕地に普通に見られる種群とされています。また、本調査では、海岸部という調査範囲の環境を反映して、海岸の砂浜や干潟等を好む、シロチドリやメダイチドリ等が確認されました。

なお、対象事業実施区域では、カルガモ、カワウ、ダイサギ、コサギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハクセキレイ、セグロセキレイが確認されましたが、これらの種は対象事業実施区域外においても確認されています。

表 8-7.6(1) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				
					令和2年		令和3年		
					10月	2月	5月	7月	
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>					
2			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○	○	○		
3	カモ目	カモ科	ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>		○			
4			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○	○			
5			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>		○			
6			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	○	○	
7			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	○	○			
8			コガモ	<i>Anas crecca</i>	○	○			
9			ホシハジロ	<i>Avthya ferina</i>	○	○			
10			キンクロハジロ	<i>Avthya fuligula</i>	○				
11				ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>		○		
12			カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	○	○
13			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>		○			
14	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	○	○	○	○	
15			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○	
16	カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	○	
17	バリカン目	サギ科	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○		○		
18			アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>			○		
19			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○	○	
20			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○	○	○	
21			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>			○		
22			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	○		
23	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>			○		
24			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	○	○	○		
25			オオバン	<i>Fulica atra</i>	○	○	○		
26	チドリ目	チドリ科	タグリ	<i>Vanellus vanellus</i>		○			
27			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>			○		
28			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>			○	○	
29			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	○	○	○	
30			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	○	○	○	○	
31		シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	○				
32			タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	○				
33			オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>			○		
34			チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>			○		
35			クサンシギ	<i>Tringa ochropus</i>	○	○	○		
36			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>			○		
37			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	○		
38			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>			○		
39			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	○	○			
40			カモメ科	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	○			
41		ウミネコ		<i>Larus crassirostris</i>	○			○	
42		セグロカモメ		<i>Larus argentatus</i>	○	○			
43		オオセグロカモメ		<i>Larus schistisagus</i>	○				
44	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○	○	
45		タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○	○	
46			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○				
47			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○				
48			サシバ	<i>Butastur indicus</i>			○		
49			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		○			
50	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>			○		
51	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	○	○	
52	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>		○	○	○	
53	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○				
54			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		○	○	○	
55	スズメ目	サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>		○			
56		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphona atrocaudata</i>			○		
57		モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	
58		カラス科	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	○	○	
59			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	
60		シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	○	○	
61			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>		○	○	○	
62		ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○	○	
63		ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>			○	○	
64		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○	
65		ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	○	
66	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>		○				

表 8-7.6(2) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				
					令和2年		令和3年		
					10月	2月	5月	7月	
67	スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	○		○	○	
68			ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>			○		
69		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	○	○	
70		ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>			○	○	
71		セッカ科	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>		○	○	○	
72		ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	○	○	
73		ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	○	○			
74			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○				
75			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○	○			
76			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		○			
77			ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	○				
78			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	○	○			
79			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○			
80			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>			○		
81			ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>			○		
82			スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	○
83			セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		○		
84				ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	○	○
85				セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	○	○
86		タヒバリ		<i>Anthus rubescens</i>	○	○			
87		アトリ科	カワラヒロ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	○	○	
88			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>		○			
89			イカル	<i>Eophona personata</i>		○	○		
90		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	○	
91			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>		○	○	○	
92			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>		○			
93			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>		○			
合計			14目	36科	93種	56種	62種	56種	36種

注:○は確認されたことを示します。

c. 爬虫類

現地調査結果を表 8-7.7 に示します。現地調査により、2 目 7 科 11 種の爬虫類が確認されました。

調査範囲全体において、3 季を通じて確認された種は、ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、シマヘビ、ニホンマムシでした。これらの種のうち、ミシシippアカミミガメは一般的に池沼、ニホンヤモリは人家周辺で普通にみられる種です。シマヘビは水田等の開けた環境で普通にみられ、マムシは森林とその周辺の田畑に生息するとされています。

なお、爬虫類の一般的な生態情報を踏まえて、冬季の調査は実施していません。

表 8-7.7 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期		
					令和2年		令和3年
					10月	5月	7月
1	カメ目	イシガメ科	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>		○	○
2		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	○	○	○
3	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	○	○	○
4		トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>			○
5		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>		○	○
6		ナミヘビ科	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	○	○	○
7			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		○	
8			ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>			○
9			シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>		○	
10			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>			○
11		クサリヘビ科	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	○	○	○
合計	2目	7科		11種	4種	8種	9種

注:○は確認されたことを示します。

d. 両生類

現地調査結果を表 8-7.8 に示します。現地調査により、2 目 4 科 4 種の両生類が確認されました。

なお、秋季に確認されたニホンアマガエルとウシガエルは、秋季の哺乳類・爬虫類調査時に確認されました。

調査範囲全体において確認された種は、アカハライモリ、ニホンアマガエル、ウシガエル、ヌマガエルでした。これらの種のうち、ニホンアマガエルやヌマガエルは水田やその周辺、ウシガエルはため池で普通にみられる種です。アカハライモリは、水田環境を好んで生息しますが、福岡県内では山間部の水田では多く観察されるものの、平地では確認できない場所もでてきています。

表 8-7.8 両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期			
					令和2年 (10月)	令和3年 2月	令和3年 5月	令和3年 7月
1	有尾目	イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>			○	○
2	無尾目	アマガエル科	ニホンアマガエル	<i>Drvophytes japonicus</i>	○		○	○
3		アカガエル科	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	○		○	○
4		ヌマガエル科	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>			○	○
合計	2目	4科	4種		2種	0種	4種	4種

注 1:○は確認されたことを示します。

注 2:10 月は秋季の哺乳類・爬虫類調査時に確認されたことを示します。

e. 昆虫類

現地調査結果を表 8-7.9 に示します。現地調査により、16 目 163 科 597 種の昆虫類が確認されました。

調査範囲全体において、3 季を通じて確認された種は、オオアオイトトンボやモリチャバネゴキブリ、ハマベハサミムシ、ツチイナゴ、ハマベアワフキ、マルカメムシ、アメンボ、ベニシジミ、コムスジ本州以南亜種、モンキチョウ、コアオハナムグリ、ナナホシテントウ、オオズアリ、オオスズメバチ等でした。これらの種のうち、ハマベハサミムシやハマベアワフキ等は一般的に海岸部の砂浜や草地で普通にみられる種群とされ、モリチャバネゴキブリやコムスジ本州以南亜種等は樹林やその林縁部を好む種群と言われています。また、ベニシジミやモンキチョウ等は畑地や草地環境を好み、オオアオイトトンボやアメンボ等は池沼や湿地などの水域で普通にみられる種群とされています。

表 8-7.9(1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期		
					令和2年	令和3年	
					10月	5月	7月
1	カゲロウ目 (蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバコカゲロウ	<i>Baetiella japonica</i>			
2		トビイロカゲロウ科	Choroterpes属	<i>Choroterpes</i> sp.	○		
3	トンボ目 (蜻蛉目)	アオイトトンボ科	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>	○		○
4			オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>	○	○	○
5		イトトンボ科	アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>		○	○
6			クロイトトンボ	<i>Paracercion calamarum calamarum</i>		○	
7		カワトンボ科	ハグロトンボ	<i>Atrocaopteryx atrata</i>	○		○
8			ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>		○	
9		ヤンマ科	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	○		
10			カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>			○
11		サナエトンボ科	タバサナエ	<i>Trigomphus eitimus tabei</i>		○	
12		トンボ科	コフキトンボ	<i>Deilelia phaon</i>		○	○
13			ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>		○	○
14			シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistrium speciosum</i>		○	○
15			ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>		○	○
16			コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>			○
17			チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>			○
18			コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>	○		
19			マユダテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	○		
20			マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i>			○
21			ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>			○
22			リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>	○		
23			タイリクアカネ	<i>Sympetrum striolatum imitoides</i>	○		
24	ゴキブリ目 (網翅目)	ゴキブリ科	クロゴキブリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i>	○		
25		チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	○	○	○
26	カマキリ目 (蟷螂目)	カマキリ科	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>	○		○
27			コカマキリ	<i>Stattilia maculata</i>	○		○
28			チョウセンカマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>			○
29			オオカマキリ	<i>Tenodera sinensis</i>	○		
30	ハサミムシ目 (革翅目)	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	<i>Anisobella marginalis</i>			○
31			ハマバハサミムシ	<i>Anisobasis maritima</i>	○	○	○
32		オオハサミムシ科	オオハサミムシ	<i>Labiatura riparia</i>			○
33	カワゲラ目 (セキ翅目)	オナシカワゲラ科	オナシカワゲラ	<i>Nemoura fulva</i>		○	
34	バッタ目 (直翅目)	コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>		○	
35		ツユムシ科	セスジツユムシ	<i>Duceia japonica</i>	○		
36			ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>	○	○	
37		キリギリス科	オナガササキリ	<i>Conocephalus exemptus</i>	○		
38			ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>	○		
39			ササキリ	<i>Conocephalus melaneus</i>	○		
40			ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>			○
41			クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>	○		
42			ニシキリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>		○	○
43		マツムシ科	クチキコオロギ	<i>Duolandrevus ivani</i>	○		
44			ヒロバネカント	<i>Oecanthus eurvelvra</i>	○		○
45		コオロギ科	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>	○		
46			クマコオロギ	<i>Mitius minor</i>	○		
47			エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>			○
48			ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>	○		
49		カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>	○		
50		ヒバリモドキ科	キンヒバリ	<i>Natula matsurai</i>	○		
51			シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>	○		
52		バッタ科	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	○		○
53			マダラバッタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>	○		○
54			ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>			○
55			トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>	○		○
56			ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>	○		
57			イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>	○		
58		イナゴ科	ハネナガイナゴ	<i>Oryza japonica</i>	○		
59			ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>	○	○	○
60		オンブバッタ科	オンブバッタ	<i>Attractomorpha lata</i>	○		
61		ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>		○	○
62	ナナフシ目 (竹節虫目)	ナナフシ科	ユダナナフシ	<i>Phraortes elongatus</i>	○		
63	カメムシ目 (半翅目)	ヒシウンカ科	ヒシウンカ	<i>Pentastiridius apicalis</i>		○	
64		ウンカ科	ヒメトビウンカ	<i>Laodelphax stratellus</i>	○		
65			タカサゴナガウンカ	<i>Stenocranus takasagonis</i>	○		
66			コブウンカ	<i>Tropidocephala brunneipennis</i>			○
67			ウンカ科	Delphacidae sp.			○
68		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	○		○
69		マルウンカ科	マルウンカ	<i>Gergithus variabilis</i>			○
70		ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonicus</i>			○
71			アミガサハゴロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>			○
72		セミ科	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>			○
73			ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>			○
74		ツノゼミ科	マルツノゼミ	<i>Gargara genistae</i>	○		
75			トビイロツノゼミ	<i>Machaerotropus sibiricus</i>		○	
76		アワフキムシ科	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i>			○
77			ハマベアワフキ	<i>Aphrophora maritima</i>	○	○	○
78			ヒメモンキアワフキ	<i>Aphrophora rugosa</i>	○	○	○
79		トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ	<i>Hindoloides bipunctata</i>		○	
80		ヨコバイ科	カンキツヒメヨコバイ	<i>Anbeliona ferruginea</i>			○
81			キスジミドリヒメヨコバイ	<i>Austroasca vittata</i>	○		
82			ミドリカスリヨコバイ	<i>Balclutha incisa</i>	○		
83			アカカスリヨコバイ	<i>Balclutha rubrinervis</i>	○		
84			ヒメカスリヨコバイ	<i>Balclutha saltuella</i>	○		
85			ヨツモンコヒメヨコバイ	<i>Emboascanara limbata</i>			○
86			クロミヤクイチモンジヨコバイ	<i>Exitianus indicus</i>	○	○	
87			ヒメクロミヤクイチモンジヨコバイ	<i>Exitianus nanus</i>			○
88			ヒシモンヨコバイ	<i>Hishimonus sellatus</i>			○
89			ヒトツメヒメヨコバイ	<i>Ishiharella polyphemus</i>	○		
			マエジロオオヨコバイ	<i>Kolla atramentaria</i>		○	○

表 8-7.9(2) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期			
					令和2年	令和3年		
					10月	5月	7月	
90	カメシ目 (半翅目)	ヨコバイ科	ツマグロヨコバイ	<i>Nephotettix cincticeps</i>		○		
91			Pagaronia属	<i>Pagaronia</i> sp.		○		
92			クロヒラタヨコバイ	<i>Penthimia nitida</i>		○		
93			マダラヨコバイ	<i>Psammotettix striatus</i>	○			
94			シラホシカシヨコバイ	<i>Scaphoideus festivus</i>			○	
95			Takagiella tezuvae	<i>Takagiella tezuvae</i>	○			
96			ホシヨコバイ	<i>Xestocephalus japonicus</i>			○	
-			ヨコバイ科	Cicadellidae sp.			○	
97			キジラミ科	クワキジラミ	<i>Anomoneura mori</i>			○
98			アブラムシ科	クリオオアブラムシ	<i>Lachnus tropicalis</i>			○
99		セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>			○		
100	グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>		○	○		
101	カスミカメムシ科	ナカグロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i>			○		
102		コアオカスミカメ	<i>Apolvgus lucorum</i>		○	○		
103		ツマグロハギカスミカメ	<i>Apolvgus subpulchellus</i>		○	○		
104		コムドリチビトビカスミカメ	<i>Campylomma livida</i>		○			
105		ネムチビトビカスミカメ	<i>Campylomma miyamotoi</i>			○		
106		カタグロミドリカスミカメ	<i>Cyrtorhinus lividipennis</i>	○				
107		Deraeocoris属	<i>Deraeocoris</i> sp.			○		
108		オオクロトビカスミカメ	<i>Ectometopterus micantulus</i>			○		
109		Lygocoris属	<i>Lygocoris</i> sp.			○		
110		オオチャイロカスミカメ	<i>Orientomiris tricolor</i>	○				
111		アスカジカスミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i>		○	○		
112		ウスモンミドリカスミカメ	<i>Tayloriivgus apicalis</i>	○				
113	オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	<i>Physopeletta gutta</i>	○				
114		ヒメホシカメムシ	<i>Physopeletta parviceps</i>			○		
115	ホシカメムシ科	クロホシカメムシ	<i>Pyrhocoris sinuaticollis</i>	○				
116	ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>	○	○			
117		ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus pedestris</i>	○	○	○		
118	ヘリカメムシ科	ホソズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>		○	○		
119		ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	○	○			
120		ハリカメムシ	<i>Cletus schmidtii</i>			○		
121		ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i>		○	○		
122		キバラヘリカメムシ	<i>Plinactus bicoloripes</i>		○			
123	ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhysus hvalinus</i>		○	○		
124		アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus maculatus</i>		○			
125		ケブカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus sapporensis</i>		○			
126		ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i>	○		○		
127	ナガカメムシ科	ヒメオオメナガカメムシ	<i>Geocoris proteus</i>			○		
128		オオメナガカメムシ	<i>Geocoris varius</i>		○			
129		ヒメダラナガカメムシ	<i>Graptostethus servus</i>			○		
130		ヨツボシヒョウダンナガカメムシ	<i>Gyndes pallicornis</i>		○			
131		オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochus abbreviatus</i>		○	○		
132		ヒメナガカメムシ	<i>Nrsius plebeius</i>		○	○		
133		ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>		○			
134		ミナミホソナガカメムシ	<i>Paromius exiguus</i>	○				
135		クロアシホソナガカメムシ	<i>Paromius jejunus</i>			○		
136		コバネヒョウダンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>	○				
137		ヒメジュウジナガカメムシ	<i>Tropidothorax sinensis</i>		○			
138	メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ	<i>Chaullions fallax</i>		○	○		
139	ツチカメムシ科	ツチカメムシ	<i>Macrosclerus japonensis</i>			○		
140	カメムシ科	ウズラカメムシ	<i>Aelia fieberii</i>			○		
141		ウシカメムシ	<i>Alcimocoris japonensis</i>		○	○		
142		ハナダカカメムシ	<i>Drbrowskia reticulata</i>			○		
143		ヒメナガメ	<i>Eurydema dominulus</i>		○	○		
144		ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>		○			
145		シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>		○			
146		クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>		○			
147		チャバネアオカメムシ	<i>Plautia stali</i>	○	○			
148		イネクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i>		○	○		
149		ルリクチフトカメムシ	<i>Zicrona caerulea</i>		○			
150	マルカメムシ科	マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>	○	○	○		
151	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	○	○	○		
152		ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>		○	○		
153		シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	○	○	○		
154	イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ	<i>Hydrometra procera</i>		○			
155	ミズカメムシ科	ムモンミズカメムシ	<i>Mesovelia miyamotoi</i>			○		
156	カタビロアメンボ科	ケシカタビロアメンボ	<i>Microvelia douglasi</i>	○				
157	ミズムシ科	Micronecta属	<i>Micronecta</i> sp.			○		
158		コムズムシ	<i>Sigara substriata</i>			○		
-		Sigara属	<i>Sigara</i> sp.			○		
159	コオイムシ科	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>			○		
160	タイコウチ科	ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>	○	○	○		
161	アミメカゲロウ目 (脈翅目)	ミズカゲロウ科	ミズカゲロウ	<i>Sisva nikkoana</i>		○		
162		クサカゲロウ科	ヨツボシクサカゲロウ	<i>Chrysopa ballens</i>		○		
163			ヤマトクサカゲロウ	<i>Chrysoperla nipponensis</i>	○			
164			ヒメニセコガタクサカゲロウ	<i>Pseudomallada alcestes</i>	○			
165		ヒメカゲロウ科	チャバネヒメカゲロウ	<i>Micromus numerosus</i>		○		
166	シリアゲムシ目 (長翅目)	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>		○		
167	トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche infascia</i>	○	○		
168			ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>		○		
169		クダトビケラ科	ウルマーシクダトビケラ	<i>Psychomyia acutipennis</i>		○		
-			Psychomyia属	<i>Psychomyia</i> sp.		○		
170			Tinodes属	<i>Tinodes</i> sp.		○		
171		ヒメトビケラ科	マツイヒメトビケラ	<i>Hydroptila phenatica</i>		○		
-			Hydroptila属	<i>Hydroptila</i> sp.		○		
172		アシエダトビケラ科	コバントビケラ	<i>Anisocentropus kawamurai</i>		○		
173		ニンギョウトビケラ科	クルビスビナニンギョウトビケラ	<i>Goera curvispina</i>		○		
174			ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>		○		
175		カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma japonicum</i>		○		

表 8-7.9(3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期		
					令和2年	令和3年	
					10月	5月	7月
176	トビケラ目(毛翅目)	トビケラ科	ツマグロトビケラ	<i>Phryganea japonica</i>		○	
177	チョウ目(鱗翅目)	ミノガ科	チャミノガ	<i>Eumeta minuscula</i>		○	
178			ニトベミノガ	<i>Mahasena aurea</i>		○	
179		ヒラタマルハキバガ科	フタテンヒラタマルハキバガ	<i>Agonopterix bipunctifera</i>	○		
180		マルハキバガ科	スジモンキマルハキバガ	<i>Periacta delegata</i>			○
181		ヒゲナガキバガ科	カクバネヒゲナガキバガ	<i>Leucithalaxa thiodora</i>		○	○
182		キバガ科	フタクロモンキバガ	<i>Anarsia bipinnata</i>		○	
183		ハマキガ科	セモンカギバヒメハマキ	<i>Ancylis mandarinana</i>		○	
184			グミツマジロヒメハマキ	<i>Apotomis geminata</i>			○
185			ウスアトキハマキ	<i>Archips semistructa</i>		○	
186			ヨモギネムシガ	<i>Epiblema foenella</i>		○	
187			スギヒメハマキ	<i>Epiblema sugii</i>		○	○
188			チャハマキ	<i>Homona magnanima</i>			○
189			コホソジハマキ	<i>Neocalyptis angustilineata</i>			○
190			フタモンコハマキ	<i>Neocalyptis litatana</i>			○
191			シロスマダラヒメハマキ	<i>Rhopobota toshimai</i>		○	
-			ハマキガ科	Tortricidae sp.		○	
192		イラガ科	キマダラテングイラガ	<i>Microleon decolatus</i>		○	
193		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys tethys</i>		○	○
194			クロセセリ	<i>Notocrypta curvifascia curvifascia</i>			○
195			イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>		○	
196			チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>	○	○	
197		シジミチョウ科	ムラサキツバメ	<i>Arhopala bazalus turbata</i>			○
198			ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>		○	○
199			ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>	○		○
200			ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>		○	○
201			ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	○		
202			ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas chinensis</i>	○	○	○
203			キマトシジミ本土亜種	<i>Zizeeria maha argia</i>		○	○
204		タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン	<i>Argvrens hyperbius hyperbius</i>		○	○
205			イシガケチョウ	<i>Cyrestis thiodamas mabella</i>		○	
206			ゴマダラチョウ本土亜種	<i>Hestina persimilis japonica</i>		○	○
207			クロヒカゲ本土亜種	<i>Lethe diana diana</i>		○	
208			テングチョウ日本本土亜種	<i>Libythea lepita celtoides</i>			○
209			イチモンジチョウ	<i>Limenitis camilla japonica</i>		○	
210			クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i>	○	○	
211			サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>		○	
212			コムシジ本州以南亜種	<i>Neptis sappho intermedia</i>	○	○	○
213			アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>		○	
214			キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	○	○	
215			ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>	○	○	○
216			アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>	○		
217			ヒメウラナミジャンメ	<i>Ypthima argus argus</i>		○	○
218		アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種	<i>Atrophaneura alcinous alcinous</i>			○
219			アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>	○		○
220			モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>	○	○	
221			キアゲハ	<i>Papilio machaon hippocrates</i>			○
222			クロアゲハ本土亜種	<i>Papilio protenor demetrius</i>	○		○
223			アゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	○	○	○
224		シロチョウ科	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographa</i>	○	○	○
225			キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>	○	○	○
226			スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>		○	
227			モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>		○	○
228		ツトガ科	ヒメトガリノメイガ	<i>Anania verbascalis</i>		○	
229			ツトガ	<i>Ancylolomia japonica</i>			○
230			シロモンノメイガ	<i>Bocchoris inpersalis</i>		○	
231			シロテンウスグロノメイガ	<i>Bradina atopalis erectalis</i>			○
232			サツマツトガ	<i>Calamotropha okanoi</i>			○
233			コブノメイガ	<i>Cnaphalocrocis medinalis</i>	○		
234			キアヤヒメノメイガ	<i>Diasemia accalis</i>		○	○
235			アヤナミノメイガ	<i>Eurrhparodes accessalis</i>			○
236			クロヘリキノメイガ	<i>Goniorhynchus butyrosus</i>			○
237			モンキクロノメイガ	<i>Herpetogramma luctuosale zelleri</i>		○	
238			マメノメイガ	<i>Maryca vitrata</i>	○		
239			ワモンノメイガ	<i>Nomophila noctuella</i>		○	
240			クロミスジノメイガ	<i>Omiodes similis</i>		○	
241			ハリジロキンノメイガ	<i>Paliga auratalis</i>			○
242			シバツトガ	<i>Parapediasia teterella</i>		○	○
243			クロテンシロミズメイガ	<i>Parapovnix diminutalis</i>			○
244			マエキツトガ	<i>Pseudocatharylla simplex</i>		○	
245		メイガ科	ツマグロシマメイガ	<i>Ariparra indicator</i>			○
246			アカシマメイガ	<i>Herculia pelasgalis</i>			○
247			ナカアサシマメイガ	<i>Tamraca torridalis</i>			○
-			メイガ科	Pvralidae sp.		○	
248		シャクガ科	ヒメダラエダシャク	<i>Abraxas nipponibia</i>		○	
249			ナカウスエダシャク	<i>Alcis angulifera</i>		○	
250			キエダシャク	<i>Auaxa sulphurea</i>		○	
251			ギンソジエダシャク	<i>Charaspilates formosaria</i>		○	
252			アカホシヒメアオシャク	<i>Comostola rubripunctata</i>		○	
253			アカアシアオシャク	<i>Culpinia diffusa</i>		○	
254			キオビベニヒメシャク	<i>Idaea impexa</i>		○	
255			ミジンキヒメシャク	<i>Idaea trisetata</i>		○	○
256			ナミガタウスキアオシャク	<i>Jodis lactearia</i>			○
257			エグリツマエダシャク	<i>Odontoptera arida arida</i>	○		
258			トビスジヒメナミシャク	<i>Orthonama obstipata</i>		○	
259			クロフヒメエダシャク	<i>Peratophyga grata grata</i>		○	
260			ギンバネヒメシャク	<i>Scopula epiorrhoe</i>			○
261			ハイイロヒメシャク	<i>Scopula impersonata macescens</i>		○	
262			モントビヒメシャク	<i>Scopula modicaria</i>		○	
263			ナガサキヒメシャク	<i>Scopula plumbearia</i>			○

表 8-7.9(4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期			
					令和2年	令和3年		
					10月	5月	7月	
264	チョウ目 (鱗翅目)	シャクガ科	ウスベニスジヒメシャク	<i>Timandra dichela</i>		○		
265			フタトビシジナミシャク	<i>Xanthorhoe hortensiararia</i>			○	
266		カレハガ科	マツカレハ	<i>Dendrolimus spectabilis</i>			○	
267			タケカレハ	<i>Euthrix albomaculata directa</i>		○		
268			クスギカレハ	<i>Kunugia undans flaveola</i>	○			
269		ヒトリガ科	キシタホソバ	<i>Eilema vetusta agrotata</i>		○		
270			クロテンハイイロコケガ	<i>Eugoa grisea grisea</i>		○		
271			ヒメホシキコケガ本十亜種	<i>Lyclene dharm butleri</i>			○	
272			クシヒゲコケガ	<i>Thumatha ochracea ochracea</i>			○	
273			マイマイガ	<i>Lymantria dispar japonica</i>		○		
274		ヤガ科	フタテンヒメヨトウ	<i>Acosmetia biguttula</i>		○		
275			チビウスキヨトウ	<i>Acrapex azumai</i>		○		
276			オオカブラヤガ	<i>Agrotis tokionis</i>	○			
277			カバマダラヨトウ	<i>Anapamea cuneatoides</i>	○			
278			フクラスズメ	<i>Arcte coerula</i>		○		
279			シロモンオビヨトウ	<i>Athetis lineosa</i>	○			
280			ヒメサビスジヨトウ	<i>Athetis stellata</i>			○	
281			ギシギシヨトウ	<i>Atrachea nitens</i>		○		
282			キシタバ	<i>Catocala patala</i>			○	
283			ホソバミドリヨトウ	<i>Euplexidia angusta</i>		○		
284			ウススキミスジアツバ	<i>Herminia arenosa</i>		○	○	
285			オオシラナミアツバ	<i>Hippopa fractalis</i>		○	○	
286			ゾトウスグロアツバ	<i>Hydrilodes lentalis</i>		○		
287			ウラジロアツバ	<i>Hvntrocon violacealis</i>		○		
288			チビアツバ	<i>Luceria fletcheri</i>			○	
289			シャクドウクチバ	<i>Mecodina nubiferalis</i>			○	
290			ウンモンクチバ	<i>Mocis annetta</i>	○			
291			オオウンモンクチバ	<i>Mocis undata</i>		○		
292			フタオビキヨトウ	<i>Mythimna turca</i>		○		
293			ウンモンツマキリアツバ	<i>Panorpa perturbans</i>			○	
294			キボシアツバ	<i>Paragabara flavomaculata</i>		○		
295			ウスグロセシジモンアツバ	<i>Paragona inchoata</i>		○	○	
296			ホソオビアセシブクチバ	<i>Paralleliia arctotaenia</i>	○			
297			ヨモギコヤガ	<i>Phyllonhila oblitterata cretacea</i>			○	
298			クロスジヒメアツバ	<i>Schrankia costaestrigalis</i>			○	
299			ハスオビヒメアツバ	<i>Schrankia separatalis</i>		○	○	
300			ニセアカマエアツバ	<i>Simplicia xanthoma</i>		○		
301			スジキリヨトウ	<i>Spodoptera depravata</i>		○	○	
302			サンカククチバ	<i>Trigonodes hypopasia hypopasia</i>	○			
303			ウスチャヤガ	<i>Aestia dilatata</i>	○			
304			コブガ科	イナズマコブガ	<i>Meganola triangulalis</i>			○
305		ハエ目 (双翅目)	ヒメガガンボ科	Antocha属	<i>Antocha sp.</i>		○	○
306				Libnotes puella	<i>Libnotes puella</i>	○		
307				ヒメガガンボ科	Limoniidae sp.			○
308			スカカ科	スカカ科	Ceratopogonidae sp.		○	
309			ケヨソイカ科	アカケヨソイカ	<i>Chaoborus crystallinus</i>	○	○	○
310			ユスリカ科	ダンダラヒメユスリカ	<i>Ablabesmyia monilis</i>		○	
311				クロユスリカ	<i>Benthalia dissidens</i>	○		
312				フチグロユスリカ	<i>Chironomus circumdatus</i>	○		○
313	ヒシモンユスリカ			<i>Chironomus flavipilum</i>			○	
314	ウスイロユスリカ			<i>Chironomus kiensis</i>			○	
315	ホンセスジユスリカ			<i>Chironomus nipodorsalis</i>		○	○	
316	オオユスリカ			<i>Chironomus plumosus</i>		○		
317	セスジユスリカ			<i>Chironomus voshimatsui</i>		○	○	
318	ミツオビツヤユスリカ			<i>Cricotopus trifasciatus</i>		○	○	
319	ユミナリホソミユスリカ			<i>Dicrotendipes nigrocephalicus</i>	○			
320	Dicrotendipes属			<i>Dicrotendipes sp.</i>			○	
321	ハイイロユスリカ			<i>Glyptotendipes tokunagai</i>	○			
322	Microtendipes属			<i>Microtendipes sp.</i>			○	
323	ミナミユスリカ			<i>Nilodorum taiwanus</i>	○			
324	ヤモンユスリカ			<i>Polypedilum nubifer</i>			○	
325	オオケバネユスリカ			<i>Polypedilum sordens</i>	○			
326	Polypedilum属			<i>Polypedilum sp.</i>	○			
327	ウスイロカユスリカ			<i>Procladius choreus</i>		○	○	
328	カスリモンユスリカ			<i>Tanytus formosanus</i>			○	
329	オオヤマヒゲユスリカ			<i>Tanytarsus oramai</i>			○	
330	カ科		Anopheles属	<i>Anopheles sp.</i>			○	
331	Pleciidae科		クロトゲナシケバエ	<i>Plecia adiastola</i>		○		
332	クロバネキノコバエ科		クロバネキノコバエ科	Sciaridae sp.			○	
333	ミズアブ科		エゾホソルリミズアブ	<i>Actina jezoensis</i>	○			
334			トゲナシミズアブ	<i>Allognosta vagans</i>		○		
335			ルリミズアブ	<i>Sargus nipponensis</i>	○			
336	アブ科		ヤマトアブ	<i>Tabanus rufidens</i>			○	
337	ムシヒキアブ科		アオメアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>	○		○	
338			ナミマギリケムシヒキ	<i>Neoltamus angusticornis</i>		○		
339			シオヤアブ	<i>Promachus vesonius</i>			○	
340	アシナガバエ科		Dolichopus属	<i>Dolichopus sp.</i>			○	
341			アシナガバエ科	Dolichopodidae sp.			○	
342	ハナアブ科		クロヒラタアブ	<i>Betasyrphus serarius</i>	○	○		
343			Cheilosia属	<i>Cheilosia sp.</i>	○			
344			アイノオビヒラタアブ	<i>Epistrophe aino</i>		○	○	
345			ホソヒラタアブ	<i>Episyrrhus balteatus</i>	○	○		
346			キゴシハナアブ	<i>Eristalinus quinquestriatus</i>	○			
347			ナミハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>			○	
348			ナミホシヒラタアブ	<i>Eupeodes bucculatus</i>		○		
349			フタホシヒラタアブ	<i>Eupeodes corollae</i>		○		
350			アシブトハナアブ	<i>Helophilus eristaloideus</i>		○		
351			ホソツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma mellinum</i>		○		
352			ホシツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma scalare</i>		○		
353			オオハナアブ	<i>Phytomyia zonata</i>	○			

表 8-7.9(5) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期			
					令和2年	令和3年		
					10月	5月	7月	
350	ハエ目 (双翅目)	ハナアブ科	ミナミヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria indiana</i>			○	
351			ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>	○	○		
352			マガイヒラタアブ	<i>Syrphus dubius</i>	○			
353			ケヒラタアブ	<i>Syrphus torvus</i>		○		
354			ヨツボシヒラタアブ	<i>Xanthandrus comtus</i>		○		
355			ナミルリイロハラナガハナアブ	<i>Alyota amamiensis</i>			○	
356			ノミバエ科	ノミバエ科	Phoridae sp.		○	○
357			キモグリバエ科	キモグリバエ科	Chloropidae sp.			○
358			ハマベバエ科	ハマベバエ	<i>Coelopa frigida</i>	○		
359			ショウジョウバエ科	カオジロショウジョウバエ	<i>Drosophila auraria</i>		○	
360		オオショウジョウバエ		<i>Drosophila immigrans</i>		○		
361		ムナスジショウジョウバエ		<i>Drosophila rufa</i>		○		
-		Drosophila属		<i>Drosophila</i> sp.			○	
362		クロツヤショウジョウバエ		<i>Scaptodrosophila coracina</i>		○		
363		ミギロバエ科	カサネトビクチミギロバエ	<i>Brachydeutera longipes</i>			○	
364		シマバエ科	Homoneura属	<i>Homoneura</i> sp.			○	
365		ヒロクチバエ科	<i>Elassogaster hilgendorffi</i>	<i>Elassogaster hilgendorffi</i>		○		
366			ムネアカマダラバエ	<i>Rivellia basilaris</i>		○		
367		ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon aenesens</i>	○			
368		ツヤホソバエ科	ヒトテンツヤホソバエ	<i>Sepsis monostigma</i>			○	
369		ハヤトビバエ科	ハヤトビバエ科	Sphaeroceridae sp.		○		
370		ミバエ科	タラノキハマダラミバエ	<i>Pseudhemilea longistigma</i>		○		
371		ハナバエ科	タネバエ	<i>Delia platara</i>	○	○		
372		クロバエ科	コチビクロバエ	<i>Onesia nartshukae</i>	○	○		
373			ツマグロキンバエ	<i>Stomoxhina obsoleta</i>	○	○		
374			フタオクロバエ	<i>Triceratopyga calliphoroides</i>		○		
375			イエバエ科	Atherigona属	<i>Atherigona</i> sp.	○		
376			アシマダラハナレメイバエ	<i>Coenosia variegata</i>		○		
-			Coenosia属	<i>Coenosia</i> sp.			○	
377			ヒメセマダライエバエ	<i>Graphomya rufitibia</i>			○	
378			シナホソカトリバエ	<i>Lispe leucospila sinica</i>			○	
379			Myospila属	<i>Myospila</i> sp.			○	
380			ハリグロハナレメイバエ	<i>Orchisia costata</i>	○			
381			シリモチハナレメイバエ	<i>Pygophora confusa</i>	○			
382		ニクバエ科	ホンシュウホソクバエ	<i>Goniphoto honshuensis</i>	○	○		
383			シリグロニクバエ	<i>Sarcophaga melanura</i>		○		
384			Sarcophaga属	<i>Sarcophaga</i> sp.			○	
385		ヤドリバエ科	ノコギリハリバエ	<i>Comptosia concinnata</i>		○		
386	カイコノウジバエ		<i>Blepharipa zebina</i>		○			
387	セスジハリバエ		<i>Tachina (Eudoromyia) nupta</i>		○			
388	ルリハリバエ		<i>Gymnochaeta viridis</i>		○			
-	ヤドリバエ科		ヤドリバエ科	Tachinidae sp.			○	
389	コウチュウ目 (鞘翅目)	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ	<i>Brachinus scotomedes</i>			○	
390			オサムシ科	キイロチビゴモクムシ	<i>Acupalpus inornatus</i>		○	
391			アオグロヒラタゴミムシ	<i>Agonum chalconum</i>			○	
392			ニセマルガタゴミムシ	<i>Amara congrua</i>	○			
393			オオホシボシゴミムシ	<i>Anisodactylus sadoensis</i>		○	○	
394			キペリゴモクムシ	<i>Anoplogenus cyanescens</i>		○	○	
395			アトモンミズギワゴミムシ	<i>Bembidion niloticum batesi</i>			○	
396			マイマイカブリ	<i>Carabus hlantoides hlantoides</i>	○			
397			アオゴミムシ	<i>Chaenius pallipes</i>			○	
398			ヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina niponensis</i>		○		
399			アオヘリホソゴミムシ	<i>Drypta japonica</i>			○	
400			スジアオゴミムシ	<i>Hanlochaenius costiger</i>		○		
401			ダナカツヤハネゴミムシ	<i>Harpalomimetes orbicollis</i>			○	
402			ケウスゴモクムシ	<i>Harpalus griseus</i>			○	
403			クビナガゴモクムシ	<i>Oxycentrus argutoroides</i>			○	
404			ヒラタアトキリゴミムシ	<i>Parena cavipennis</i>			○	
405			オオクロナガゴミムシ	<i>Pterostichus japonicus</i>			○	
406			ミドリマメゴモクムシ	<i>Stenolophus difficilis</i>			○	
407			マルガタツキヒラタゴミムシ	<i>Synuchus arcuaticollis</i>	○			
408			ルイスオオゴミムシ	<i>Trigonotoma lewisii</i>		○		
409		ハンミョウ科	エリザハンミョウ	<i>Cylindera elisae elisae</i>			○	
410			ゲンゴロウ科	ヒコサンセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus takakurai</i>			○
411				コガタノゲンゴロウ	<i>Cybister tripunctatus lateralis</i>	○		
412				ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes griseus</i>			○
413				ウスイロシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus rhantoides</i>	○		○
414		チビゲンゴロウ		<i>Hydrogylphus japonicus</i>			○	
415		ヒゲトオサムシ科	エグリゴミムシ	<i>Eustra japonica</i>			○	
416			ガムシ科	トゲバゴマフガムシ	<i>Berosus lewisius</i>		○	○
417				セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i>			○
418				キペリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i>			○
419				スジヒラタガムシ	<i>Helochares nipponicus</i>			○
420				コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>			○
421				ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>			○
422				タマキノコムシ科	ウスイロヒメタマキノコムシ	<i>Pseudocolenis hilleri</i>		
423		シデムシ科		オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>		○	○
424		ハネカクシ科	アカバアバウミベハネカクシ	<i>Cafius rufescens</i>		○		
425			オオアバウミベハネカクシ	<i>Cafius vestitus</i>		○		
426			キバネヒメユセシハネカクシ	<i>Carpelimus siamensis</i>		○		
427	ニセヒメユセシハネカクシ		<i>Carpelimus vagus</i>		○			
428	サキアカバツツナガハネカクシ		<i>Lobrathium partitum</i>			○		
429	アオアバアガタハネカクシ		<i>Paederus fuscipes</i>		○			
430	ツヤウミベコガシラハネカクシ		<i>Philonthus nudus</i>			○		
431	ニセヒゲナガコガシラハネカクシ		<i>Philonthus wuesthoffi</i>			○		
432	Phucobius属		<i>Phucobius</i> sp.		○			
433	アバウツヤムハネカクシ		<i>Rientis parviceps</i>			○		
434	ヤマトニセユセシハネカクシ	<i>Thinodromus japonicus</i>			○			
435	マルハナノミ科	トビイロマルハナノミ	<i>Scirtes japonicus</i>	○		○		
	コガネムシ科	コイチャコガネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>		○			

表 8-7.9(6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期			
					令和2年		令和3年	
					10月	5月	7月	
436	コウチュウ目 (鞘翅目)	コガネムシ科	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa albopilosa</i>			○	
437			ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i>			○	
438			ヒメサクラコガネ	<i>Anomala geniculata</i>			○	
439			オオカンショコガネ	<i>Apogonia major major</i>		○	○	
442			セマダラコガネ	<i>Blitopertha orientalis</i>		○	○	
440			アオハナムグリ	<i>Cetonia roelofsi roelofsi</i>			○	
441			ヒメアシナガコガネ	<i>Ectinohoplia obducta</i>		○	○	
443			コアオハナムグリ	<i>Gametis jucunda</i>	○	○	○	
444			マルガタビロウドコガネ	<i>Maladera secreta</i>			○	
445			サツマコフキコガネ	<i>Melolontha satsumaensis satsumaensis</i>			○	
446			コガネムシ	<i>Mimela splendens</i>		○	○	
447			ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>		○	○	
448			マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>			○	
449			シラホシハナムグリ	<i>Protaetia brevitarsis brevitarsis</i>			○	
450			カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>			○	
451			マルトゲムシ科	シラフチビマルトゲムシ	<i>Simplicaria bicolor</i>	○		
452			ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ	<i>Leptelmis gracilis</i>			○
453				イブシアシナガドロムシ	<i>Stenelmis nipponica</i>			○
454			ヒラタドロムシ科	マサダチヒラタドロムシ	<i>Malacopsphenoides japonicus</i>		○	
455			ナガハナノミ科	ヒゲナガハナノミ	<i>Paralichas pectinatus</i>		○	
456			タマムシ科	ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrius discalis</i>		○	
457				クズノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>			○
458			コメツキムシ科	サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>		○	○
459				チャイロコメツキ	<i>Haterumelater bicarinatus bicarinatus</i>			○
460				クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>		○	
461			アカアシコハナコメツキ	<i>Paracardiophorus sequens sequens</i>			○	
462			ヒゴコメツキ	<i>Pectocera hige hige</i>		○		
463			クチプトコメツキ	<i>Silesis musculus musculus</i>			○	
464		ジョウカイボン科	ジョウカイボン西日本亜種	<i>Lycocerus suturellus luteipennis</i>		○		
465			セボシジョウカイ	<i>Lycocerus vitellinus</i>		○		
466		ジョウカイモドキ科	ヒロオビジョウカイモドキ	<i>Intybria historio</i>	○			
467			クロキオビジョウカイモドキ	<i>Intybria nipponicus</i>			○	
468			ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i>		○		
469		ムクゲクシイムシ科	ケマダラムクゲクシイ	<i>Biphylus flexiosus</i>	○			
470		テントウムシ科	ハラグロオオテントウ	<i>Callicaria superba</i>		○		
471			ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus kuwanae</i>		○		
472			ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	○	○	○	
473			ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>		○	○	
474			ニジュウヤホシテントウ	<i>Henosepilachna vigintioctopunctata</i>			○	
475			フタホシテントウ	<i>Hyperaspis japonica</i>	○			
476			ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>		○	○	
477			キアシクロヒメテントウ	<i>Stethorus japonicus</i>	○			
478		テントウムシダマシ科	キイロテントウダマシ	<i>Saula japonica</i>	○			
479		ヒメマキムシ科	ウスチャクシマキムシ	<i>Corticaria gibbosa</i>			○	
480		ゲンキクシイ科	ドウイロムクゲクシイ	<i>Aethina aeneipennis</i>		○		
481		アカマダラゲンキクシイ	<i>Phenolia picta</i>		○			
482		マルキマダラゲンキクシイ	<i>Stelidota multiguttata</i>			○		
483		カタベニデオキスイ	<i>Urophorus humeralis</i>	○				
484	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ	<i>Formicomus braminus coffaiti</i>			○		
485	ニセクビボソムシ科	ヤマトニセクビボソムシ	<i>Pseudotolotus japonicus</i>			○		
486	カミキリモドキ科	キアシカミキリモドキ	<i>Oedemera manicata</i>		○			
487	ゴミムシダマシ科	ゴモクムシダマシ	<i>Blindus strigosus</i>			○		
488		ニシズビロキマワリモドキ	<i>Gnesis haagi</i>		○			
489		コソナゴミムシダマシ	<i>Gonoccephalus coriaceum</i>			○		
490		アカツヤバネクシムシ	<i>Hymenalia rufipennis</i>		○			
491		テントウゴミムシダマシ	<i>Leiochrinus satzuma</i>			○		
492	カミキリムシ科	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>			○		
493		クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>		○	○		
494		シロスジカミキリ	<i>Batocera lineolata</i>			○		
495		ラミーカミキリ	<i>Paraglenea tortunei</i>		○			
496		キボシカミキリ	<i>Psacothoe hilaris hilaris</i>			○		
497		トガリシロオビサビカミキリ	<i>Pterolophia caudata caudata</i>			○		
498	ハムシ科	イチゴカミナリハムシ	<i>Altica fragariae</i>			○		
-		Altica属	<i>Altica</i> sp.	○				
499		サメハダツブノミハムシ	<i>Aphthona strigosa</i>	○				
500		ウリハムシ	<i>Aulacophora indica</i>	○	○			
501		クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis nigripennis</i>	○	○	○		
502		アオバネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>			○		
503		ハラグロヒメハムシ	<i>Charaea cvaneus</i>		○			
504		キバラヒメハムシ	<i>Charaea flaviventre</i>		○			
505		ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>		○			
506		ハツカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>	○				
507		ヤナギハムシ	<i>Chrysomela vigintipunctata</i>		○			
508		イモサルハムシ	<i>Colasposoma dauricum</i>			○		
509		バラルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>		○			
510		キボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus perelegans perelegans</i>		○			
511		マダラカサハラハムシ	<i>Demotina fasciculata</i>		○			
512		ジュンサイハムシ	<i>Galerucella nipponensis</i>	○		○		
513		イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>			○		
514		トホシハムシ	<i>Gonioctena japonica</i>			○		
515		フジハムシ	<i>Gonioctena rubripennis</i>		○	○		
516		ドウガネサルハムシ	<i>Heteraspis lewisii</i>	○	○	○		
517		クロオビカサハラハムシ	<i>Hvneraxia fasciata</i>	○				
518		ヨツモンカメノハムシ	<i>Lacoptera nepalensis</i>			○		
519		ヨモギアシナガトビハムシ	<i>Longitarsus succineus</i>		○			
520		スイバトビハムシ	<i>Mantura clavareau</i>		○			
521		ブタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i>			○		
522		ヨツボシハムシ	<i>Paridea quadrilagiata</i>		○	○		
523		ナトビハムシ	<i>Psylliodes punctifrons</i>	○	○			
524		エノキハムシ	<i>Pyrrhalta tibialis</i>			○		

表 8-7.9(7) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期				
					令和2年	令和3年			
					10月	5月	7月		
525	コウチュウ目 (鞘翅目)	ハムシ科	ルイスジンガサハムシ	<i>Thlaspida lewisii</i>		○			
526		ホソクチゾウムシ科	アザミホソクチゾウムシ	<i>Piezotrachelus japonicus</i>			○		
527		オトシブミ科	チャイロチョッキリ	<i>Aderorhinus crioceroides</i>		○			
528		ゾウムシ科		ダイコンサルゾウムシ	<i>Ceutorhynchus albosuturalis</i>		○		
529				アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera nostica</i>	○			
530				ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>	○			
531				ハスジカツオゾウムシ	<i>Lixus acutipennis</i>		○		
532				カツオゾウムシ	<i>Lixus impressiventris</i>			○	
533				クリアナアキゾウムシ	<i>Pimeleocerus exculptus</i>		○		
534				スグリゾウムシ	<i>Pseudocneorhinus bifasciatus</i>		○	○	
535				ヒレルクチブトゾウムシ	<i>Pseudoeophrys hilleri</i>			○	
536				アラハダクチカクシゾウムシ	<i>Rhadinopus sulcastrostratus</i>			○	
537				Rhynchaenus属	<i>Rhynchaenus</i> sp.	○			
538			オオゾウムシ科	オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas gigas</i>			○	
539		ハチ目 (膜翅目)	ミツシハバチ科	ルリチユウレンジ	<i>Arge similis</i>		○		
540			ハバチ科		ハグロハバチ	<i>Allantus luctifer</i>			○
541					イヌノフグリハバチ	<i>Athalia kashmirensis</i>	○		
542					カブラハバチ	<i>Athalia rosae ruficornis</i>			○
543					クロムネハバチ	<i>Lacidina irritans</i>		○	
544					オオツマグロハバチ	<i>Tenthredo providens</i>		○	
545	ヒメバチ科			アオムシヒラタヒメバチ	<i>Itonolectis narayae</i>		○		
546				キオビコシブトヒメバチ	<i>Metopijs (Metopijs) bromi</i>		○		
547				カラフトコンボウメバチ	<i>Heteropelma amictum</i>			○	
548				マダラヒメバチ	<i>Pterocormus generosus</i>		○		
549	アリ科		オオハリアリ	<i>Brachyponera chinensis</i>			○		
550			クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>			○		
551			ウメマツオオアリ	<i>Camponotus vitiosus</i>	○		○		
552			ツヤシリアゲアリ	<i>Crematogaster nawai</i>			○		
553			キイロシリアゲアリ	<i>Crematogaster osakensis</i>	○		○		
554			テラニシリアゲアリ	<i>Crematogaster teranishii</i>			○		
555			クロヤマアリ	<i>Formica japonica (s. l.)</i>	○		○		
556			トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>		○	○		
557			ヒラアシクサアリ	<i>Lasius spathepus</i>			○		
558			クロヒメアリ	<i>Monomorium chinense</i>	○		○		
559			ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>	○				
560			アメイロアリ	<i>Nylanderia flavipes</i>	○	○	○		
561			サクラアリ	<i>Paraparatrechina sakurae</i>	○		○		
562			オオズアリ	<i>Pheidole nodus</i>	○	○	○		
563			アミメアリ	<i>Pristomyrmex punctatus</i>	○		○		
564			ウロアリ	<i>Strumigenys lewisi</i>			○		
565			ムネボソアリ	<i>Tennothorax congruus</i>			○		
566			トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>		○	○		
567			ウメマツアリ	<i>Vollenhovia emeri</i>			○		
568		スズメバチ科		キボシトックリバチ	<i>Eumenes fraterculus</i>			○	
569			ミカドトックリバチ	<i>Eumenes micado</i>			○		
570			カバオビドロバチ本土亜種	<i>Euodynerus dantici violaceipennis</i>			○		
571			フタモンアシナガバチ本土亜種	<i>Polistes chinensis antennalis</i>	○				
572			ヤマトアシナガバチ	<i>Polistes japonicus</i>		○			
573			セグロアシナガバチ本土亜種	<i>Polistes yokahamae yokahamae</i>	○	○	○		
574			キアシナガバチ本土亜種	<i>Polistes rothneyi iwatai</i>	○				
575			キオビチビドロバチ	<i>Stenodynerus frauenfeldi</i>			○		
576			ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis</i>			○		
577			オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia</i>	○	○	○		
578		キイロスズメバチ	<i>Vespa simillima</i>			○			
579		クロスズメバチ	<i>Vespa flaviceps</i>	○		○			
580	クモバチ科		キダククロクモバチ	<i>Anoplius petiolaris</i>		○			
581			オオモンクモバチ	<i>Anoplius samariensis</i>			○		
582			オオヒメクモバチ	<i>Anoplius privalis</i>		○			
583	コツチバチ科		バッコウクモバチ	<i>Cyphononyx fulvognathus</i>			○		
584			アカハコツチバチ本土沖縄亜種	<i>Tiphia rufomandibulata rufomandibulata</i>			○		
585			ニカコツチバチ	<i>Tiphia sternata</i>	○				
586	ツチバチ科		コモンツチバチ	<i>Scolia decorata ventralis</i>			○		
587	フシダカバチ科		ヒメツチスガリ	<i>Cerceris carinalis</i>			○		
588	アナバチ科		サトジガバチ	<i>Ammophila vagabunda</i>			○		
589	ミツバチ科		セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>	○	○	○		
590			ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Eucera nipponensis</i>		○			
591			シロスジヒゲナガハナバチ	<i>Eucera spurcatipes</i>		○			
592			ダイミョウキマダラハナバチ	<i>Nomada japonica</i>		○			
593	ムカシハナバチ科		アシブトムシハナバチ	<i>Colletes patellatus</i>	○				
594	コハナバチ科		アカガネコハナバチ	<i>Halictus aerarius</i>	○		○		
595			ニッポンカタコハナバチ	<i>Lasioglossum nipponicola</i>		○	○		
596			シロスジカタコハナバチ	<i>Lasioglossum occidens</i>			○		
597			フタモンカタコハナバチ	<i>Lasioglossum scitulum</i>	○				
合計	16目	163科		597種	181種	282種	307種		

注:○は確認されたことを示します。

② 水生生物の状況

a. 動物プランクトン

現地調査の結果を表 8-7. 10 に示します。現地調査により、10 目 23 科 67 種の動物プランクトンが確認されました。

年間を通じて確認された種数は、いずれの季節においても 30 種程度で、多くは全国的に普通にみられる種でした。なお、確認された動物プランクトンの約半分は、節足動物門に分類されるものでした。

この他、多毛綱、二枚貝綱、腹足綱をはじめとする底生生物等の幼生プランクトンが出現しており、本海域はこれら生物群の再生産が行なわれていると考えられます。

表 8-7. 10(1) 動物プランクトン確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	調査時期						
							令和2年	令和3年					
							10月	1月	4月	7月			
1	内蔵鞭毛虫門	有軸仮足上綱	—	—	有軸仮足上綱	Actinopodea	○			○			
2	織毛虫門	少膜綱	緑毛目	ボルティケラ科		<i>Vorticella</i> sp.	○						
3				フデツツカラムシ科		<i>Leprotintinnus bottnicus</i>	○						
4		多膜綱	少毛目	カザリツボカラムシ科	スエヒロツツカラムシ		<i>Leprotintinnus nordqvisti</i>	○					
5							<i>Tintinnopsis aperta</i>		○				
6							<i>Tintinnopsis baltica</i>		○				
7							クチヒロスナカラムシ		<i>Tintinnopsis campanula</i>			○	
8									<i>Tintinnopsis gracilis</i>		○		
9							カイスナカラムシ		<i>Tintinnopsis kofoidi</i>		○		
10							ホソスナカラムシ		<i>Tintinnopsis radix</i>	○		○	○
11							スナカラムシ属		<i>Tintinnopsis</i> sp.	○			○
12							トックリカラムシ科		<i>Codonellopsis nipponica</i>			○	
13							ツリガネカラムシ科	オオビンガタカラムシ	<i>Favella ehrenbergii</i>	○			○
14								ビンガタカラムシ	<i>Favella taraikaensis</i>			○	
15							クダカラムシ科		<i>Amphorides</i> sp.		○		
16					刺胞動物門	ヒドロ虫綱	—	—	ヒドロ虫綱	Hydrozoa	○	○	
17	紐形動物門	—	—	—	紐形動物門のピリディウム幼生	<i>Pilidium</i> larva of Nemertinea*			○				
18	輪形動物門	単生殖果綱	フソイドトロカ目	ネズミワムシ科		<i>Trichocerca</i> sp.	○						
19				ドロワムシ科	ドロワムシ属	<i>Synchaeta</i> sp.	○		○	○			
20	軟体動物門	腹足綱	—	—	腹足綱の幼生	Larva of Gastropoda*	○	○	○	○			
21		二枚貝綱	—	—	二枚貝綱のD型幼生	D- larva of Bivalvia*	○		○	○			
22			—	—	二枚貝綱の殻頂期幼生	Umbo-larva of Bivalvia*	○	○	○	○			
23	環形動物門	多毛綱	—	—	多毛綱のネクトキータ幼生	<i>Nectochaeta</i> larva of Polychaeta*	○	○	○	○			
24	節足動物門	鯉脚綱	枝角目	シダ科	ウスカワミジンコ	<i>Penilia avirostris</i>				○			
25				ウミオオメミジンコ科	オオウミオオメミジンコ	<i>Podon leuckarti</i>				○			
26					コウミオオメミジンコ	<i>Podon polyphemoides</i>		○					
27					ノルドマンエボシミジンコ	<i>Evadne nordmanni</i>			○				
28					トゲナシエボシミジンコ	<i>Evadne tergestina</i>				○			
29		顎脚綱	カラヌス目	アカルチア科		<i>Acartia hudsonica</i>		○					
30					アカルチア属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite</i> larva of <i>Acartia</i>	○	○	○	○			
31				セントロバジェス科		<i>Centropages abdominalis</i>		○					
32					セントロバジェス属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite</i> larva of <i>Centropages</i>		○	○	○			
33				バラカラヌス科		<i>Paracalanus crassirostris</i>		○	○				
34						<i>Paracalanus parvus</i>		○	○	○			
35					バラカラヌス属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite</i> larva of <i>Paracalanus</i>	○	○	○	○			
36				プセウドディアプトムス科		<i>Pseudodiaptomus marinus</i>		○					
37					プセウドディアプトムス属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite</i> larva of <i>Pseudodiaptomus</i>	○	○	○	○			
38				トルタヌス科		<i>Tortanus forcipatus</i>				○			
39					トルタヌス属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite</i> larva of <i>Tortanus</i>				○			
40				—	—	カラヌス目のコペポダイト幼体	<i>Copepodite</i> larva of Calanoida	○					
41				キクロブス目	オイトナ科		<i>Oithona attenuata</i>		○				
42							<i>Oithona brevicornis</i>		○				
43							<i>Oithona davisae</i>			○	○	○	
44							<i>Oithona nana</i>					○	
45							<i>Oithona similis</i>			○	○	○	
46							オイトナ属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite</i> larva of <i>Oithona</i>	○	○	○	○	

表 8-7.10(2) 動物プランクトン確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	調査時期						
							令和2年		令和3年				
							10月	1月	4月	7月			
47	節足動物門	顎脚綱	ハルバクテクス目	エクチノゾマ科		<i>Microsetella norvegica</i>	○	○	○	○			
48						マイクロセテラ属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite larva of Microsetella</i>	○			○		
49						ハルバクテクス科	シオダマリミジンコ属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite larva of Tigriopus</i>				○	
50						ユウテルピナ科	ユウテルピナ属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite larva of Euterpina</i>	○				
51						ハルバクテクス目のコペポダイト幼体	<i>Copepodite larva of Harpacticoida</i>	○	○		○		
52					ボエキロストム目	コリケウス科		<i>Corycaeus affinis</i>		○	○		
53							コリケウス科のコペポダイト幼体	<i>Copepodite larva of Corycaeidae</i>	○	○	○	○	
54						オンケア科		<i>Oncaea waldemari</i>	○				
55						オンケア科のコペポダイト幼体	<i>Copepodite larva of Oncaeidae</i>	○			○		
56						クラウジディウム科	Hemicyclops属のコペポダイト幼体	<i>Copepodite larva of Hemicyclops</i>	○	○	○	○	
57							カイアシ亜綱のノープリウス幼生	<i>Nauplius larva of Copepoda</i>	○	○	○	○	
58							鞘甲亜綱のキプリス幼生	<i>Cypris larva of Thecostraca*</i>		○			
59							鞘甲亜綱のノープリウス幼生	<i>Nauplius larva of Thecostraca*</i>	○	○	○	○	
60					軟甲綱	十脚目		短尾下目のゾエア幼生	<i>Zoea larva of Brachyura*</i>				○
61				環虫動物門				環虫動物門のアクチノトロカ幼生	<i>Actinotrocha larva of Phoronida*</i>				○
62				毛顎動物門	現生矢虫綱			現生矢虫綱	<i>Sagittoidea</i>	○	○	○	○
63				棘皮動物門	ウニ綱			ウニ綱のエキノブルテウス幼生	<i>Echinopluteus larva of Echinoidea*</i>				○
64					クモヒトデ綱			クモヒトデ綱のオフィオブルテウス幼生	<i>Ophiopluteus larva of Ophiuroidea*</i>				○
65				脊索動物門	尾虫綱	尾虫目	オタマボヤ科	ワカレオタマボヤ	<i>Oikopleura dioica</i>	○	○	○	○
66					オイコブレウラ属	<i>Oikopleura sp.</i>	○	○	○	○			
67					不明トロコフォラ幼生	<i>Trochophora larva</i>				○			
合計	12門	15綱	10目	23科	67種		35種	33種	31種	38種			

注 1:○は確認されたことを示します。

注 2:浮遊幼生類には、アスタリスク「*」を付しています。

注 3:浮遊幼生類とは、底生生物や魚類の幼生などの一時的に浮遊生活を送る生物の総称です。

b. 魚卵・稚仔魚

現地調査結果を表 8-7. 11 及び表 8-7. 12 に示します。現地調査により、3 目 4 科 10 種の魚卵と、5 目 10 科 12 種の稚仔魚が確認されました。

表 8-7. 11 に示すとおり、確認された魚卵は、コノシロ、カタクチイワシ、ネズッコ科、ウシノシタ科の 4 種と不明卵 6 種類でした。秋季及び冬季では魚卵は確認されませんでした。魚種により産卵時期は異なりますが、一般的に春季に産卵する魚種が多いため、このような傾向が生じたものと考えられます。

また、表 8-7. 12 に示すとおり、夏季に最も多い種数の稚仔魚が確認されました。確認種のほとんどは九州沿岸の藻場、砂底、岩礁域等に普通に生息する種でした。

表 8-7. 11 魚卵確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	調査時期			
					令和2年	令和3年		
					10月	2月	4月	8月
1	ニシン目	ニシン科	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>			○	○
2		カタクチイワシ科	カタクチイワシ	<i>Engraulis japonica</i>			○	
3	スズキ目	ネズッコ科	ネズッコ科	Callionymidae			○	
4	カレイ目	ウシノシタ科	ウシノシタ科	Cynoglossidae				○
5	—	—	単脂球形卵-1	Unidentified s.o. Egg-1			○	
6	—	—	単脂球形卵-2	Unidentified s.o. Egg-2			○	
7	—	—	単脂球形卵-3	Unidentified s.o. Egg-3				○
8	—	—	単脂球形卵-4	Unidentified s.o. Egg-4				○
9	—	—	単脂球形卵-5	Unidentified s.o. Egg-5				○
10	—	—	無脂球形卵	Unidentified n.o. Egg				○
合計	3目	4科		10種	0	0	5	6

注 1: ○は確認されたことを示します。

注 2: 合計には種同定ができなかったものも含まれます。

表 8-7. 12 稚仔魚確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				
					令和2年	令和3年			
					10月	2月	4月	8月	
1	ニシン目	カタクチイワシ科	カタクチイワシ	<i>Engraulis japonica</i>				○	
2	トウゴロウイワシ目	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ科	Atherinidae				○	
3	スズキ目	メバル科	カサゴ	<i>Sebastes marmoratus</i>			○		
4		コチ科	コチ科	Platycephalidae				○	
5		キス科	シロギス	<i>Sillago japonica</i>				○	
6		イソギンボ科	イソギンボ	<i>Parablennius yatabei</i>	○				
7			ナベカ属	<i>Omobranchus sp.</i>				○	
8			ネズッコ科	ネズッコ科	Callionymidae			○	
9			ハゼ科	ハゼ科	Gobiidae	○		○	○
10	カレイ目	カレイ科	イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>		○			
11	フグ目	カワハギ科	アミメハギ	<i>Rudarius ercodes</i>	○				
12	—	—	不明仔魚	Unidentified fish larvae				○	
合計	5目	10科		12種	3	1	3	7	

注 1: ○は確認されたことを示します。

注 2: 合計には種同定ができなかったものも含まれます。

c. 底生生物

現地調査結果を表 8-7. 13 に示します。現地調査により、53 目 128 科 211 種の底生生物が確認されました。

(a) 代表点における定量採集法

定量採集法において確認された種数は、秋季に 35 種、冬季に 55 種、春季に 86 種、夏季に 60 種と、春季に最も多い種数が確認されました。

1 年を通じて確認された種は、ゴカイ類が多い傾向で、確認された種の多くは、砂底や泥底で普通に確認される種でした。

(b) 測線上における潮下帯での目視観察結果及び夏季補足調査

測線上における潮下帯での目視観察及び夏季補足調査では主に大型の底生生物が確認されました。

目視観察で確認された種数は、秋季に 44 種、冬季に 43 種、春季に 37 種、夏季に 40 種と、秋季に最も多い種数が確認されました。

夏季補足調査では、7 月に 12 種、8 月に 13 種が確認されました。

転石域ではイシダタミやスガイ等の巻き貝類が確認されました。一方、シルト～砂礫底域では、ウミサボテン、マテガイ、シオフキ、ムギワラムシやミズヒキゴカイ等が確認されました。

主な水産有用種としては、バイ、マテガイ、マナマコ等が確認されました。

これらの底生生物は、九州沿岸域において普通に確認される種でした。

表 8-7. 13(1) 底生生物確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	定量調査				目視調査				夏季補足調査	
							令和2年		令和3年		令和2年		令和3年		令和3年	
							10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	7月	8月
1	海綿動物門	普通海綿綱	イソカイメン目	イソカイメン科	ダイダイイソカイメン	<i>Halichodria japonica</i>					○	○	○	○		
2					普通海綿綱	DEMOSPONGIAE					○	○	○	○		
3	刺胞動物門	ヒドロ虫綱	花クラゲ目	—	花クラゲ目	Anthomedusae					○	○	○	○		
4			軟クラゲ目	ハネガヤ科	シロガヤ	<i>Aglaophenia whiteleggei</i>					○	○	○	○		
5					ヒドロ虫綱	HYDROZOA					○	○				
6		花虫綱	ウミエラ目	ウミサボテン科	ウミサボテン	<i>Cavernularia obesa</i>					○	○	○			
7			ツノサンゴ目	ウミカラマツ科	ウミカラマツ科	Antipathidae					○	○		○		
8			ハナギンチャク目	—	ハナギンチャク目	Ceriantharia					○	○	○	○		
9			イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Haliplanella lineata</i>										○
10					イソギンチャク目	Actiniaria		○	○			○	○	○		
11					イソサンゴ目	Scleractinia										
12	扁形動物門	渦虫綱	多岐腸目	—	多岐腸目	Polycladida			○	○				○		
13	紐形動物門	—	—	—	紐形動物門	NEMERTINEA	○	○	○	○						
14	嚙虫動物門	—	—	—	Phoronis sp.	Phoronis sp.				○						
15	外肛動物門	裸喉綱	唇口目	フサコケムシ科	フサコケムシ	<i>Bugula neritina</i>								○		
16					外肛動物門	ECTOPROCTA					○	○				
17	腕足動物門	無関節綱	舌殻目	シヤミセンガイ科	シヤミセンガイ属	<i>Lingula sp.</i>										
18			頂殻目	盤殻科	盤殻科	Discinidae										
19	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton comptus</i>					○	○	○	○		
20					ウスヒザラガイ属	<i>Ischnochiton sp.</i>										
21					クサズリガイ科	ヒザラガイ	<i>Acanthopleura japonica</i>								○	
22		腹足綱	カサガイ目	ユキノカサガイ科	ウノアシ	<i>Patelloida lanx</i>										
23			古腹足目	ニシキウズ科	インダタミ	<i>Monodonta labio confusa</i>										
24				サザエ科	スガイ	<i>Lumella coronatus corensis</i>						○	○	○	○	
25				パテイラ科	コシダカガングラ	<i>Omphalius rusticus</i>						○	○	○	○	
26			リンゴガイ科	スクミリンゴガイ科	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>										○
27			オニノツノガイ科	コベルトカニモリ	オニノツノガイ科	<i>Cerithium dialaecum</i>										
28					オニノツノガイ科	Cerithiidae										
29				ムカデガイ科	オオヘビガイ	<i>Thylacodes adamsii</i>						○	○	○	○	
30				タマガイ科	ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i>								○		
31					オリイレンシラタマ	<i>Sigatica bathyraphe</i>										
32				イトカケガイ科	イトカケガイ科	Epitoniidae										
33				フトコロガイ科	ノミニナ属	<i>Zafra sp.</i>										
34					フトコロガイ科	Columbellidae										
35				ムシロガイ科	アラムシロ	<i>Nassarius festivus</i>								○		
36				バイ科	バイ	<i>Babylonia japonica</i>								○		
37				アッキガイ科	カゴメガイ	<i>Bedequina birileffi</i>										
38					レイシガイ	<i>Reishia bronni</i>										
39					イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>								○	○	○
40					アカニン	<i>Rapana venosa</i>								○	○	○
41				マクラガイ科	マクラガイ	<i>Oliva mustelina</i>										○
42				ツノクダマキ科	オハハロシヤジク	<i>Clavus japonicus</i>										
43				オオシイノミガイ科	コシイノミガイ	<i>Pupa strigosa strigosa</i>								○		
44			真後鰓目	キセワタガイ科	アカキセワタ	<i>Philine rubrata</i>										
45					キセワタガイ属	<i>Philine sp.</i>										
46				カノコキセワタガイ科	カノコキセワタガイ科	Aglajidae										
47				ブドウガイ科	カミスジカイコガイダマシ	<i>Cyllichnatis angustus</i>										
48				アメフラシ科	トゲアメフラシ	<i>Bursatella leachii leachii</i>										○
49			汎有肺目	トウガタガイ科	トウガタガイ科	Pyramidellidae										
50		二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ビロードマクラ	<i>Modiolus comptus</i>										
51					ホトトギスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>										
52					イガイ科	Mytilidae										
53			ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>								○	○	○
54					ケガキ	<i>Saccostrea kegaki</i>								○	○	○
55					イタボガキ科	Ostreidae										
56				ハボウキガイ科	ハボウキガイ	<i>Pinna attenuata</i>										
57					リシケタイラギ	<i>Atrina hischkeana</i>										
58				イタヤガイ目	ナミマガシワ科	Anomia chinensis								○	○	○
59			異鰓帯目	オキナガイ科	オキナガイ	<i>Laternula anatina</i>										
60			マルスダレガイ目	ツキガイ科	イセシラガイ	<i>Anodontia stearnsiana</i>										
61					ツキガイ科	Lucinidae										
62				フタバシラガイ科	フタバシラガイ科	Ungulinidae										
63				キクザルガイ科	キクザル属	<i>Chama sp.</i>										
64					サルノカシラ	<i>Pseudochama retroversa</i>										
65				キスマトイガイ科	キスマトイガイ	<i>Hiatella orientalis</i>										
66				ザルガイ科	チゴトリガイ	<i>Fulvia hungerfordi</i>										
67				マルスダレガイ科	ヒメカノコアサリ	<i>Yeremolpa scabra</i>										
68					カガミガイ亜科	Dosiniinae										
69					アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>										
70					イヨスダレ	<i>Paphia undulata</i>								○	○	○
71					マツカゼガイ属	<i>Irus sp.</i>								○	○	○
72					ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>										○
73				ニッコウガイ科	ウズザクラ	<i>Nitidotellina minuta</i>										
74					サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>										
75					サクラガイ属	<i>Nitidotellina sp.</i>										
76					ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>										
77				アサジガイ科	シズクガイ	<i>Theora fragilis</i>										
78				マテガイ科	マテガイ	<i>Solen strictus</i>								○	○	○
79				バカガイ科	バカガイ	<i>Macra chinensis</i>								○	○	○
80					シオフキ	<i>Macra veneriformis</i>								○	○	○
81					チノノハナガイ	<i>Raetellops pulchellus</i>								○	○	○
82	星口動物門	スジホシムシ綱	スジホシムシ目	スジホシムシ科	スジホシムシモドキ	<i>Siphonosoma cumanense</i>										
83		サメハダシムシ綱	タテホシムシ目	タテホシムシ科	タテホシムシ科	Aspidosiphonidae										
84					星口動物門	SIPUNCULA										

表 8-7. 13(2) 底生生物確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	定量調査				目視調査				夏季補足調査							
							令和2年		令和3年		令和2年		令和3年		令和3年							
							10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	7月	8月						
85	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	サンバゴカイ科	<i>Eumida</i> sp.	<i>Eumida</i> sp.																
86				ウロコムシ科	<i>Harmothoe</i> sp.	<i>Harmothoe</i> sp.																
87					<i>Lepidonotus</i> sp.	<i>Lepidonotus</i> sp.																
88					ナガフサツキウロコムシ	<i>Nonparahalosydna pleiolepis</i>																
89					ノラリウロコムシ科	ノラリウロコムシ科	<i>Sigalionidae</i>															
90					タンザクゴカイ科	タンザクゴカイ科	<i>Chrysopetalidae</i>															
91					オトヒメゴカイ科	<i>Podarkeopsis</i> sp.	<i>Podarkeopsis</i> sp.															
92					ゴカイ科	オウギゴカイ	<i>Nectoneanthes latipoda</i>															
93						マサゴゴカイ	<i>Nereis multignatha</i>															
94					チロリ科	<i>Glycera</i> sp.	<i>Glycera</i> sp.															
95					ニカイチロリ科	<i>Glycinde</i> sp.	<i>Glycinde</i> sp.															
96						<i>Goniada</i> sp.	<i>Goniada</i> sp.															
97					シロガネゴカイ科	トウヨウシロガネゴカイ	<i>Aglaophamus sinensis</i>															
98						コノハシロガネゴカイ	<i>Nephtys oligobranchia</i>															
99						ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>															
100						<i>Nephtys</i> sp.	<i>Nephtys</i> sp.															
101					ウミケムシ目	ウミケムシ科	ウミケムシ科	<i>Amphinomidae</i>														
102					イソメ目	イソメ科	<i>Eunice</i> sp.	<i>Eunice</i> sp.														
103							<i>Marphysa</i> sp.	<i>Marphysa</i> sp.														
104							ギボシイソメ科	カタマカリギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>													
105								ギボシイソメ科	<i>Lumbrineridae</i>													
106							セグロイソメ科	セグロイソメ	<i>Arabella iricolor</i>													
107							ノロイソメ科	ノロイソメ科	<i>Dorvilleidae</i>													
108							ホコサキゴカイ目	ホコサキゴカイ科	<i>Leitoscoloplos</i> sp.	<i>Leitoscoloplos</i> sp.												
109							<i>Phylo</i> sp.	<i>Phylo</i> sp.														
110					スピオ目	スピオ科	シノフハネエラスピオ	<i>Paraprionospio patiens</i>														
111							フクロハネエラスピオ	<i>Paraprionospio cordifolia</i>														
112							マクスピオ	<i>Prionospio paradisea</i>														
113								<i>Prionospio</i> sp.	<i>Prionospio</i> sp.													
114								<i>Pseudopolydora</i> sp.	<i>Pseudopolydora</i> sp.													
115								<i>Scolelepis</i> sp.	<i>Scolelepis</i> sp.													
116								エラナシスピオ	<i>Spiophanes bombyx</i>													
117							モロテゴカイ科	<i>Magelona</i> sp.	<i>Magelona</i> sp.													
118							ツバサゴカイ科	ムギワラムシ	<i>Mesochaetopterus japonicus</i>													
119								<i>Spiochaetopterus</i> sp.	<i>Spiochaetopterus</i> sp.													
120							ミスヒキゴカイ科	<i>Chaetozone</i> sp.	<i>Chaetozone</i> sp.													
121								ミスヒキゴカイ	<i>Cirriformia tentaculata</i>													
122								<i>Cirriformia</i> sp.	<i>Cirriformia</i> sp.													
123					ハボウキゴカイ目	ハボウキゴカイ科	ハボウキゴカイ科	<i>Flabelligeridae</i>														
124					ダルマゴカイ目	ダルマゴカイ科	<i>Sternaspis</i> sp.	<i>Sternaspis</i> sp.														
125					イトゴカイ目	タケフシゴカイ科	タケフシゴカイ科	<i>Maldanidae</i>														
126					チマキゴカイ目	チマキゴカイ科	チマキゴカイ	<i>Owenia fusiformis</i>														
127					フサゴカイ目	ウミイサゴムシ科	ウミイサゴムシ	<i>Lagis bocki</i>														
128							オクダウミイサゴムシ	<i>Pectinaria okudai</i>														
129						カザリゴカイ科	カザリゴカイ科	<i>Ampharetidae</i>														
130						フサゴカイ科	<i>Pista</i> sp.	<i>Pista</i> sp.														
131							<i>Amphitritinae</i>	<i>Amphitritinae</i>														
132							<i>Polycirrinae</i>	<i>Polycirrinae</i>														
133							フサゴカイ科	<i>Terebellidae</i>														
134					ケヤリムシ目	ケヤリムシ科	<i>Chone</i> sp.	<i>Chone</i> sp.														
135							<i>Euchone</i> sp.	<i>Euchone</i> sp.														
136							ロウトケヤリ	<i>Mexicola infundibulum</i>														
137						カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	<i>Serpulidae</i>														
138				節足動物門	顎脚綱	ミオドコーバ目	ウミホタル科	ウミホタル科														
139								ウミホタルモドキ科	ウミホタルモドキ科	<i>Philomedidae</i>												
140								無柄目	フジツボ科	サンカクフジツボ	<i>Balanus trigonus</i>											
141										シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>											
142								軟甲綱	クマ目	クマ科	クマ科	<i>Diastylidae</i>										
143								等脚目	ウミナナフシ科	ウミナナフシ属	<i>Paranthurus</i> sp.											
144									ヘラムシ科	ワラジヘラムシ属	<i>Synidotea</i> sp.											
145									トガリヘラムシ科	ヤリボヘラムシ属	<i>Symnium</i> sp.											
146									コツブムシ科	ニホンコツブムシ	<i>Cymodoce japonica</i>											
147								端脚目	スガメソコエビ科	クビナガスガメ	<i>Ampelisca brevicornis</i>											
148										ニッポンスガメ	<i>Byblis japonicus</i>											
149									ヒゲナガヨコエビ科	ヒゲナガヨコエビ属	<i>Amphithoe</i> sp.											
150									ユンボソコエビ科	ユンボソコエビ属	<i>Aoroides</i> sp.											
151									ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	<i>Corophiidae</i>											
152									カマキリヨコエビ科	ホソヨコエビ属	<i>Erichthonis</i> sp.											
153									メリタヨコエビ科	スシナリヨコエビ属	<i>Muera</i> sp.											
154									マルハサミヨコエビ科	マルハサミヨコエビ属	<i>Leucothoe</i> sp.											
155									クチバシソコエビ科	サンバソコエビ属	<i>Synchelidium</i> sp.											
156									ヒサシソコエビ科	スナカキソコエビ属	<i>Harpiniopsis</i> sp.											
157									ワレカラ科	ヤサシノテワレカラ	<i>Moniliropus tener</i>											
158										トゲワレカラ	<i>Caprella scaura</i>											
159										トゲワレカラモドキ	<i>Caprella californica</i>											
160								十脚目	クルマエビ科	ヨシエビ	<i>Metapenaeus ensis</i>											
161										クルマエビ	<i>Marsupenaeus japonicus</i>											
162										クマエビ	<i>Penaeus semisulcatus</i>											
163										クルマエビ科	<i>Penaeidae</i>											
164									テナガエビ科	シラタエビ	<i>Palaemon orientis</i>											
165									テッポウエビ科	テッポウエビ属	<i>Alpheus</i> sp.											
166									エビジャコ科	エビジャコ	<i>Cragon affinis</i>											
167									カナダマン科	フトウデネジレカナダマン	<i>Pisidia serratifrons</i>											
168										ヤドリカナダマン	<i>Polyonyx sinensis</i>											

表 8-7. 13(3) 底生生物確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	定量調査				目視調査				夏季補足調査				
							令和2年		令和3年		令和2年		令和3年		令和3年				
							10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	7月	8月			
169	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ギドカリ科	ツノギドカリ属	<i>Diogenes</i> sp.	○	○											
170				ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ科	Paguridae					○	○	○	○					
171				キンセンガニ科	アミメキンセンガニ	<i>Matuta planipes</i>											○	○	
172				ムツアシガニ科	ヒメムツアシガニ	<i>Hexapus anfractus</i>				○	○								
173				コブシガニ科	ヘリトリコブシ	<i>Lyphira heterograna</i>				○	○	○							
174					タテジマコブシ	<i>Leucosia craniolaris</i>												○	
175				クモガニ科	マメツブガニ	<i>Paratymolus pubescens</i>						○							
176				ゴカイボオウギガニ科	ゴカイボオウギガニ	<i>Halimede fragifera</i>						○							
177				ケブカガニ科	メクラガニ	<i>Typhlocarcinus villosus</i>						○							
178				ワタリガニ科	タイウマガザミ	<i>Portunus pelagicus</i>												○	○
179					ジャノメガザミ	<i>Portunus sanguinolentus</i>												○	
180					ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>									○			○	○
181					イシガニ	<i>Charybdis japonica</i>												○	○
182					モクズガニ科	ヨコナガモドキ	<i>Asthenognathus inaequipes</i>					○							
183					ヒライソガニ	<i>Gaeticus depressus</i>						○					○		
184					モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>											○		
185					イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>										○			
186				カクレガニ科	ラスバンマメガニ	<i>Pinnixa rathbuni</i>						○							
187					マメガニ属	<i>Pinnixa</i> sp.							○						
188	昆虫綱	コクチュウ目(鞘翅目)	ゲンゴロウ科		ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes griseus</i>										○			
189			ガムシ科	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>											○			
190	半索動物門	ギボシムシ綱	—	—	ギボシムシ綱	ENTEROPNEUSTA	○			○									
191	棘皮動物門	ヒトデ綱	ヒメヒトデ目	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	<i>Asterina pectinifera</i>										○			
192				キヒトデ目	キヒトデ科	キヒトデ	<i>Asterias amurensis</i>											○	
193		クモヒトデ綱	クモヒトデ目	スナクモヒトデ科	スナクモヒトデ科	Amphiuridae				○									
194				クモヒトデ科	クシノハクモヒトデ	<i>Ophiura kinbergi</i>						○							
195				—	—	クモヒトデ綱	OPHIUROIDEA						○	○					
196		ウニ綱	ホンウニ目	サンショウウニ科	サンショウウニ	<i>Temnopleurus toreumaticus</i>				○	○	○	○	○	○	○	○		
197					サンショウウニ科	サンショウウニ科	Temnopleuridae				○	○							
198				ナガウニ科	ムラサキウニ	<i>Anthocidaris crassispina</i>							○	○	○	○	○		
199				タコノマクラ目	ヨウミヤクカシパン科	ハスノハカシパン	<i>Scaphechinus mirabilis</i>						○	○	○	○	○		
200					スカシカシパン科	スカシカシパン	<i>Astriclypeus manni</i>							○	○	○	○	○	
201		ナマコ綱	樹手目	キンコ科	グミ	<i>Pseudocnus echinata</i>					○	○							
202				グミモドキ科	グミモドキ科	Phylloporidae			○										
203				樹手目	クロナマコ科	クロナマコ	<i>Holothuria atra</i>						○	○	○	○			
204			シカクナマコ科	マナマコ	<i>Apostichopus japonicus</i>							○	○	○	○				
205			無足目	イカリナマコ科	イカリナマコ科	Synaptidae					○	○							
206		脊索動物門	ホヤ綱	マボヤ目	シロボヤ科	エボヤ	<i>Styela clava</i>										○		
207						シロボヤ	<i>Styela plicata</i>						○	○	○	○	○	○	
208						シロボヤ科	Styelidae						○	○					
209					マボヤ科	マボヤ科	Puridae						○						
210	フクロボヤ科				フクロボヤ科	Molgulidae						○							
211	—				—	ホヤ綱	ASCIDIACEA							○	○	○	○		
合計	14門	21綱	53目	128科	211種		35種	55種	86種	60種	44種	43種	37種	40種	12種	13種			

注 1: ○は確認されたことを示します。
 注 2: 合計には種同定ができなかったものも含まれます。

d. 干潟・付着生物

(a) 潮間帯における代表地点での定量採捕及び定性的観察

潮間帯における現地調査結果を表 8-7.14 に示します。現地調査により、41 目 92 科 155 種（種の同定ができなかったものを含みます）が確認されました。

現地調査で確認されたウミユナ、イシダタミガイ、スガイ等はいずれも、潮間帯に普通に確認される種でした。

表 8-7.14(1) 干潟生物確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	定量調査				定性調査				
							令和2年	令和3年			令和2年	令和3年			
							10月	2月	4月	8月	10月	2月	4月	8月	
1	海綿動物門	普通海綿綱	イソカイメン目	イソカイメン科	ダイダイイソカイメン	<i>Halichodria japonica</i>		○	○	○	○	○	○	○	○
2					クロイソカイメン	<i>Halichodria okadai</i>				○	○	○	○	○	○
3	刺胞動物門	ヒドロ虫綱	軟クラゲ目	ハネガヤ科	シロガヤ	<i>Aglaophenia whiteleggei</i>									○
4		花虫綱	ウミユナ目	ウミサボテン科	ウミサボテン	<i>Cavernularia obesa</i>					○	○	○	○	○
5			ハナギンチャク目	—	ハナギンチャク目	<i>Ceriantharia</i>					○	○	○	○	○
6			イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Haliplanelia lineata</i>				○	○	○	○	○	○
7			—	—	イソギンチャク目	<i>Actinaria</i>		○	○	○	○	○	○	○	○
8	扁形動物門	渦虫綱	多岐腸目	—	多岐腸目	<i>Polycladida</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	外肛動物門	裸喉綱	唇目	チゴケムシ科	チゴケムシ	<i>Watersipora subovoidea</i>		○	○	○	○	○	○	○	○
10		—	—	—	外肛動物門	ECTOPROCTA				○	○	○	○	○	○
11	腕足動物門	無関節綱	舌殻目	シャミセンガイ科	ミドリシャミセンガイ	<i>Lingula anatina</i>									○
12			頂殻目	盤殻科	スズメガイダマン	<i>Disciniscia stella</i>				○	○	○	○	○	○
13	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton comptus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14					キスリヒザラガイ	<i>Lepidozona coreanica</i>									○
15					クサズリガイ科	<i>Acanthopleura japonica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16					ケハダヒザラガイ科	<i>Acanthochitona achates</i>				○	○	○	○	○	○
17					ケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona defilippii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18		腹足綱	カサガイ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Cellana toreuma</i>		○							○
19					マツバガイ	<i>Cellana nigrolineata</i>									○
20				ユキノカサガイ科	ウノアン	<i>Patelloida lanx</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21					ヒメコザラ	<i>Patelloida heroldi</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22					シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23					ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24					ヨウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>				○	○	○	○	○	○
25					カスリアオガイ	<i>Nipponacmea radula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26			古腹足目	ニシキウス科	イシダタミ	<i>Monodonta labio confusa</i>			○	○	○	○	○	○	○
27				サザエ科	スガイ	<i>Lunella coronatus coreensis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28				パテイル科	ヨシダカガングラ	<i>Omphalius rusticus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29		アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	アマガイ	アマガイ	<i>Nerita japonica</i>				○	○	○	○	○	○
30					イシマキガイ	<i>Clithon retropictum</i>		○			○	○	○	○	○
31				ユキスズメガイ科	ミヤコドリ	<i>Phenacolepus pulchella</i>					○	○	○	○	○
32		新生腹足目	ウミユナ科	ウミユナ	<i>Batillaria multiformis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
33					ホソウミユナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34			キバウミユナ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>										○
35				ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i>		○	○	○		○	○	○	○	○
36			タマキビ科	マルウズラタマキビ	<i>Littoraria articulata</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
37				アラレタマキビ	<i>Echinolittorina radiata</i>										○
38				タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
39			カワザンショウガイ科	ヒラドカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>										○
40			ムカデガイ科	オオヘビガイ	<i>Thylacodes adamsii</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
41			タマガイ科	ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i>										○
42			フトコロガイ科	ムギガイ	<i>Mitrella bicincta</i>			○	○	○	○	○	○	○	○
43				フトコロガイ科	Columbellidae										○
44			ムシロガイ科	アラムシロ	<i>Nassarius festivus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
45			バイ科	バイ	<i>Babylonia japonica</i>					○	○	○	○	○	○
46			アツキガイ科	レイシガイ	<i>Reishia bronni</i>					○	○	○	○	○	○
47				イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
48				アカニシ	<i>Rapana venosa</i>			○	○		○	○	○	○	○
49			マクラガイ科	マクラガイ	<i>Oliva mustelina</i>										○
50			コロモガイ科	コロモガイ	<i>Cancellaria spengleriana</i>								○	○	○
51			裸脚目	—	裸脚目	<i>Nudipleura</i>									○
52		真後脚目	キセワタガイ科	キセワタガイ	<i>Philine argentata</i>					○					○
53			アメフラシ科	アメフラシ科	Aplysiidae										○
54			カラマツガイ科	キクノハナガイ	<i>Siphonaria sirius</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
55		頭足綱	八腕形目	マダコ科	イイダコ	<i>Amphioctopus ocellatus</i>					○	○	○	○	○

表 8-7. 14(2) 干潟生物確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	定量調査				定性調査										
							令和2年		令和3年		令和2年		令和3年								
							10月	2月	4月	8月	10月	2月	4月	8月							
56	軟体動物門	二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	カリガネエガイ	<i>Barbatia virescens</i>	○	○	○	○	○	○	○	○							
57					サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>															
58			サンカクサルボウ科	マルミミエガイ	<i>Didimacar tenebrica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○								
59			イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Kenostrobus atratus</i>		○	○	○	○	○	○	○							
60					ムラサキインコ	<i>Septifer virgatus</i>						○	○	○							
61					ホトトギスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>						○	○	○							
62					イガイ科	Mytilidae									○						
63			ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	○	○	○	○	○	○	○	○							
64					ケガキ	<i>Saccostrea kegaki</i>	○	○	○	○	○	○	○	○							
65					イタボガキ科	Ostreidae									○						
66			ハボウキガイ科	タイラギ	<i>Atrina japonica</i>									○							
67			イタヤガイ目	ナミマガシワ科	ナミマガシワ	<i>Anomia chinensis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○							
68			異鰐目	オキナガイ科	オキナガイ	<i>Laternula anatina</i>									○						
69			マルスダレガイ目	ウロコガイ科	ニッポンマメアゲマキ	<i>Pseudogaleomma japonicum</i>				○		○	○	○	○						
70					フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>					○	○	○	○	○					
71					マルスダレガイ科	オニアサリ	<i>Protothaca jodoensis</i>										○				
72						アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
73						イヨスダレ	<i>Paphia undulata</i>										○				
74						マツカゼガイ	<i>Irus mitis</i>											○			
75						オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	○	○	○				○	○	○	○				
76					ニッコウガイ科	イチョウシラトリ	<i>Pistris diaphana</i>											○			
77						ユウシオガイ	<i>Moerella rutila</i>	○										○			
78						サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>														
79						ゴイサギ	<i>Macoma tokyoensis</i>											○			
80					アサジガイ科	シズクガイ	<i>Theora fragilis</i>											○			
81					マテガイ科	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○					○	○	○	○	○				
82					バカガイ科	バカガイ	<i>Mactra chinensis</i>						○	○	○	○	○				
83					シオフキ	<i>Mactra veneriformis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
84					チドリマスオ科	クチバガイ	<i>Coecella chinensis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
85					星口動物門	スジホシムシ綱	スジホシムシ目	スジホシムシ科	スジホシムシモドキ	<i>Siphonopsis cumanense</i>								○			
86									スジホシムシ	<i>Sipunculus nudus</i>											○
87						サメハダホシムシ綱	サメハダホシムシ目	サメハダホシムシ科	サメハダホシムシ科	Phascolosomatidae								○			
88			環形動物門	多毛綱	サシバゴカイ目	ウロコムシ科	ウロコムシ科	Polynoidae									○				
89							イソメ目	ナナテイソメ科	スゴカイイソメ	<i>Diopatra sugokai</i>										○	
90							スピオ目	ツバサゴカイ科	ムギワラムシ	<i>Mesochaetopterus japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
91									ツバサゴカイ科	Chaetopteridae											○
92									ミスヒキゴカイ科	<i>Cirriformia tentaculata</i>				○	○	○	○	○	○	○	
93							フサゴカイ目	フサゴカイ科	フサゴカイ科	Terebellidae										○	
94							ケヤリムシ目	カンザンゴカイ科	カンザンゴカイ科	Serpulidae	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
95							—	—	多毛綱	POLYCHAETA	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
96							節足動物門	顎脚綱	有柄目	ミョウガイ科	カメノテ	<i>Capitulum mitella</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	
97	イワフジツボ科	イワフジツボ								<i>Chthamalus challengeri</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
98	クロフジツボ科	クロフジツボ	<i>Tetraclita japonica</i>													○					
99	フジツボ科	サンカクフジツボ	<i>Balanus trigonus</i>														○				
100		サラサフジツボ	<i>Amphibalanus reticulatus</i>	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○					
101		シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○					
102	ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○						
103	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	スナホリムシ科	Cirolanidae										○						
104				コツブムシ科	コツブムシ科	Sphaeromatidae											○				
105				フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>											○				
106				—	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>											○				
107				—	ヨコエビ亜目	Gammaridea	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
108				十脚目	クルマエビ科	アカエビ	<i>Metapenaeopsis barbata</i>	○													
109						クルマエビ	<i>Marsupenaeus japonicus</i>											○			
110						オキエビ科	シラエビ属	<i>Pusiphaea</i> sp.											○		
111						テナガエビ科	イソスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i>											○		
112						テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>											○		
113						—	イソテッポウエビ	<i>Alpheus lobidens</i>											○		
114						—	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>											○		
115						エビジャコ科	エビジャコ	<i>Crangon affinis</i>											○		
116						スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Nihonotrypaea japonica</i>											○		
117						—	スナモグリ科	Callinassidae											○		
118				ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedea astacina</i>											○				
119				アナジャコ科	アナジャコ	<i>Upogebia major</i>											○				
120				カナダマシ科	イソカナダマシ	<i>Petrolisthes japonicus</i>				○	○	○	○	○	○	○					
121				—	ヤドリカナダマシ	<i>Polironx sinensis</i>											○				
122				ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ科	Paguridae	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
123				キンセンガニ科	キンセンガニ	<i>Matuta victor</i>											○				
124				ヘイケガニ科	ヘイケガニ	<i>Heikeopsis japonica</i>											○				
125				コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>	○										○				
126				—	コブシガニ科	Leucosiidae											○				
127				モガニ科	ヨツハモガニ	<i>Pugettia quadridens</i>											○				
128				クモガニ科	クモガニ科	Inachidae											○				
129				ケブカガニ科	マキトラノオガニ	<i>Pilumnopus makianus</i>											○				
130	ワタリガニ科	タイワンガザミ	<i>Portunus pelagicus</i>											○							
131	—	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>											○							
132	—	イシガニ	<i>Cherybdis japonica</i>	○										○							
133	オウギガニ科	オウギガニ科	Xanthidae											○							
134	ペンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chironantes haematocheir</i>											○							
135		カクペンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>											○							
136		ペンケイガニ	<i>Sesarmops intermedius</i>											○							

表 8-7. 14(3) 干潟生物確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	定量調査				定性調査						
							令和2年		令和3年		令和2年		令和3年				
							10月	2月	4月	8月	10月	2月	4月	8月			
137	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>											
138					ヒライソガニ	<i>Gaeticus depressus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
139					モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>											
140					ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
141					イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>				○	○	○	○	○	○	○	
142					タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	○					○	○	○	○	○	
143				コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>						○	○	○	○		
144				オサガニ科	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>	○					○	○	○	○		
145					ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○					○	○	○	○		
146					スナガニ科	ハクセンシオマネキ	<i>Austruca lactea</i>									○	
147	棘皮動物門	クモヒトデ綱	—	—	クモヒトデ綱	OPHUROIDEA							○	○	○		
148	ウニ綱	ホンウニ目	サンショウウニ科	サンショウウニ	<i>Tamnoleirus toreuaticus</i>					○	○	○	○	○	○		
149				ナガウニ科	ムラサキウニ	<i>Anthoedaris crassispina</i>	○					○	○	○	○		
150				タコノマクラ目	スカシカシパン科	スカシカシパン	<i>Astriclypeus manni</i>						○	○	○		
151				ナマコ綱	楯手目	シカクナマコ科	マナマコ	<i>Apostichopus japonicus</i>						○	○	○	
152					無足目	イカリナマコ科	トゲイカリナマコ	<i>Protankyra bidentata</i>	○				○	○	○	○	
153					イカリナマコ科	Synaptidae							○	○	○		
154	脊索動物門	ホヤ綱	マボヤ目	シロボヤ科	シロボヤ	<i>Styela plicata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
155						ASCIDIACEA							○	○	○		
合計	11門	19綱	41目	92科		155種	51種	56種	61種	73種	95種	103種	126種	115種			

注 1: ○は確認されたことを示します。
 注 2: 合計には種同定ができなかったものも含まれます。

(b) 汽水域における定性的観察

現地調査結果を表 8-7. 15 に示します。現地調査により、18 目 54 科 103 種（種同定ができなかったものも含まれます。）が確認されました。

主にウミナナやアラムシロガイ等の腹足類、スナモグリやアナジャコ、スナガニ等の甲殻類が確認されました。これらの種は、いずれも砂泥質の潮間帯で普通に確認される種でした。

表 8-7. 15(1) 干潟生物（汽水域）確認種一覧

番号	門	綱	目	科	和名	学名	定性調査				夏季補足調査	
							令和2年 10月	2月	令和3年 4月	8月	令和3年 7月	8月
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ゲテジマイソギンチャク科	ゲテジマイソギンチャク	<i>Haliplanella lineata</i>					○	○
2				—	イソギンチャク目	Actiniaria				○		
3	扁形動物門	渦虫綱	多岐腸目	—	多岐腸目	Polycladida		○				
4	軟体動物門	腹足綱	カサガイ目	ユキノカサガイ科	ヒメユザラ	<i>Patelloida heroldi</i>	○		○		○	○
5					ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>		○		○	○	○
6					コウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>					○	○
7					カスリアオガイ	<i>Nipponacmea radula</i>	○			○		
8			古腹足目	ニシキウズ科	イシダタミ	<i>Monodonta labio confusa</i>	○			○	○	○
9				サザエ科	スガイ	<i>Lunella coronatus coreensis</i>		○			○	○
10			アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ	<i>Clithon retropictum</i>					○	○
11				ユキスズメガイ科	ミヤコドリ	<i>Phenacolepas pulchella</i>						○
12			新生腹足目	ウミナナ科	ウミナナ	<i>Batillaria multiformis</i>	○	○	○	○	○	○
13					ホソウミナナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	○	○	○	○		
14					イボウミナナ	<i>Batillaria zonalis</i>					○	
15				キバウミナナ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>					○	○
16					ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i>					○	○
17					カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>			○	○	○	○
18				スナモツツボ科	シマモツボ	<i>Finella purpureoapicata</i>					○	
19				タマキビ科	マルウズラタマキビ	<i>Littoraria articulata</i>				○	○	○
20					タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>					○	○
21				カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>					○	○
22					ヒラドカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>					○	○
23					ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea sp. 10</i>					○	○
24				ミズゴマツボ科	ウミゴマツボ	<i>Stenothyra edogawensis</i>					○	
25				ムシロガイ科	アラムシロ	<i>Nassaricus festivus</i>	○	○	○	○	○	○
26				アツキガイ科	イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>	○	○		○	○	○
27				真後鰓目	クダタマガイ科	コメツツツラガイ					○	
28				汎有肺目	オカミミガイ科	キヌカツギハマシイノミガイ						○
29			二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	カリガネエガイ				○	○	○
30				イガイ目	イガイ科	クログチ		○		○	○	○
31				ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	○	○	○	○	○	○
32					ケガキ	<i>Saccostrea kegaki</i>			○	○		
33				異鰓帯目	オキナガイ科	オキナガイ					○	
34					ソトオリガイ	<i>Laternula marilina</i>				○		
35				マルスダレガイ目	ウロコガイ科	ニッポンマメアゲマキ			○			
36					フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ			○		○	
37					マルスダレガイ科	ヒメカノコアサリ					○	
38					アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>			○	○	○	
39					オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	○	○	○			
40					ニッコウガイ科	イチョウシラトリ				○	○	
41					ユウシオガイ	<i>Moerella rutila</i>		○		○		
42					テリザクラ	<i>Moerella iridescens</i>					○	○
43					ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>						○
44					ニッコウガイ科	Tellinidae				○		
45					アサジガイ科	シズクガイ			○	○	○	
46					マテガイ科	マテガイ	○		○	○	○	
47					バカガイ科	シオフキ	○		○	○	○	
48					バカガイ科	Mactridae					○	
49					チドリマスオ科	クチバガイ						○
50	星口動物門	サメハダホシムシ綱	サメハダホシムシ目	サメハダホシムシ科	サメハダホシムシ科	Phascosomatidae			○			
51	環形動物門	多毛綱	—	—	多毛綱	POLYCHAETA	○	○	○	○		

表 8-7.15(2) 干潟生物（汽水域）確認種一覧

番号	門	綱	目	科	和名	学名	定性調査				夏季補足調査									
							令和2年		令和3年		令和3年									
							10月	2月	4月	8月	7月	8月								
52	節足動物門	顎脚綱	無柄目	イワフジツボ科	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>	○			○										
53				フジツボ科	アミメフジツボ	<i>Amphibalanus variegatus</i>							○							
54					サラサフジツボ	<i>Amphibalanus reticulatus</i>	○			○										
55					シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>	○	○		○	○	○								
56					ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>	○	○												
57				軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	ワラジヘラムシ属	<i>Synidotea</i> sp.					○	○						
58						フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>						○	○					
59						端脚目	エンボンソコエビ科	シマドロソコエビ	<i>Grandidierella fasciata</i>						○					
60								ドロソコエビ属	<i>Grandidierella</i> sp.							○				
61								メリタヨコエビ科	メリタヨコエビ属	<i>Melita</i> sp.						○	○			
62							十脚目	クルマエビ科	ヨシエビ	<i>Metapenaeus ensis</i>							○			
63									クルマエビ	<i>Marsupenaeus japonicus</i>							○			
64									オキエビ科	シラエビ属	<i>Pasiphaea</i> sp.				○					
65									ヌマエビ科	ミノソヌマエビ	<i>Caridina leucosticta</i>							○		
66									テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>							○		
67										ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>							○		
68										シラタエビ	<i>Palaemon orientis</i>							○	○	
69										スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>							○	○	
70									テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>	○	○	○						
71										イソテッポウエビ	<i>Alpheus lobidens</i>			○						
72										テッポウエビ属	<i>Alpheus</i> sp.							○	○	
73										オートヒメテッポウエビ	<i>Automate dolichognatha</i>								○	
74									エビジャコ科	エビジャコ属	<i>Crangon</i> sp.								○	
75									スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Nihonotrypaea japonica</i>	○	○	○					○	
76									ハサミシヤコエビ科	ハサミシヤコエビ	<i>Laomedea astacina</i>				○				○	
77									アナジャコ科	アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	○	○		○					
78									ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>							○	○	
79										ホンヤドカリ科	Paguridae	○	○	○	○					
80									コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>				○	○	○			
81									ケブカガニ科	マキトラノオガニ	<i>Pilumnopus makianus</i>							○	○	
82										ケブカガニ科	Pilumnidae			○						
83									ワタリガニ科	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>								○	
84										イシガニ	<i>Charybdis japonica</i>			○		○				
85									ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ	<i>Clistocaeloma merguense</i>							○	○	
86										カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>							○	○	
87										ユビアカベンケイガニ	<i>Parasesarma tripectinis</i>							○	○	
88										フタバカクガニ	<i>Perisesarma bidens</i>							○	○	
89									モクスガニ科	ヒメアシハラガニ	<i>Helicana japonica</i>							○	○	
90										アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>							○	○	
91										ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>							○	○	
92										モクスガニ	<i>Éricheir japonica</i>								○	
93										ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>					○	○	○	○	
94										イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>							○	○	
95										タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>							○	○	
96									ムツハリアケガニ科	ムツハリアケガニ	<i>Camptandrium sexdentatum</i>				○			○	○	
97									コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>							○	○	
98										コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	○				○	○	○	○	
99									オサガニ科	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>				○			○	○	
100										ヒメヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus banzai</i>	○								
101										ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	
102									スナガニ科	スナガニ	<i>Ocyrope stimpsoni</i>	○			○	○	○	○	○	
103										ハクセンシオマネキ	<i>Austruca lactea</i>								○	○
合計								6門	8綱	18目	54科		103種	24種	21種	28種	34種	67種	58種	

注 1:○は確認されたことを示します。
 注 2:合計には種同定ができなかったものも含まれます。

e. 付着生物

現地調査結果を表 8-7. 16 に示します。現地調査により、17 目 25 科 35 種（種同定ができなかったものも含まれます。）の付着生物が確認されました。

既存護岸上部ではアラレタマキビやイワフジツボ等の耐乾性の強い種が優占していました。また、既存護岸下部では、タテジマイソギンチャクやヒザラガイ、カメノテ等が確認されました。これらの種は、いずれも岩礁性の潮間帯において普通に確認される種でした。

表 8-7. 16 付着生物（動物群）確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	学名	和名	北				南			
							令和2年		令和3年		令和2年		令和3年	
							10月	2月	4月	8月	10月	2月	4月	8月
1	海綿動物門	普通海綿綱	イソカイメン目	イソカイメン科	ダイダイイソカイメン	<i>Halichodria japonica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
2	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Haliplanella lineata</i>		○	○	○	○	○	○	○
3					イソギンチャク目	Actiniaria	○	○	○	○	○	○	○	○
4	外肛動物門	裸喉綱	唇口目	チゴケムシ科	チゴケムシ	<i>Watersipora subovoidea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
5	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton comptus</i>								○
6				クサズリガイ科	ヒザラガイ	<i>Acanthopleura japonica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
7		腹足綱	カサガイ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Cellana toreuma</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
8					マツバガイ	<i>Cellana nigrolineata</i>				○				○
9				ユキノカサガイ科	ウノアシ	<i>Patelloida lanx</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
10					ヒメコザラ	<i>Patelloida heroldi</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
11					カスリアオガイ	<i>Nipponacmea radula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
12			古腹足目	ニシキウズ科	インダタミ	<i>Monodonta labio confusa</i>		○	○	○	○	○	○	○
13				サザエ科	スガイ	<i>Lunella coronatus coreensis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
14				バテイラ科	コシダカガンガラ	<i>Omphalius rusticus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
15			新生腹足目	タマキビ科	マルウズラタマキビ	<i>Littoraria articulata</i>				○				○
16					アラレタマキビ	<i>Echinolittorina radiata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
17					タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>	○	○		○		○		○
18					ムカデガイ	<i>Thylacodes adamsii</i>					○			○
19				アッキガイ科	レイシガイ	<i>Reishia bronni</i>			○					
20					イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
21			汎有肺目	カラマツガイ科	キクノハナガイ	<i>Siphonaria sirius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
22		二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	カリガネユガイ	<i>Barbatia virescens</i>	○	○		○	○	○	○	○
23			イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>	○	○	○	○		○	○	○
24					ムラサキインコ	<i>Septifer virgatus</i>	○	○	○	○				○
25			ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
26					ケガキ	<i>Saccostrea kegaki</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
27				イタヤガイ目	ナミマガシワ科	ナミマガシワ								○
28	環形動物門	多毛綱	ケヤリムシ目	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	Serpulidae	○	○	○	○	○	○	○	○
29	節足動物門	顎脚綱	有柄目	ミョウガイ科	カメノテ	<i>Capitulum mitella</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
30			無柄目	イワフジツボ科	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
31					クロフジツボ科	クロフジツボ	<i>Tetraclita japonica</i>	○	○	○	○			○
32					フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>			○				○
33		軟甲綱	等脚目	フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>								○
34					キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				○
35			十脚目	モクズガニ科	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>					○			
合計	6門	9綱	17目	25科	35種		23種	25種	26種	27種	23種	23種	24種	27種

注 1: ○は確認されたことを示します。
 注 2: 合計には種同定ができなかったものも含まれます。

f. カブトガニ

(a) 潮間帯における定性的観察

干潟生物調査(4季)の実施の際に、カブトガニの生息状況についても確認しました。

また、令和3年6月下旬から9月下旬にかけての大潮前後の時期に、カブトガニの産卵及び生息状況を確認するため、目視観察による調査を実施しました。産卵状況の確認については、早朝及び夜間の満潮時に、稲童漁港から八津田漁港の汀線周辺におけるカブトガニの産卵行動について確認しました。生息状況の確認については、日中の干潮時に築城基地の北側に位置する砂泥質の干潟において、カブトガニの生息状況について確認しました。

いずれの調査でも、カブトガニの生息及び産卵行動は確認されませんでした。

(b) 漁業関係者への聞き取り結果

築城基地周辺の漁業関係者への聞き取りの結果、令和3年7月20日頃に西八田漁港沖に設置された刺網で成体(性別不明)が3個体捕獲されたことを確認しました。

(c) その他

令和3年7月15日に実施した海生哺乳類調査時に、稲童漁港内においてカブトガニの成体の死骸を1個体確認しました。(図8-7.3参照)



図8-7.3 稲童漁港内で確認されたカブトガニの死骸

g. 魚 類

現地調査結果を表 8-7. 17 に示します。現地調査により、12 目 43 科 102 種（種同定ができなかったものも含まれます。）の魚類が確認されました。

一年を通じて確認された種は、アカエイ、マゴチ、アカオビシマハゼ等でした。確認された魚類は、主に砂泥質に見られる一般的な種でした。

表 8-7. 17(1) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	定性調査				夏季補足調査	
					令和2年	令和3年			令和3年	
					10月	2月	4月	8月	7月	8月
1	トビエイ目	アカエイ科	アカエイ	<i>Dasyatis akajei</i>	○	○	○	○	○	○
2		ツバクロエイ科	ツバクロエイ	<i>Gymnura japonica</i>	○			○	○	
3	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>				○	○	○
4		アナゴ科	マアナゴ	<i>Conger myriaster</i>				○		
5		ハモ科	ハモ	<i>Muraenesox cinereus</i>			○			
6	ニシン目	ニシン科	サッパ	<i>Sardinella zunasi</i>					○	○
7			コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>				○	○	○
8		カタクチイワシ科	カタクチイワシ	<i>Engraulis japonica</i>			○		○	○
9	ナマズ目	ゴンズイ科	ゴンズイ	<i>Plotosus japonicus</i>						○
10	サケ目	シラウオ科	シラウオ	<i>Salangichthys microdon</i>					○	
11	トゲウオ目	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegeli</i>					○	○
12			ガンテンイシヨウジ	<i>Hippichthys penicillus</i>						○
13			サンゴタツ	<i>Hippocampus mohnikei</i>					○	○
14			ヨウジウオ科	Syngnathidae				○		
15	ボラ目	ボラ科	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>			○	○	○	○
16			メナダ	<i>Chelon haematocheilus</i>					○	○
17			ボラ科	Mugilidae	○	○				
18	トウゴロウイワシ目	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	<i>Hypoatherina valenciennei</i>					○	○
19	ダツ目	サヨリ科	サヨリ	<i>Hyporhamphus sajori</i>						○
20		ダツ科	ダツ	<i>Strongylura anastomella</i>					○	
21	スズキ目	メバル科	カサゴ	<i>Sebastes marmoratus</i>	○	○	○	○		
22			シロメバル	<i>Sebastes cheni</i>						○
23			メバル	<i>Sebastes inermis</i>	○					
24			タケノコメバル	<i>Sebastes oblongus</i>	○		○	○	○	
25			ムラソイ	<i>Sebastes pachycephalus pachycephalus</i>			○			○
26			メバル属	<i>Sebastes sp.</i>			○	○		
27		オニオコゼ科	オニオコゼ	<i>Inimicus japonicus</i>						○
28		ホウボウ科	ホウボウ	<i>Chelidonichthys spinosus</i>			○			
29			カナガシラ	<i>Lepidotrigla microptera</i>			○			
30		コチ科	マゴチ	<i>Platycephalus sp. 2</i>	○	○	○	○	○	○
31			イネゴチ	<i>Cociella crocodila</i>						○
32			コチ科	Platycephalidae				○		
33		スズキ科	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	○			○	○	○
34			スズキ属	<i>Lateolabrax sp.</i>			○			
35		テンジクダイ科	テンジクダイ	<i>Apogon lineatus</i>					○	
36		アジ科	マアジ	<i>Trachurus japonicus</i>					○	
37			マルアジ	<i>Decapterus maruadsi</i>					○	
38		ヒイラギ科	ヒイラギ	<i>Nuchequula nuchalis</i>				○	○	○
39		イサキ科	コショウダイ	<i>Plectorhinchus cinctus</i>			○	○		○
40		タイ科	ヘダイ	<i>Rhabdosargus sarba</i>	○					
41			クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	○	○	○	○	○	○
42			キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i>			○		○	
43		ニベ科	コイチ	<i>Nibea albiflora</i>						○
44		キス科	アオギス	<i>Sillago parvisquamis</i>			○	○		○
45			シロギス	<i>Sillago japonica</i>			○	○	○	○

表 8-7. 17(2) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	定性調査				夏季補足調査	
					令和2年	令和3年			令和3年	
					10月	2月	4月	8月	7月	8月
46	スズキ目	シマイサキ科	シマイサキ	<i>Rhynchopelates oxyrhynchus</i>						○
47		イシダイ科	イシダイ	<i>Oplegnathus fasciatus</i>						○
48		メジナ科	メジナ	<i>Girella punctata</i>	○		○	○		
49		ペラ科	キュウセン	<i>Parajulis poecileptera</i>			○	○		
50		アイナメ科	クジメ	<i>Hexagrammos agrammus</i>			○	○		
51		カジカ科	アナハゼ属	<i>Pseudoblennius</i> sp.	○		○			
52		ニシキギンボ科	ニシキギンボ科	Pholidae			○			
53		イソギンボ科	イソギンボ	<i>Parablennius yatabei</i>						○
54			トサカギンボ	<i>Omobranchus fasciolatoceps</i>					○	○
55			イダテンギンボ	<i>Omobranchus punctatus</i>				○		○
56			ナベカ	<i>Omobranchus elegans</i>		○	○	○	○	○
57			イソギンボ科	Blenniidae		○			○	
58		ネズッポ科	ネズミゴチ	<i>Repomucenus curvicornis</i>				○	○	○
59			ネズッポ科	Callionymidae		○	○	○	○	
60		ハゼ科	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>			○	○		
61			イソミミズハゼ	<i>Luciogobius</i> sp. 6				○	○	
62			ミミズハゼ属	<i>Luciogobius</i> sp.			○			
63			ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>				○	○	○
64			タビラクチ	<i>Apocryptodon punctatus</i>						○
65			トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>				○		○
66			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		○		○	○	○
67			アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>		○		○	○	○
68			シラスイハゼ	<i>Silhouettea dotui</i>				○	○	○
69			アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>		○		○	○	○
70			マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>				○		○
71			シロチチブ	<i>Tridentiger nudicervicus</i>				○	○	
72			アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>		○	○	○	○	○
73			シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>				○	○	
74			チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>		○		○	○	○
75			チチブ属	<i>Tridentiger</i> sp.						○
76			クモハゼ	<i>Bathygobius fuscus</i>		○				
77			ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>		○			○	○
78	ツマグロスジハゼ		<i>Acentrogobius</i> sp. 2				○		○	
79	スジハゼ		<i>Acentrogobius virgatulus</i>				○		○	
80	キララハゼ属		<i>Acentrogobius</i> sp.		○	○	○	○		
81	ヒメハゼ		<i>Favonigobius gymnauchen</i>		○	○	○	○	○	
82	ニクハゼ		<i>Gymnogobius heptacanthus</i>		○		○	○	○	
83	ピリンゴ		<i>Gymnogobius breunigii</i>					○	○	
84	アゴハゼ		<i>Chaenogobius annularis</i>		○	○	○	○	○	
85	ハゼ科		Gobiidae		○			○		
86	カマス科	アカカマス	<i>Sphyraena pinguis</i>					○		
87	カレイ目	ヒラメ科	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>	○		○	○	○	
88		ガンゾウヒラメ属	<i>Pseudorhombus</i> sp.			○				
89		カレイ科	イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>			○	○	○	
90		ウシノシタ科	クロウシノシタ	<i>Paraplagusia japonica</i>				○		
91		アカシタヒラメ	<i>Cynoglossus joyneri</i>				○		○	
92	—	カレイ目	Pleuronectiformes	○	○					
93	フグ目	ギマ科	ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>					○	
94		カワハギ科	アミメハギ	<i>Rudarius ercodes</i>	○	○		○	○	
95			カワハギ	<i>Stephanolepis cirrhifer</i>				○	○	
96			カワハギ科	Monacanthidae				○		
97		フグ科	ヒガンフグ	<i>Takifugu pardalis</i>					○	
98			ショウサイフグ	<i>Takifugu snyderi</i>	○	○	○	○		
99			コモンフグ	<i>Takifugu poecilonotus</i>				○	○	
100			シマフグ	<i>Takifugu xanthopterus</i>					○	
101			クサフグ	<i>Takifugu niphobles</i>	○	○	○	○	○	
102		トラフグ	<i>Takifugu rubripes</i>					○		
合計	12目	43科		102種	32種	15種	50種	52種	51種	55種

注 1: ○は確認されたことを示します。
 注 2: 合計には種同定ができなかったものも含まれます。

h. 海生哺乳類

現地調査結果を表 8-7. 18 に示します。現地調査により、1 目 1 科 1 種の海生哺乳類が確認されました。

確認された海生哺乳類は、スナメリのみで、通年で調査範囲内の広範囲にわたって確認されました。

なお、沿岸域に位置する定置網の周辺において、採餌行動や呼吸のために浮上した姿が多く確認されました。

表 8-7. 18 海生哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期												
					令和2年				令和3年								
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
1	クジラ目	クジラ科	スナメリ	<i>Neophocaena phocaenoides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計	1目	1科		1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	1種

注:○は確認されたことを示します。

③ 生息環境（底質・基盤）

底生生物の定量調査を実施した調査地点の夏季及び冬季の底質の化学分析結果を表 8-7.19、粒度組成を図 8-7.4 に示します。混入物は、各地点とも貝殻片のみで、臭気確認では、St.3 で、冬季（1月）にのみ硫化水素臭が確認されましたが、その他の地点については、通年において無臭でした。化学的酸素要求量、全窒素及び全リンは、地点間、季節間で変動が見られましたが、いずれの項目についても指針値の範囲内で変動していません。なお、硫化物は St.2 の夏季と冬季、St.3 の夏季において、水産用水基準を上回っていました。地点間の粒度組成を比較すると、St.2、St.3 は St.1、St.5 に比べ、砂が多く含まれていました（図 8-7.4 参照）。

潮間帯の底質の分布状況を図 8-7.5、実際の状況を図 8-7.6 に示します。底質の分布状況については、築城基地周辺において干潮時に UAV による空撮を実施し、潮間帯の底質の分布状況の概況を把握しました。築城基地周辺の潮間帯は干潟となっており、砂・砂泥、礫（～100mm）、転石（100m～）がモザイク状に分布していました。なお、本事業による潮間帯の底質の改変状況について整理した結果を表 8-7.20 に示します。

潮下帯の底質の分布状況を図 8-7.7、実際の状況を図 8-7.8 に示します。底質の分布状況については、潜水による測線調査の際、底質についても記録しました。いずれの測線でも、岩盤は少なく、礫の混じった砂泥が広く分布していました。また、沖合に進むにつれ砂質やシルト質に変化する傾向が見られました。なお、本事業により既存護岸の周辺に分布する礫、礫混砂泥、砂、砂泥、シルト質の潮下帯の一部が改変されることとなります。

表 8-7.19 底質の化学分析結果

調査項目		St.1		St.2		St.3		St.5		定量 下限値	【参考】 水産用水基準 ^{注1}
		7月	1月	7月	1月	7月	1月	7月	1月		
硫化物	mg/g	0.07	0.04	0.46	0.22	0.40	0.19	0.02	N.D.	0.01	0.2 以下
強熱減量	%	7.5	4.9	8.3	6.7	8.0	9.2	2.7	5.5	0.1	—
化学的酸素要求量	mg/g	7.0	3.0	7.0	4.2	8.9	6.8	1.8	2.9	0.1	20 以下
全窒素	mg/g	2.4	1.4	5.2	1.5	2.6	4.3	0.41	1.2	0.05	—
全リン	mg/g	1.1	0.82	1.3	0.85	1.0	1.3	0.63	0.73	0.02	—

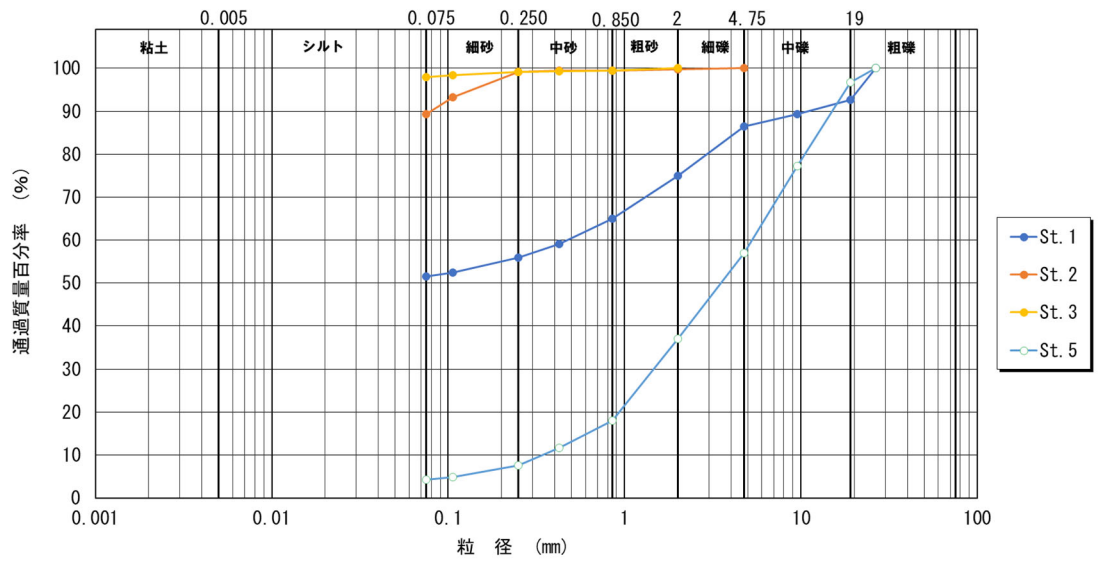
注1:水産用水基準 2018 年版（平成 30 年 8 月 （社）日本水産資源保護協会）

注2:網掛けは水産用水基準を上回っていることを表します。

表 8-7.20 潮間帯の底質の改変状況

底質区分	現況面積 (ha)	直接的影響（面積：ha）		改変割合（%）
		事業実施 区域内	事業実施 区域外	
砂・砂泥	43.453	3.078	40.375	7.083
礫	71.536	3.651	67.885	5.103
転石	3.318	0.004	3.314	0.132

【夏季:7月】



【冬季:1月】

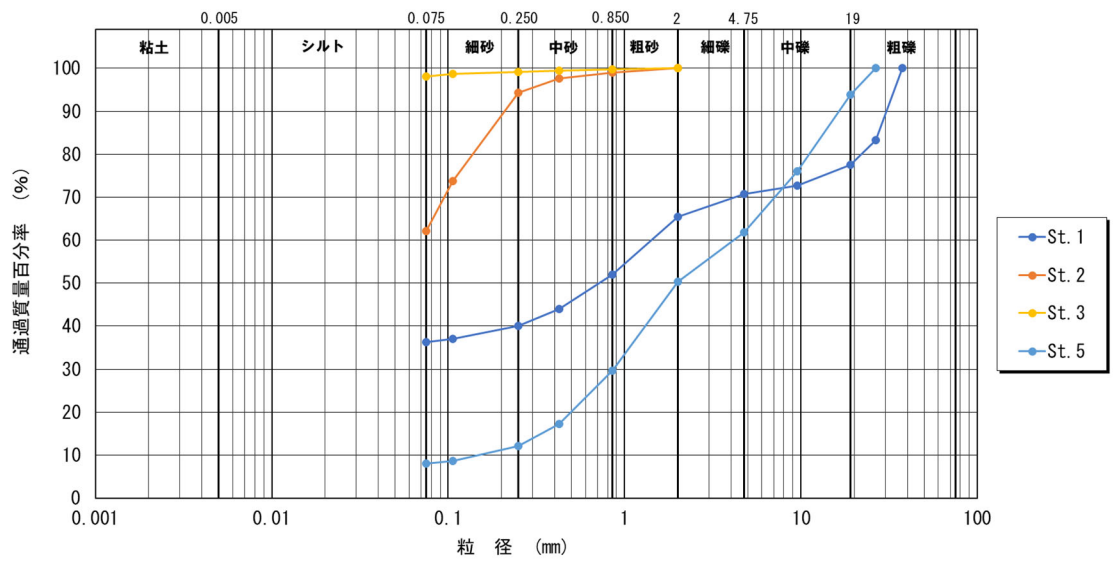








図 8-7.4 粒度組成分析結果



凡例

- | | |
|--|--|
|  対象事業実施区域 |  砂、砂泥 |
|  航空自衛隊 築城基地 |  礫 |
|  市町村界 |  転石 |

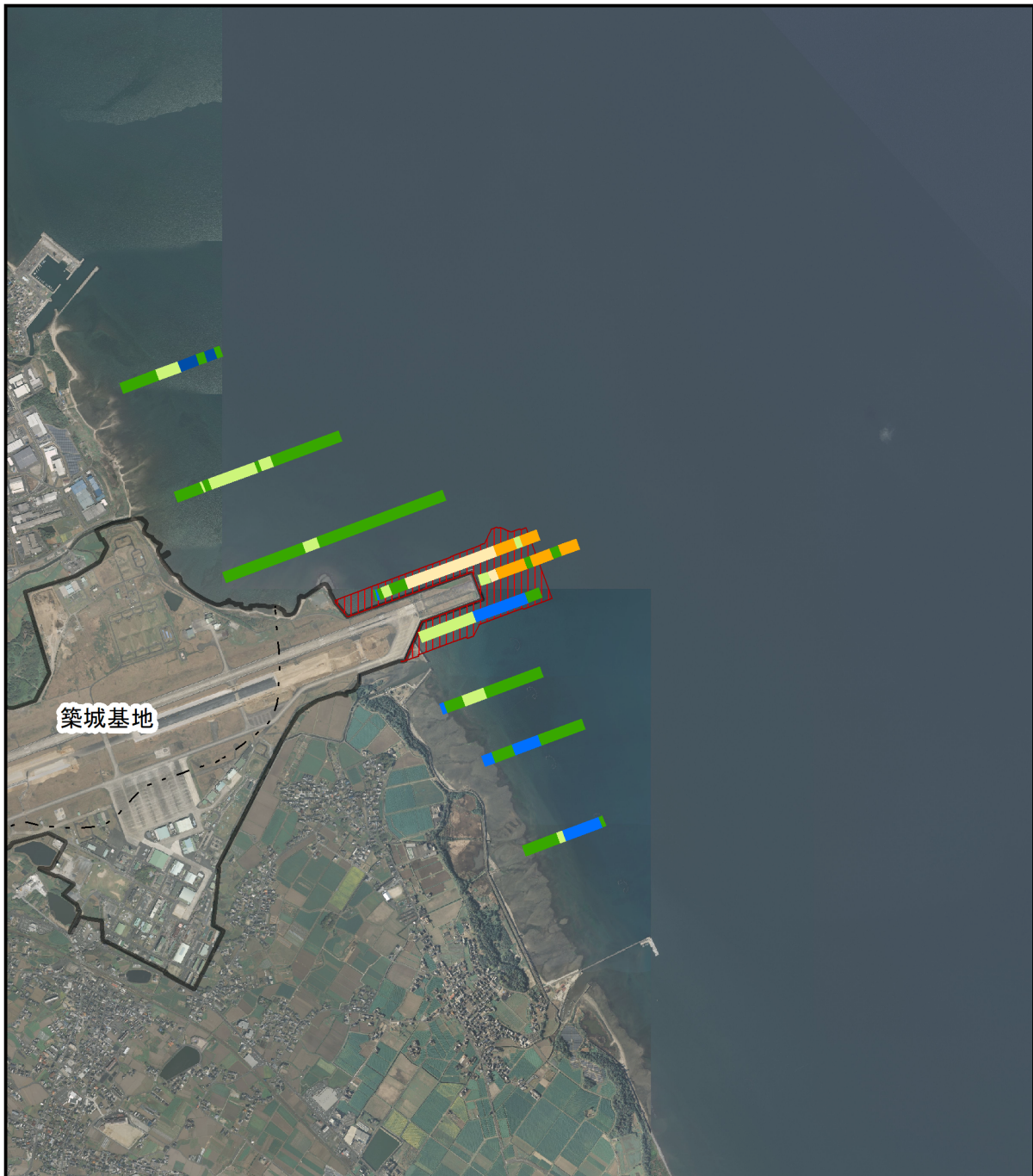


0 500 1,000 m










図 8-7.5
潮間帯の底質の分布状況

対象事業実施区域		
	砂・砂泥(築城基地南側)	礫(築城基地北側)
対象事業実施区域周辺		
	砂・砂泥(築城基地南側)	砂・砂泥(築城基地北側)
		
	礫(築城基地南側)	礫(築城基地北側)

図 8-7.6 築城基地周辺における潮間帯の底質



凡例

- | | |
|--|--|
|  対象事業実施区域 |  岩盤 |
|  航空自衛隊 築城基地 |  礫 |
|  市町村界 |  礫混砂泥 |
| |  砂 |
| |  砂泥 |
| |  シルト |



0 500 1,000 m

図 8-7.7
潮下帯の底質の分布状況

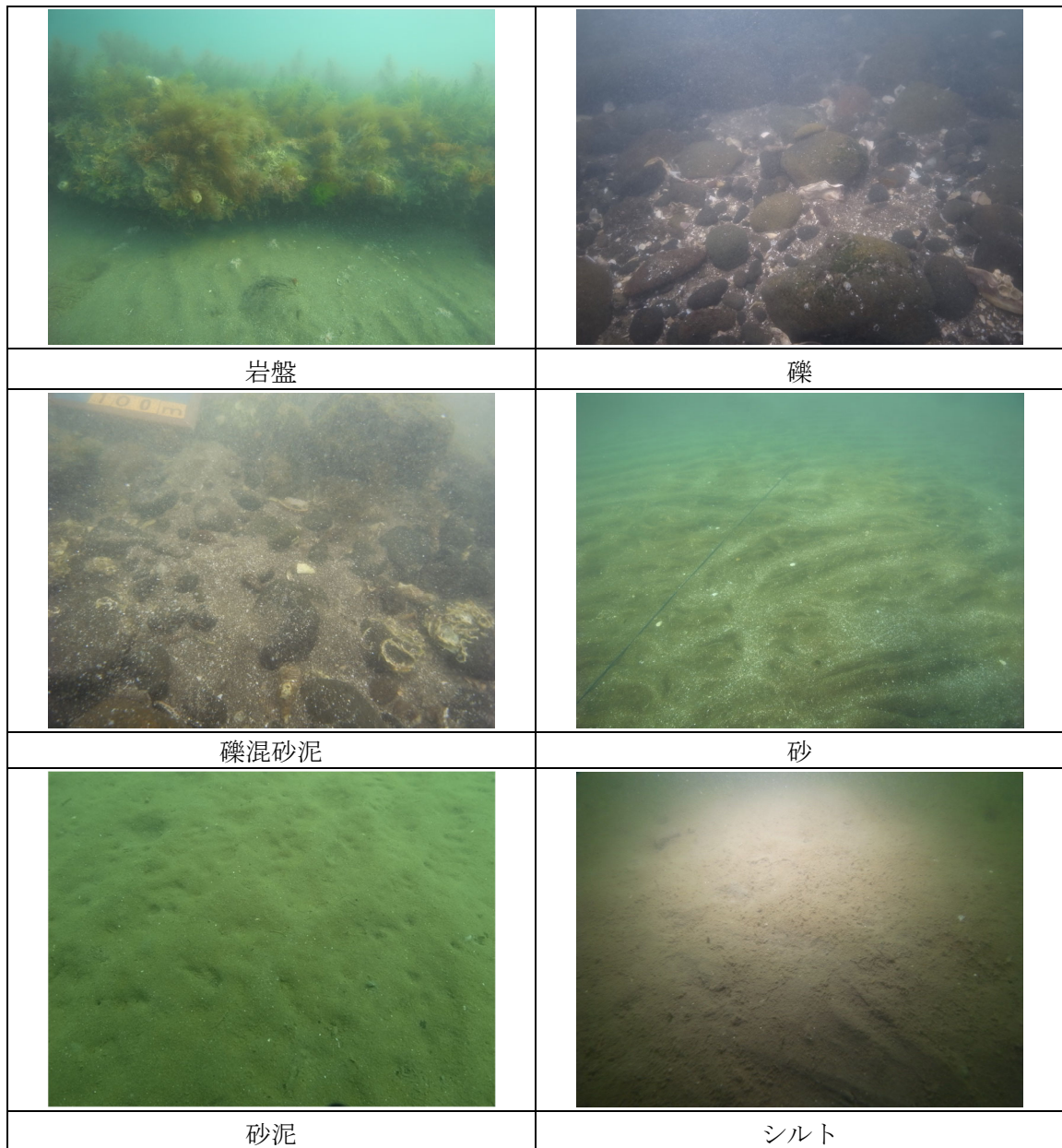


図 8-7.8 築城基地周辺における潮下帯の底質

(6) 現地調査で確認した重要な種

現地調査で確認した各動物の重要な種の選定基準を表 8-7.21 に示します。

これらの選定基準によって調査地域内での生息が確認された重要な種は、哺乳類 3 種、鳥類 19 種、爬虫類 3 種、両生類 1 種、昆虫類 15 種、底生生物（干潟・付着生物調査の結果を含む）44 種、魚類（魚卵・稚仔魚調査の結果を含む）12 種、海生哺乳類 1 種でした。

表 8-7.21 重要な種の選定基準

法令・文献等	選定基準等		
	凡例	カテゴリー	
天然記念物 (文化財保護法)	『文化財保護法』昭和25年5月30日 法律第214号<改正> 平成26年6月13日 法律第69号に基づく天然記念物 『福岡県文化財保護条例』昭和30年4月1日 条例第25号<改正> 平成16年12月27日 条例第65号に基づく天然記念物 『行橋市文化財保護条例』平成14年7月2日 条例第18号 に基づく天然記念物 『みやこ町文化財保護条例』平成18年3月20日 条例第111号に基づく天然記念物 『築上町文化財保護条例』平成18年1月10日 条例第184号 に基づく天然記念物 『豊前市文化財保護条例』昭和42年12月27日 条例第17号<改正> 平成57年7月5日 条例第38号に基づく天然記念物		
	特天	国指定特別天然記念物: 特別天然記念物に指定されているもの	
	天	国指定天然記念物: 天然記念物に指定されているもの	
	天(●)	県・市・町指定天然記念物: 地方自治体の「文化財保護条例」等に基づく県・市・町指定の天然記念物	
種の保存法	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』平成4年6月5日 法律第75号<改正> 平成29年6月2日 法律第51号 に基づく希少野生動植物種		
	国内	国内希少野生動植物種: 国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為的な影響により減少が見られる種等 国際 国際希少野生動植物種: 国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種(国内希少野生動植物種を除く)	
福岡県条例	『福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例』令和2年10月6日 福岡県条例第42号 に基づく希少野生動植物種		
	指定	指定希少野生動植物種	
環境省 レッドリスト (動物)	『環境省レッドリスト2020』令和2年 環境省		
	EX	絶滅: 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	
	EW	野生絶滅: 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種	
	CR+EN	絶滅危惧 I 類: 絶滅の危機に瀕している種	
	CR	絶滅危惧 I A 類: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	
	EN	絶滅危惧 I B 類: I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	
	VU	絶滅危惧 II 類: 絶滅の危険が増大している種	
	NT	準絶滅危惧: 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	
	DD	情報不足: 評価するだけの情報が不足している種	
LP	地域個体群: 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの		
環境省 海洋生物 レッドリスト (動物)	『環境省海洋生物レッドリスト2017』平成29年 環境省		
	EX	絶滅: 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	
	EW	野生絶滅: 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種	
	CR+EN	絶滅危惧 I 類: 絶滅の危機に瀕している種	
	CR	絶滅危惧 I A 類: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	
	EN	絶滅危惧 I B 類: I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	
	VU	絶滅危惧 II 類: 絶滅の危険が増大している種	
	NT	準絶滅危惧: 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	
	DD	情報不足: 評価するだけの情報が不足している種	
LP	地域個体群: 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの		
福岡県 レッドデータブック	『福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2011—植物群落、植物、哺乳類、鳥類—』平成23年 福岡県 『福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014—爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類その他、クモ形類—』平成26年 福岡県		
	EX	絶滅: 過去に福岡県で生息していたことが確認されており、最後の個体が死亡・消失したことに疑いがない分類群	
	EW	野生絶滅: 福岡県内すべての自生地で消失したが、福岡県産であることが確実な個体が公的機関で栽培・系統保持されている分類群	
	CR	絶滅危惧 I A 類	【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている ④ほとんど分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している
			【情報量が少ないもの】 ⑤それほど遠くない過去(30~50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの(絶滅危惧 I A 類とする) なお、定量評価が困難な場合でも、減少傾向の有無にかかわらず、県内の成熟個体数が二桁(10~100)程度と推定されるものは絶滅危惧 I A 類、成熟個体数が三桁程度と推定されるものは絶滅危惧 I B 類とした
	VU	絶滅危惧 II 類: 【確実な情報があるもの】 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している	
	NT	準絶滅危惧: 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性(具体的には、次のいずれかの要素)を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種 a) どの生息地においても生息密度が低く希少である b) 生息地が局限されている c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等) d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている	
	DD	情報不足: 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性(具体的には、次のいずれかの要素)を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種 a) どの生息地においても生息密度が低く希少である b) 生息地が局限されている c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等) d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている	
	LP	絶滅のおそれのある地域個体群: 次のいずれかに該当する地域個体群 ①生育状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの ②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの	

① 陸上動物の重要種

築城基地周辺では表 8-7.22 に示すとおり、哺乳類 3 種、鳥類 19 種、爬虫類 3 種、両生類 1 種、昆虫類 15 種の重要種が確認されました。

陸上動物の重要種の生態情報と確認状況を表 8-7.23～表 8-7.27 に示します。

表 8-7.22 現地調査で確認された重要な種一覧（陸上動物）

調査項目	目名	科名	種名	重要な種の選定基準					確認場所		
				天然記念物	種の保存法	福岡県条例	環境省 RL	福岡県 RDB	対象事業実施区域内	対象事業実施区域外	
哺乳類	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ					VU		○	
	ネコ目	イヌ科	キツネ					NT		○	
		イタチ科	イタチ属の一種					NT※		○	
			イタチ科の一種					NT※		○	
鳥類	カモ目	カモ科	ツクシガモ				VU	NT		○	
	ペリカン目	サギ科	アマサギ					NT		○	
			チュウサギ			NT	NT		○		
	ツル目	クイナ科	ヒクイナ				NT	NT		○	
	チドリ目	チドリ科	タゲリ					NT		○	
			シロチドリ				VU	NT		○	
			メダイチドリ		国際					○	
		シギ科	オオソリハシシギ		国際		VU	NT		○	
			ハマシギ				NT	NT		○	
			オオセグロカモメ				NT			○	
	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ					NT		○	
		タカ科	ハイタカ					NT		○	
			オオタカ					NT		○	
			サシバ				VU	NT		○	
			ノスリ					NT		○	
	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ		国内		VU	VU		○	
	スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ						VU		○
ヨシキリ科		オオヨシキリ						NT		○	
ヒタキ科		クロツグミ						NT		○	
爬虫類	有鱗目	ナミヘビ科	ジムグリ					NT		○	
			シロマダラ					NT		○	
			ヒバカリ					NT		○	
両生類	有尾目	イモリ科	アカハライモリ				NT	NT		○	
昆虫類	トンボ目（蜻蛉目）	サナエトンボ科	タバサナエ					NT	NT		○
		トンボ科	ミヤマアカネ						NT		○
	カメムシ目（半翅目）	コオイムシ科	コオイムシ				NT	NT		○	
		タイコウチ科	ミズカマキリ						NT		○
	トビケラ目（毛翅目）	トビケラ科	ツマグロトビケラ					DD		○	
	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	マイマイカブリ						NT		○
			タナカツヤハネゴミムシ					DD		○	
		ゲンゴロウ科	ヒコサンセスジゲンゴロウ						EN		○
			コガタノゲンゴロウ				VU	VU		○	
			ウスイロシマゲンゴロウ					NT		○	
		ガムシ科	スジヒラタガムシ						NT		○
			コガムシ						DD	VU	
		ヒメドロムシ科	ヨコミズドロムシ					VU	NT		○
	ジョウカイモドキ科	クロキオビジョウカイモドキ						VU		○	
	ハチ目（膜翅目）	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ					DD		○	
合計	16目	28科	41種	0	3	0	21	34	0	41	

注 1: 表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7.21 に示しています。

注 2: イタチ属の一種、イタチ科の一種は、イタチ (*Mustela itatsi*) であった場合、重要種に該当します。

表 8-7.23 重要な種の生態情報及び確認状況（哺乳類）

No.	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
1	カヤネズミ	福岡県 RDB:VU	日本では本州（北限は宮城県）、四国、九州、周辺の島嶼に分布します。河川や湖沼のそばの自然草地や、農地、堤防や道路のり面等の草地に生息し、主にイネ科の種子や昆虫を捕食します。イネ科やカヤツリグサ科の植物の葉を細く噛み裂き、絡み合わせて球形の巣を作ります。	【対象事業実施区域外】 秋季:4ヶ所（草地）/4個（球巣） 冬季:7ヶ所（草地）/8個（球巣） 夏季:3ヶ所（草地）/3個（球巣）
2	キツネ	福岡県 RDB:NT	北海道、本州、四国、九州に分布します。海岸から高山までの、農耕地、森林、原野と集落地が混在する環境を好んで生息し、哺乳類、鳥類、爬虫類、昆虫類を捕食するほか、果実を採食します。	【対象事業実施区域外】 [無人撮影] 秋季:1例（樹林内） 冬季:22例（樹林内、海岸） 春季:1例（樹林内） 夏季:17例（樹林内） [フィールドサイン] 冬季:1例（糞、農耕地） 春季:2例（糞、草地）
3	イタチ属の一種	福岡県 RDB:NT	イタチ属の一種は、イタチまたはチョウセンイタチの可能性ががあります。イタチ科の一種は、テン、イタチ、チョウセンイタチの可能性ががあります。 イタチであった場合、重要な種に該当し、福岡県では、低地から山地の森林に生息しています。山地ではイタチは河川沿いに分布していますが、集落や耕作地周辺ではチョウセンイタチが入り込んでおり、イタチの生息環境はかなり限定されています。	【対象事業実施区域外】 [無人撮影] 秋季:13例（樹林内、海岸） 冬季:19例（樹林内、海岸） 春季:1例（樹林内） 夏季:3例（樹林内）
4	イタチ科の一種			【対象事業実施区域外】 [無人撮影] 冬季:3例（樹林内） 夏季:1例（樹林内） [フィールドサイン] 秋季:5例（足跡・糞、海岸部、耕作地） 冬季:7例（糞、樹林、神社の境内、池周辺） 春季:7例（糞、草地、樹林） 夏季:3例（糞、草地、耕作地、樹林）

注1:表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表8-7.21に示しています。

注2:生態情報は以下の出典より作成しました。

出典:「カヤネズミの本」平成26年2月 畠佐代子

「日本動物大百科 第1巻」平成8年2月 株式会社平凡社

「福岡県の希少野生生物-福岡県のレッドデータブック 2011-」平成23年 福岡県

表 8-7. 24(1) 重要な種の生態情報及び確認状況（鳥類）

No.	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
1	ツクシガモ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	日本では冬鳥として、九州、特に有明海に飛来します。泥深い干潟の水路や水を張った水田で越冬します。軟体動物、昆虫、甲殻類などを捕食します。	【対象事業実施区域外】 冬季:2 個体（海域上空）
2	アマサギ	福岡県 RDB:NT	日本では夏鳥として飛来し、本州から九州までの各地で繁殖します。農耕地や草原、河原、湖沼地などに生息し、イナゴ、バッタなどの昆虫やカエルなどを捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:1 個体（草地）
3	チュウサギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	日本では夏鳥として飛来し、本州から九州までの各地で繁殖します。平地の水田、湿地、ときには大きな川に生息し、昆虫、クモ類、ドジョウやフナなどの魚類、アメリカザリガニなどの甲殻類、カエルなどの両生類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:3 個体（ため池、樹林内サギ類繁殖コロニー）
4	ヒクイナ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	日本では夏鳥として、ほぼ全国的に繁殖するほか、東海地方以西の暖地では割合多く越冬していると考えられます。平地から低山の湖沼、河川、水田などの水辺の湿地の草むらや、ヨシやマコモが密生する場所に生息し、昆虫、クモ、カエル、エビ、小魚を捕食するほか、植物質ではタデ科、イネ科、キク科などの草の種子を採食します。	【対象事業実施区域外】 春季:2 例（無人撮影、海岸）
5	タゲリ	福岡県 RDB:NT	日本では本州、四国、九州などの各地に冬鳥として飛来します。水田、湿田、干潟、河原や湖沼の水辺、湿っぽい畑地、水溜りのある荒地などに生息し、地上の昆虫やその幼虫など、無脊椎動物を捕食します。	【対象事業実施区域外】 冬季:8 個体（耕作地）
6	シロチドリ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	日本では本州以南に夏鳥として飛来し繁殖するほか、本州西南部以南では、少数が越冬します。海岸の砂浜、河口の干潟、大きい河川の広々とした砂州などで繁殖します。渡り期や越冬地では海岸や河口の干潟、潟湖、湖沼、溜池、河川などの砂泥地に生息し、昆虫、クモ類、ハマトビムシなどの甲殻類、ミミズやゴカイ類、小型の貝類、ヨコエビ類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 秋季:18 個体（海岸部干潟周辺） 冬季:37 個体（海岸部干潟周辺） 春季:2 個体（海岸部干潟周辺） 夏季:4 個体（海岸部干潟周辺、海岸草地）
7	メダイチドリ	種の保存法:国際	日本では旅鳥として飛来します。海岸の砂浜、干潟、内陸の河川、湖沼、溜池などの砂泥地に生息します。また、ゴカイ類を主に、貝類や甲殻類、昆虫類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 秋季:5 個体（海岸部干潟周辺） 冬季:2 個体（海岸部干潟周辺） 春季:7 個体（海岸部干潟周辺） 夏季:1 個体（海岸部干潟周辺）

表 8-7. 24(2) 重要な種の生態情報及び確認状況（鳥類）

No.	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
8	オオソリハシギ	種の保存法:国際 環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	日本では旅鳥として飛来します。河岸の砂泥地、水溜まりや干潟、水田、河川、湖沼の砂泥地に生息し、甲殻類、軟体動物、昆虫、小魚などを捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:1 個体（干潟周辺）
9	ハマシギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	日本では旅鳥として飛来するほか、日本各地の海岸や河川で少数が越冬します。渡り期や越冬地では海岸の砂浜、干潟、水溜まり、潟湖、溜池、水を張った水田、内陸の湖沼や大きい河川の砂泥地などに生息し、水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 秋季:2 個体（海岸部干潟周辺） 冬季:3 個体（海岸部干潟周辺）
10	オオセグロカモメ	環境省 RL:NT	日本では北海道、本州北部で繁殖します。留鳥または冬鳥で、九州南部まで分布します。繁殖期には、断崖に囲まれた岬、孤島、岩礁、非繁殖期には比較的沿岸にいて、岩石海岸、河口部、砂浜海岸、漁港などに生息し、動物の死体や生体、ゴミ、鳥類の雛等を捕食します。	【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体（干潟周辺）
11	ミサゴ	環境省 RL:NT	日本では留鳥として、北海道から沖縄で少数が繁殖します。海岸、大きな川、湖などで魚類を捕食し、人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に巣を作ります。	【対象事業実施区域内】 秋季:1 個体（海岸部） 【対象事業実施区域外】 秋季:2 個体（海域、干潟周辺） 冬季:4 個体（海域、干潟周辺、耕作地） 春季:1 個体（海域） 夏季:1 個体（ため池上空）
12	ハイタカ	環境省 RL:NT	日本では本州以北では留鳥であり、冬季に少数が暖地へ移動します。平地から亜高山帯の林のほか、秋季、冬季には海岸近くの農耕地に生息し、小型鳥類のほかネズミ・モグラ類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体（海岸部樹林）
13	オオタカ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	日本では留鳥として、四国の一部及び本州、北海道の広い範囲で繁殖します。平地から亜高山帯（秋・冬は低山帯）の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林に生息し、主にツグミ級の小型鳥類のほか、ハト、カモ、シギ、キジなどの中・大型鳥類や、ネズミ、ウサギなどを捕食します。	【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体（耕作地）
14	サシバ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	日本では夏鳥として飛来し、九州から青森県にかけて繁殖します。低地から丘陵の森林に生息し、生息地周辺の水田などの開けた環境で、ヘビ類、ネズミ、モグラ、小型鳥類、カエル類、昆虫類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:1 個体（耕作地から基地上空）

表 8-7. 24 (3) 重要な種の生態情報及び確認状況（鳥類）

No.	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
15	ノスリ	福岡県 RDB:NT	日本では北海道から四国で繁殖し、秋季、冬季には全国に分散します。平地から亜高山帯の林に生息し、付近の荒地、河原、耕地、干拓地でネズミなどの小型哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫、鳥などを捕食します。	【対象事業実施区域外】 冬季:1 個体（海岸部樹林）
16	ハヤブサ	種の保存法:国内 環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	日本では北海道から九州北西部の島嶼まで分布し、多くは留鳥として繁殖します。海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野などに生息し、主にヒヨドリ級の中型鳥類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 冬季:1 個体（海岸干潟周辺） 春季:1 個体（工場周辺） 夏季:2 個体（耕作地、築城基地内）
17	サンコウチョウ	福岡県 RDB:VU	日本では夏鳥として飛来し、本州から屋久島までの各地で繁殖します。平地から標高 1000m 以下の山地の暗い林に生息し、昆虫類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:1 個体（樹林）
18	オオヨシキリ	福岡県 RDB:NT	日本では夏鳥として飛来し、北海道北・東部と沖縄を除く全国に分布します。海岸や河口などの低地の湿原や、山地の湖岸や川岸の湿地のヨシ原に生息し、昆虫を捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:3 個体（海岸、河川沿いの草地） 夏季:4 個体（海岸沿いの草地）
19	クロツグミ	福岡県 RDB:NT	日本では夏鳥として飛来し、九州以北の各地に分布、主に本州中部以北で繁殖します。低山帯の林から標高 1000m 以下の山地に生息し、ミミズやゴミムシなどの昆虫類を捕食するほか、ヤマザクラ、ノブドウ、ヒサカキなどの果実を採食します。	【対象事業実施区域外】 秋季:8 例（無人撮影、樹林内、海岸）

注 1:表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7. 21 に示しています。

注 2:生態情報は以下の出典より作成しました。

出典:「原色日本野鳥生態図鑑」平成 7 年 3 月 株式会社保育社

「日本の野鳥 新版（山溪ハンディ図鑑 7）」平成 26 年 1 月 株式会社山と溪谷社

表 8-7.25 重要な種の生態情報及び確認状況（爬虫類）

No.	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
1	ジムグリ	福岡県 RDB:NT	北海道、本州、四国、九州やその周辺の島嶼部に分布します。主に丘陵地から山地の森林に生息するほか、畑や草むらでも見られ、ネズミやモグラ等の小型哺乳類を捕食します。	【対象事業実施区域外】 夏季:成体1個体（草地）
2	シロマダラ	福岡県 RDB:NT	北海道、本州、四国、九州やその周辺の島嶼部に分布します。山地から平地まで様々な場所に生息し、主にトカゲ類や小型のヘビを捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:死体1個体（草地）
3	ヒバカリ	福岡県 RDB:NT	本州、四国、九州やその周辺の島嶼部に分布します。水田や湿地等の水辺環境に生息し、カエル類とその幼生、小魚、ミミズ等を捕食します。	【対象事業実施区域外】 夏季:成体1個体（水路）

注1:表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7.21 に示しています。

注2:生態情報は以下の出典より作成しました。

出典:「野外観察のための日本産爬虫類図鑑 日本に生息する爬虫類 109 種類を網羅」平成 28 年 3 月 緑書房

表 8-7.26 重要な種の生態情報及び確認状況（両生類）

No.	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
1	アカハライモリ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	本州、四国、九州やその周辺の島嶼部に分布します。水田や池、小川等に生息し、主にミミズ、昆虫類、カエル類の幼生等を捕食します。	【対象事業実施区域外】 春季:成体4個体（湿地） 夏季:成体3個体、幼体4個体（湿地、小水路）

注1:表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7.21 に示しています。

注2:生態情報は以下の出典より作成しました。

出典:「日本動物大百科 第5巻」平成8年12月 株式会社平凡社

表 8-7.27(1) 重要な種の生態情報及び確認状況（昆虫類）

No.	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
1	タバサナエ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼や湿地、緩やかな流れに生息します。幼虫で越冬し、成虫は4月～5月頃までみられます。	【対象事業実施区域外】 春季:成虫10個体、幼虫20個体（湿地）
2	ミヤマアカネ	福岡県 RDB:NT	丘陵地や低山地の水田や湿原の緩やかな流れに生息します。成虫は7月～12月頃までみられます。	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫1個体（ため池）
3	コオイムシ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	水深の浅い開放的な止水域に生息し、オタマジャクシや小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食します。	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫1個体（ため池）
4	ミズカマキリ	福岡県 RDB:NT	主に止水域に生息し、比較的水深のある環境を好みます。秋までに成虫になり、水中で越冬します。	【対象事業実施区域外】 秋季:成虫1個体（水路） 夏季:幼虫2個体（ため池）

表 8-7. 27(2) 重要な種の生態情報及び確認状況（昆虫類）

No.	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
5	ツマグロトビケラ	福岡県 RDB:DD	丘陵地の止水域に生息しますが、詳しい生態はわかっていません。福岡県では、行橋市や朝倉市、うきは市、久留米市で記録されています。	【対象事業実施区域外】 春季:成虫1個体（樹林）
6	マイマイカブリ	福岡県 RDB:NT	平地から低山地の樹林地に生息し、主にカタツムリ類を食べます。	【対象事業実施区域外】 秋季:成虫1個体（樹上）
7	タナカツヤハネゴミムシ	環境省 RL:DD	平野部の湿地や河川敷に生息し、石や落ち葉の下、草の根際などに潜みます。	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫4個体（樹林内、ため池周辺）
8	ヒコサンセスジゲンゴロウ	福岡県 RDB:EN	干上がりやすい浅い湿地に生息し、特に林内で落ち葉の堆積した薄暗い環境を好みます。福岡県では、タイブ産地である	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫1個体（樹林内）
9	コガタノゲンゴロウ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	水生植物が豊富な池沼や休耕田など浅い湿地環境に生息します。	【対象事業実施区域外】 秋季:成虫1個体（水路）
10	ウスイロシマゲンゴロウ	福岡県 RDB:NT	水生植物が豊富な池沼や湿地、休耕田などの止水環境に生息します。	【対象事業実施区域外】 秋季:成虫1個体（水路） 夏季:成虫1個体（水路）
11	スジヒラタガムシ	環境省 RL:NT	止水域に生息し、水質が良好で植物が豊富な湿地を好みます。幼虫は4月～9月まで確認されています。	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫3個体（樹林内、ため池周辺）
12	コガムシ	環境省 RL:DD 福岡県 RDB:VU	止水域に生息し、水田などの浅い湿地を好みます。幼虫は5月～6月に確認されています。	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫1個体（ため池周辺）
13	ヨコミゾドロムシ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	河川の中～下流域の岸際の植生帯や流木上に生息します。成虫は1年中見られます。	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫1個体（水路）
14	クロキオビジョウカイモドキ	福岡県 RDB:VU	海岸砂丘や海岸砂礫地に生息します。詳しい生活史はよくわかっていませんが、他の昆虫の幼虫などを捕食していると考えられます。	【対象事業実施区域外】 夏季:成虫1個（砂丘植生）
15	ヤマトアシナガバチ	環境省 RL:DD	平地から低山地に生息し、草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒下、壁にも営巣します。	【対象事業実施区域外】 春季:成虫1個体（草地）

注1:表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7. 21 に示しています。

注2:生態情報は以下の出典より作成しました。

出典:「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類」平成 27 年 環境省
「原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」平成 11 年 北海道大学図書刊行会
「増補改訂第 2 版 昆虫の図鑑 採集と標本の作り方」令和 2 年 南方新社
「日本の水生昆虫（ネイチャーガイド）」令和 2 年 2 月 文一総合出版
「福岡県の希少野生生物-福岡県のレッドデータブック 2014-」平成 26 年 福岡県

② 水生生物の重要な種

築城基地周辺では表 8-7.28 に示すとおり、底生生物（干潟・付着生物調査の結果を含む）44 種、魚類（魚卵・稚仔魚調査の結果を含む）12 種、海生哺乳類 1 種の重要な種が確認されました。水生生物の重要な種の生態情報と確認状況を表 8-7.29～表 8-7.31 に示します。

表 8-7.28 現地調査で確認された重要な種一覧（水生生物）

分類	目名	科名	種名	重要な種の選定基準					確認場所				
				天然記念物	種の保存法	福岡県条例	環境省 RL	環境省 (海洋)RL	福岡県 RDB	対象事業実施区域内	対象事業実施区域外		
刺胞動物	ウミエラ目	ウミサボテン科	ウミサボテン						福岡県 RDB	○	○		
腕足動物	舌殻目	シヤミセンガイ科	ミドリシヤミセンガイ						福岡県 RDB		○		
軟体動物	カサガイ目	ユキノカサガイ科	ツボミ				NT		福岡県 RDB	○	○		
	アマオブネガイ目	ユキズメガイ科	ミヤコドリ				NT		福岡県 RDB	○	○		
	新生腹足目	ウミミナ科	ウミミナ					NT		福岡県 RDB	○	○	
			イボウミミナ					VU		福岡県 RDB		○	
		キバウミミナ科	フトヘナタリ						NT		福岡県 RDB		○
			ヘナタリ						NT		福岡県 RDB	○	○
			カワアイ						VU		福岡県 RDB	○	○
		カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウ						NT		福岡県 RDB		○
			ヒナタムシヤドリカワザンショウ						NT		福岡県 RDB		○
		ミズゴマツボ科	ウミゴマツボ					NT				○	
		タマガイ科	オリイレシラタマ					NT		福岡県 RDB		○	
		バイ科	バイ						NT	VU	○	○	
	マクラガイ科	マクラガイ						NT	NT	○	○		
	真後鰓目	クダタマガイ科	コメツブツラガイ					VU				○	
		ブドウガイ科	カミズジカイコガイダマシ					VU		VU	○	○	
	汎有肺目	オカミミガイ科	キヌカツギハマシノミガイ				VU		VU		○		
	ウグイスガイ目	ハボウキガイ科	タイラギ					NT		NT	○	○	
			リシケタイラギ							NT		○	
	マルスダレガイ目	ツキガイ科	イセシラガイ					CR+EN		EN	○	○	
		ウロコガイ科	ニッポンマメアゲマキ					NT		NT	○	○	
		フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ					NT			○	○	
		ニッコウガイ科	イチウシラトリ						CR+EN	EN	○	○	
			ユウシオガイ						NT	NT	○	○	
		テリザクラ					VU		VU		○		
		ウスザクラ					NT		DD		○		
		サクラガイ					NT		NT	○	○		
		クチバガイ							NT		○		
星口動物		スジホシムシ目	スジホシムシ科	スジホシムシモドキ						NT		○	
	スジホシムシ									NT		○	
環形動物	スピオ目	ツバサゴカイ科	ムギワラムシ						NT		○		
	無柄目	フジツボ科	サラサフジツボ						NT		○		
			カニダマシ科	ヤドリカニダマシ					NT		○		
	十脚目	ムツアシガニ科	ヒメムツアシガニ						NT	NT	○	○	
			ペンケイガニ科	ウモレペンケイガニ					VU	VU		○	
			ユビアカバンケイガニ						NT		○		
			バンケイガニ						NT	NT		○	
		モクズガニ科	ヨコナガモドキ							NT		○	
			ヒメアシハラガニ							NT	NT		○
		ムツハリアケガニ科	ムツハリアケガニ						NT		○		
		オサガニ科	オサガニ						NT	NT	○		
			ヒメヤマトオサガニ						NT	NT	○		
	スナガニ科	ハクセンシオマネキ					VU	VU		○			
魚類	トビエイ目	ツバクロエイ科	ツバクロエイ						DD		○		
	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ				EN		EN		○		
	スズキ目	メバル科	タケノコメバル						NT		○	○	
			ニベ科	コイチ						EN		○	
		キス科	アオギス						GR	EN	○	○	
			ハゼ科	ヒモハゼ						NT	NT		○
			タビラクチ						NT	NT	○	○	
			トビハゼ						NT	VU	○	○	
			シラスイハゼ						NT	NT	○	○	
			マサゴハゼ						VU	NT	○	○	
			シロチチブ						NT	NT	○	○	
		フグ目	フグ科	トラフグ						NT		○	
クジラ目	ネズミイルカ科	スナメリ						国際		○			
合計	18目	38科	57種	0	1	0	35	17	42	33	53		

注:表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7.21 に示しています。

表 8-7. 29(1) 重要な種の生態情報及び確認状況（底生生物）

No.	分類	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
1	刺胞動物	ウミサボテン	福岡県 RDB:NT	波の静かな泥砂海の干潮線より20m くらいの海底に生息します。県内では、行橋市長井浜でのみ記録がありますが、大分県中津干潟でも確認されています。	【対象事業実施区域内】 秋季:4 個体 冬季:8 個体 春季:23 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:6 個体 冬季:9 個体 春季:4 個体
2	腕足動物	ミドリシャミセンガイ	福岡県 RDB:NT	潮間帯～水深 50m までの砂泥底に肉茎を下にして潜っています。県内では、有明海（筑後川、沖端川、大和干拓地先（柳川市）や豊前海（曾根干潟など）で記録があります。	【対象事業実施区域外】 春季:1 個体
3	軟体動物	ツボミ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	内湾の砂泥底上の礫や貝（ウミノナ類）に付着しています。県内では玄界灘・響灘・博多湾・周防灘から記録されています。	【対象事業実施区域内】 冬季:3 個体 春季:3 個体 夏季:2 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:6 個体 冬季:33 個体 春季:44 個体 夏季:約 31 個体
4		ミヤコドリ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	内湾に面した岩礁域の飛沫帯のよどんだタイドプールに生息します。県内においては、近年、豊前市、福岡市、糸島市で生息が確認されています。	【対象事業実施区域内】 春季:2 個体 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:10 個体 冬季:5 個体 春季:3 個体 夏季:約 5 個体
5		ウミノナ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	大きな湾の干潟、潮間帯の泥底上に生息します。周防灘沿岸では豊富に生息しています。築上町、豊前市、行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域内】 秋季:約 105 個体 冬季:約 58 個体 春季:約 203 個体 夏季:約 212 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:約 1699 個体 冬季:約 955 個体 春季:約 2132 個体 夏季:約 1431 個体
6		イボウミノナ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:EN	やや開放的な内湾の潮間帯中部～下部に生息します。県内では分布域が限定されており、現在の生息地は少ない状況です。北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 30 個体
7		フトヘナタリ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	内湾の潮間帯、アシ原やマングローブ林の泥上に生息します。築上町、豊前市、行橋市、北九州市曾根干潟・江川で記録があります。	【対象事業実施区域外】 春季:17 個体 夏季:83 個体

表 8-7. 29(2) 重要な種の生態情報及び確認状況（底生生物）

No.	分類	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
8	軟体動物	ヘナタリ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	汽水域、潮間帯、内湾の干潟に生息します。 県内では現在、周防灘沿岸、津屋崎、今津干潟に分布し、周防灘では比較的豊富に生息しています。豊前市、行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域内】 春季:4 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:125 個体 冬季:34 個体 春季:157 個体 夏季:約 475 個体
9		カワアイ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	内湾の潮間帯、汽水域の干潟に生息します。北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域内】 春季:1 個体 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 夏季:約 149 個体
10		クリイロカワザンショウ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	内湾奥部汽水域ヨシ原に生息します。 県内では周防灘・響灘・玄界灘・博多湾・有明海の河川河口域、潮間帯上部の塩性湿地・葦原に生息します。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 150 個体
11		ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	河口の汽水域、ヨシ原の泥上に生息します。 県内では行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 10 個体
12		ウミゴマツボ	環境省 RL:NT	内湾河口部の潮間帯干潟泥上に生息します。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 10 個体
13		オリイレシラタマ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	水深 5～30m の砂底に生息します。 県内では小戸、百道、地行、西公園、志賀島、津屋崎、神湊、玄界灘、博多湾、福岡町、福津市福岡海岸で記録があります。	【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体
14		バイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:VU	水深約 10m の砂底に生息します。 県内では北九州市曾根干潟、行橋市で記録があります。	【対象事業実施区域内】 秋季:15 個体 春季:1 個体 夏季:6 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:4 個体 春季:1 個体 夏季:4 個体
15		マクラガイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	潮間帯～水深 30m の砂底に生息します。 県内では行橋市長井、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域内】 冬季:1 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体 春季:1 個体 夏季:1 個体
16	コメツブツラガイ	環境省 RL:VU	潮間帯～水深 60m の砂泥底に生息します。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 5 個体	

表 8-7. 29(3) 重要な種の生態情報及び確認状況（底生生物）

No.	分類	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
17	軟体動物	カミスジカイコガイ イダマシ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	潮間帯～水深100mの砂泥底に生息します。県内では周防灘で記録があります。	【対象事業実施区域内】 春季:2 個体 【対象事業実施区域外】 春季:2 個体
18		キヌカツギハマシ イノミガイ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	内湾のヨシ原等の潮上帯の表面に生息します。県内では周防灘・玄界灘・博多湾・有明海沿岸の河口域に生息します。行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 30 個体
19		タイラギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	水深30mまでの泥底に生息します。県内では周防灘で記録があります。	【対象事業実施区域内】 春季:2 個体
20		リシケタイラギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	瀬戸内海と有明海の水深 30m までの泥底に生息します。県内では周防灘で記録があります。	【対象事業実施区域外】 冬季:1 個体
21		イセシラガイ	環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:EN	潮間帯直下～水深 20m の砂泥底に生息します。県内各地から記録がありますが、殻による記録がほとんどで、過去の生息状況はよく分かっていません。北九州市曾根干潟、行橋市長井で記録があります。	【対象事業実施区域内】 夏季:2 個体
22		ニッポンマメアゲ マキ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	潮間帯、礫底に生息します。県内では周防灘沿岸と博多湾今津周辺で、生息が確認されています。豊前市、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域内】 春季:5 個体 夏季:3 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体 冬季:2 個体 春季:5 個体 夏季:13 個体
23		ウネナシトマヤガイ	環境省 RL:NT	汽水域潮間帯の礫などに足糸で付着しています。	【対象事業実施区域内】 春季:2 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:4 個体 冬季:1 個体 夏季:約 26 個体
24		イチョウシラトリ	環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:EN	内湾湾奥部や河口部の潮間帯中下部泥底に生息します。県内では近年は、曾根干潟と今津干潟で生息が確認されています。	【対象事業実施区域内】 春季:3 個体 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 春季:4 個体
25		ユウシオガイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	内湾の潮間帯の砂泥底に生息します。県内では周防灘、苅田町、行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域内】 冬季:1 個体 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体 春季:2 個体 夏季:5 個体

表 8-7. 29(4) 重要な種の生態情報及び確認状況（底生生物）

No.	分類	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
26	軟体動物	テリザクラ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	内湾の水深 20m までの細砂底に生息します。 県内では周防灘、北九州市曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 33 個体
27		ウズザクラ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:DD	潮間帯～水深 40m の細砂底に生息します。県内では周防灘、北九州市新門司港、曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体 春季:5 個体
28		サクラガイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	内湾の潮間帯～水深 10m の砂泥底に生息します。 県内では周防灘、豊前市、行橋市、北九州市新門司港で記録があります。	【対象事業実施区域内】 秋季:2 個体 春季:5 個体 夏季:3 個体 【対象事業実施区域外】 春季:3 個体
29		クチバガイ	環境省 RL:NT	内湾の潮間帯上部の砂礫中に生息します。	【対象事業実施区域外】 秋季:22 個体 冬季:55 個体 春季:38 個体 夏季:約 8 個体
30	星口動物	スジホシムシモドキ	環境省 RL (海域) :NT	暖水性の広分布種で、通常潮間帯～浅海域の砂泥に生息します。	【対象事業実施区域外】 春季:1 個体 夏季:約 5 個体
31		スジホシムシ	環境省 RL (海域) :NT	暖水性の汎世界種で、潮間帯～水深 100m 程度の砂泥に生息します。	【対象事業実施区域外】 春季:1 個体
32	環形動物	ムギワラムシ	環境省 RL (海域) :NT	本州中部以南に分布し、内湾砂浜の潮間帯に生息します。	【対象事業実施区域内】 秋季:約 43 個体 春季:約 155 個体 夏季:約 176 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:約 639 個体 冬季:約 156 個体 春季:約 1057 個体 夏季:約 1396 個体
33	節足動物	サラサフジツボ	環境省 RL (海域) :NT	本州以南の内湾潮間帯下部に分布します。	【対象事業実施区域内】 秋季:約 100 個体 夏季:約 100 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:約 222 個体 冬季:約 100 個体 春季:約 161 個体 夏季:約 480 個体
34		ヤドリカニダマシ	環境省 RL (海域) :NT	砂泥質干潟に生息しているムギワラムシの棲管に共生しています。 県内では 1945 年以来確認されていませんでしたが、1999 年に築上郡椎田町西角田漁港で確認されています。	【対象事業実施区域内】 秋季:2 個体 春季:4 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:22 個体 春季:5 個体 夏季:1 個体

表 8-7. 29 (5) 重要な種の生態情報及び確認状況（底生生物）

No.	分類	種名	重要な種の選定基準	生態情報	確認状況
35	節足動物	ヒメムツアシガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	国内では有明海・八代海のみに分布し、泥質～砂泥質の干潟に生息するトゲイカリナマコやツバサゴカイ・フサゴカイ類の巣穴に共生します。 県内では曾根干潟と沖端川で記録があります。	【対象事業実施区域内】 春季:1 個体 【対象事業実施区域外】 夏季:1 個体
36		ウモレベンケイガニ	環境省 RL (海域) :VU 福岡県 RDB:VU	内湾の干潟やヨシ原に生息します。 県内では上り松川（築上町）、曾根干潟などで記録があります。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 10 個体
37		ユビアカベンケイガニ	環境省 RL (海域) :NT	雑食性で、河口域や内湾のヨシ原や川堤に生息します。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 10 個体
38		ベンケイガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	河口のヨシ原、土手、石垣、林、草原などに生息します。水辺の暗く湿った物陰を好みます。 県内では紫川、西川（遠賀川水系）、筑後川、沖端川、矢部川などで記録があります。	【対象事業実施区域外】 秋季:1 個体
39		ヨコナガモドキ	環境省 RL (海域) :NT	泥～砂泥底に生息します。自由生活を行うとの報告もありますが、有明海ではトゲイカリナマコの巣穴内に共生することが知られています。	【対象事業実施区域内】 夏季:1 個体
40		ヒメアシハラガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	河口域や内湾のヨシ原などに穴居します。 県内では曾根干潟、津屋崎、花鶴川（古賀市）、和白干潟、多々良川、今津湾、筑後川、矢部川などで記録があります。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 10 個体
41		ムツハアリアケガニ	環境省 RL (海域) :NT	泥干潟に生息します。 県内では 1995 年に曾根干潟と筑後川河口域で採集されています。	【対象事業実施区域内】 春季:1 個体 【対象事業実施区域外】 夏季:約 5 個体
42		オサガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	内湾・河口域の海寄りの砂質干潟低潮帯に生息します。 長井浜（行橋市）、曾根干潟では比較的豊富です。	【対象事業実施区域内】 春季:1 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:19 個体 冬季:4 個体 春季:5 個体 夏季:52 個体
43		ヒメヤマトオサガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	西日本の外洋水の影響を強く受ける泥質干潟に多く分布します。 県内では境川・響灘（北九州市）でのみ記録があります。	【対象事業実施区域内】 秋季:1 個体
44		ハクセンシオマネキ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	砂泥干潟の高潮線付近に生息します。 県内では曾根干潟で記録があります。	【対象事業実施区域外】 夏季:約 31 個体

注 1:表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7. 21 に示しています。

注 2:生態情報は以下の出典より作成しました。

出典:「新日本動物図鑑」昭和 40 年 北隆館

「福岡県の希少野生生物-福岡県のレッドデータブック 2014-」平成 26 年 福岡県

「原色検索日本海岸動物図鑑」平成 4 年 10 月 株式会社保育社

「日本近海産貝類図鑑 [図版] 第二版」平成 29 年 1 月 東海大学出版部

「干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック」平成 24 年 東海大学出版部

「干潟ベントスフィールド図鑑」平成 26 年 4 月 日本国際湿地保全連合

「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」平成 13 年 福岡県

表 8-7. 30(1) 重要な種の生態情報及び確認状況（魚類）

No.	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
1	ツバクロエイ	環境省 RL (海域) :DD	底生性で熱帯～温帯域に分布し、砂泥質を好みます。	【対象事業実施区域内】 秋季:5 個体 夏季:3 個体 【対象事業実施区域外】 夏季:3 個体
2	ニホンウナギ	環境省 RL:EN 福岡県 RDB:EN	北海道以南に分布し、河川の中流～河口域、湖沼、沿岸域に生息します。	【対象事業実施区域内】 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 夏季:5 個体
3	タケノコメバル	環境省 RL:NT	沿岸の岩礁域の藻場に生息しており、北海道南部～九州に分布しています。	【対象事業実施区域内】 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 秋季:3 個体 春季:14 個体
4	コイチ	環境省 RL (海域) :EN	瀬戸内海から有明海に多く、水深 100m 以内の内湾砂泥底上に生息します。	【対象事業実施区域外】 夏季:1 個体
5	アオギス	環境省 RL:CR 福岡県 RDB:EN	九州の一部にわずかに生息しており、沿岸の砂底に生息し、若魚は夏期に川を遡ります。	【対象事業実施区域内】 春季:1 個体 【対象事業実施区域外】 春季:2 個体 夏季:2 個体
6	ヒモハゼ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	河口域の砂泥底に生息しており、日本では青森県以南に分布しています。	【対象事業実施区域外】 春季:7 個体 夏季:6 個体
7	タビラクチ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	干潟や内湾、河口域の軟泥底に生息しており、和歌山県～九州に分布しています。	【対象事業実施区域内】 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 夏季:10 個体
8	トビハゼ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:VU	汽水域の干潟にすみ、陸上を活発に動きまわります。日本では、東京湾～沖縄島に分布しています。	【対象事業実施区域内】 夏季:5 個体 【対象事業実施区域外】 春季:1 個体 夏季:7 個体
9	シラヌイハゼ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	周防灘、響灘、玄界灘、有明海の前浜干潟、浅海域に分布しています。有明海では、シルトを含む砂泥底でも確認されることがありますが、それ以外の海域では砂底で確認されています。	【対象事業実施区域内】 春季:44 個体 夏季:4 個体 【対象事業実施区域外】 春季:42 個体 夏季:5 個体
10	マサゴハゼ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	河口の汽水域に生息していますが、まれに淡水域にも入る小型種で泥底を好みます。日本では、宮城県～沖縄島に分布しています。	【対象事業実施区域内】 春季:20 個体 夏季:2 個体 【対象事業実施区域外】 夏季:43 個体
11	シロチチブ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	周防灘、有明海、一部の玄界灘・響灘の前浜干潟に分布しています。大規模な湾の遠浅な浅海域に生息しています。生息地の底質は、アサリやカキなどの貝殻が多数表在している砂や砂泥であることが多く、産卵期は 5～9 月で、有明海の干潟で複数例確認されています。	【対象事業実施区域内】 夏季:1 個体 【対象事業実施区域外】 春季:12 個体 夏季:8 個体

表 8-7. 30(2) 重要な種の生態情報及び確認状況（魚類）

No.	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
12	トラフグ	環境省 RL:NT	室蘭以南の太平洋岸、日本海西部、東シナ海に分布しており、水深 200m 以浅に生息しています。幼魚は内湾の砂泥底で過ごし、孵化してから満 1 年を過ぎると外海に移動します。	【対象事業実施区域外】 夏季:1 個体

注 1: 表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7. 21 に示しています。

注 2: 生態情報は以下の出典より作成しました。

出典: 「日本の海水魚 3 版」平成 16 年 4 月 株式会社山と溪谷社

「日本産魚類生態大図鑑」平成 6 年 東海大学出版会

「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-」平成 26 年 福岡県

「小学館の図鑑 Z 日本魚類鑑 第 3 版」平成 30 年 6 月 小学館

表 8-7. 31 重要な種の生態情報及び確認状況（海生哺乳類）

No.	種名	重要な種の 選定基準	生態情報	確認状況
1	スナメリ	種の保存法:国際 福岡県 RDB:NT	人間活動の影響の及ぶ極めて沿岸域にのみ生息する海生哺乳類です。日本では、伊勢湾や瀬戸内海・玄界灘など本邦南部の沿岸域に分布しています。	定点観測において、定置網の周辺で年間を通じて摂餌行動、移動、息継ぎを行う様子が確認されました。また、船上からの目視観測においても年間を通じて確認され、移動している様子が多く確認されました。なお、調査期間中に繁殖行動は確認されませんでした。

注 1: 表中の「重要な種の選定基準」のカテゴリの凡例は、前掲表 8-7. 21 に示しています。

注 2: 生態情報は以下の出典より作成しました。

出典: 「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」平成 10 年 日本水産資源保護協会

7.2 予測及び評価の結果

7.2.1 造成等の施工による一時的な影響及び飛行場（埋立地）の存在による影響

陸上動物及び水生生物への影響要因及びその内容を表 8-7.32 に示します。

表 8-7.32 影響要因及びその内容

影響要因			内容
工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	間接的影響	工事に伴う水の濁りの変化による影響
土地又は工作物の存在	飛行場（埋立地）の存在	直接的影響	飛行場（埋立地）の存在に伴う海域の一部消失による影響
		間接的影響	飛行場（埋立地）の存在に伴う水質の変化による影響
			飛行場（埋立地）の存在に伴う海底及び海岸地形の変化による影響

(1) 予測項目

項目別の予測対象とする影響要因を表 8-7.33 に示します。

なお、対象事業は既存の築城基地の地先の埋立に伴う滑走路延長であるため、哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類の一部については、一般的な生態情報及び現地での確認状況を踏まえ、予測の対象外としました。また、予測対象種は原則として現地調査で確認された重要な種としましたが、学識者からの意見や漁業関係者からの聞き取りを踏まえ、カブトガニは築城基地周辺において生息している可能性が示唆されたため、予測対象種としました。

表 8-7.33 項目別の予測対象とする影響要因

項目 \ 影響要因		造成等の施工による一時的な影響	飛行場（埋立地）の存在	
		間接的影響	直接的影響	間接的影響
陸上動物	哺乳類	－(注 2)	－(注 3)	－(注 4)
	鳥類	○	○	○
	爬虫類	－(注 2)	－(注 3)	－(注 4)
	両生類	－(注 2)	－(注 3)	－(注 4)
	昆虫類	－(注 2)	－(注 3)	○
水生生物	底生生物(注 1)	○	○	○
	カブトガニ	○	○	○
	魚類	○	○	○
	海生哺乳類	○	○	○

注 1:底生生物は干潟・付着生物を含みます。

注 2:鳥類以外の陸上動物については、水の濁りによる影響を受けないことから、予測対象外としました。

注 3:鳥類以外の陸上動物については、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響を受けないことから、予測対象外としました。

注 4:鳥類及び一部の昆虫類以外の陸上動物については、水質や海岸地形の変化といった飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響を受けないことから、予測対象外としました。

注 5:動物プランクトン及び魚卵・稚仔魚の重要な種は確認されませんでした。

(2) 予測地域

予測地域は、現地調査範囲と同様とし、対象事業実施区域周辺としました。

(3) 予測対象時期等

予測対象時期は、以下のとおりとしました。

- ・造成等の施工による一時的な影響:施工計画により、濁りが最大となる時期
- ・飛行場（埋立地）の存在による影響:供用後の生息環境が安定した時期

(4) 予測手法

予測にあたっては、汚濁防止膜の内側や対象事業実施区域内での個体数の改変割合及びこれらの範囲内での生息環境の分布の有無を把握しました。さらに対象種の移動能力の有無や汚濁防止膜の外側や対象事業実施区域外での生息環境の有無を把握し、汚濁防止膜の外側や対象事業実施区域外での生息が維持されるかを検討した上で、影響の大小を判断しました。

影響要因毎の予測の手法を表 8-7.34 に示します。

表 8-7.34(1) 予測の手法一覧表（陸上動物）

影響要因		予測の基本的な手法	予測地域	予測対象時期等	予測対象
造成等の施工による一時的な影響	間接的影響	工事における捨石投入等に伴う濁水の発生による生息環境の変化について予測し、それに伴う動物への影響について予測しました。	現地調査を実施する範囲と同様としました。	施工計画により、濁りの最大発生時期としました。	鳥類
	直接的影響	飛行場（埋立地）の存在による生息環境の消失について予測し、それに伴う動物への影響について予測しました。		供用後の生息環境が安定した時期としました。	鳥類
飛行場（埋立地）の存在	間接的影響	飛行場（埋立地）の存在による生息環境の変化について予測し、それに伴う動物への影響について予測しました。			鳥類 昆虫類

表 8-7.34(2) 予測の手法一覧表（水生生物）

影響要因		予測の基本的な手法	予測地域	予測対象時期等	予測対象
造成等の施工による一時的な影響	間接的影響	工事における捨石投入等に伴う濁水の発生による生息環境の変化について予測し、それに伴う動物への影響について予測しました。	現地調査を実施する範囲と同様としました。	施工計画により、濁りの最大発生時期としました。	底生生物 ^{注1} カブトガニ 魚類 海生哺乳類
	直接的影響	飛行場（埋立地）の存在による生息環境の消失について予測し、それに伴う動物への影響について予測しました。		供用後の生息環境が安定した時期としました。	
飛行場（埋立地）の存在	間接的影響	飛行場（埋立地）の存在による生息環境の変化について予測し、それに伴う動物への影響について予測しました。			

注 1:底生生物は干潟・付着生物を含みます。

注 2:動物プランクトン及び魚卵・稚仔魚の重要な種は確認されませんでした。

(5) 予測及び評価の結果

① 鳥類

本事業が鳥類の重要な種に与える可能性のある影響要因を表 8-7.35 に、予測結果を表 8-7.36 に示します。なお、対象事業は既存の築城基地の地先の埋立に伴う滑走路延長であるため、一般的な生態情報及び現地での確認状況を踏まえて明らかに本事業の影響を受けないと考えられるものについては、予測の対象外としました。

表 8-7.35 重要な種への影響要因区分（鳥類）

種名	重要な種の選定基準	造成等の施工による一時的な影響		
		間接的	直接的	間接的
ツクシガモ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	○	○	○
アマサギ	福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
チュウサギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
ヒクイナ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
タゲリ	福岡県 RDB:NT	○	○	○
シロチドリ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	○	○	○
メダイチドリ	種の保存法:国際	○	○	○
オオソリハシシギ	種の保存法:国際 環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ハマシギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
オオセグロカモメ	環境省 RL:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
ミサゴ	環境省 RL:NT	○	○	○
ハイタカ	環境省 RL:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
オオタカ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
サシバ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
ノスリ	福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
ハヤブサ	種の保存法:国内 環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	－(注1)	－(注2)	－(注3)
サンコウチョウ	福岡県 RDB:VU	－(注1)	－(注2)	－(注3)
オオヨシキリ	福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)
クロツグミ	福岡県 RDB:NT	－(注1)	－(注2)	－(注3)

注 1:主に陸域を利用する種については、水の濁りによる影響を受けないことから、予測対象外としました。

注 2:主に陸域を利用する種については、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響を受けないことから、予測対象外としました。

注 3:主に陸域を利用する種については、水質や海岸地形の変化といった飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響を受けないことから、予測対象外としました。

表 8-7. 36(1) 重要な鳥類の予測結果


種名		ツクシガモ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	
生態情報		日本では冬鳥として、九州、特に有明海に飛来します。泥深い干潟の水路や水を張った水田で越冬します。軟体動物、昆虫、甲殻類などを捕食します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：2 個体 春季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	海域上空
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は干潟で甲殻類等を捕食することから、工事による濁りにより、餌となる甲殻類等の生息への影響が想定されるため、本種の採餌に影響を与える可能性があります。ただし、汚濁防止膜の設置等により、濁りの拡散範囲は限定的であること、本種の採餌環境である砂・砂泥質の干潟は工事中も周囲に分布していることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	飛行場(埋立地)の存在により、越冬地となりうる砂・砂泥質の干潟が約 43ha のうち約 3.1ha 減少します。ただし、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により、越冬地となりうる砂・砂泥質の干潟への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂・砂泥質の干潟を利用する鳥類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	
			
		出典：決定版日本の野鳥 650(株式会社平凡社 2014年1月)	

表 8-7. 36(2) 重要な鳥類の予測結果


種名		タゲリ	
重要な種の選定基準		福岡県 RDB:NT	
生態情報		日本では本州、四国、九州などの各地に冬鳥として飛来します。水田、湿田、干潟、河原や湖沼の水辺、湿っぽい畑地、水溜りのある荒地などに生息し、地上の昆虫やその幼虫など、無脊椎動物を捕食します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：8 個体 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	耕作地
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は干潟で無脊椎動物等を捕食することから、工事による濁りにより、餌となる無脊椎動物等の生息への影響が想定されるため、本種の採餌に影響を与える可能性があります。ただし、汚濁防止膜の設置等により、濁りの拡散範囲は限定的であること、本種の採餌環境である砂・砂泥質の干潟は工事中も周囲に分布していることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟が約 43ha のうち約 3.1ha 減少します。ただし、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂・砂泥質の干潟を利用する鳥類です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 36(4) 重要な鳥類の予測結果


種名		メダイチドリ	
重要な種の選定基準		種の保存法:国際	
生態情報		日本では旅鳥として飛来します。海岸の砂浜、干潟、内陸の河川、湖沼、溜池などの砂泥地に生息します。また、ゴカイ類を主に、貝類や甲殻類、昆虫類を捕食します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：5 個体 春季：7 個体 冬季：2 個体 夏季：1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	海岸部干潟周辺
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は干潟でゴカイ類等を捕食することから、工事による濁りにより、餌となるゴカイ類等の生息への影響が想定されるため、本種の採餌に影響を与える可能性があります。ただし、汚濁防止膜の設置等により、濁りの拡散範囲は限定的であること、本種の採餌環境である砂・砂泥質の干潟は工事中も周囲に分布していることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟が約 43ha のうち約 3.1ha 減少します。ただし、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂・砂泥質の干潟を利用する鳥類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 36(5) 重要な鳥類の予測結果

種名		オオソリハシシギ	
重要な種の選定基準		種の保存法:国際 環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	
生態情報		日本では旅鳥として飛来します。河岸の砂泥地、水溜まりや干潟、水田、河川、湖沼の砂泥地に生息し、甲殻類、軟体動物、昆虫、小魚などを捕食します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：1 個体 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	海岸部干潟周辺
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は干潟で甲殻類等を捕食することから、工事による濁りにより、餌となる甲殻類等の生息への影響が想定されるため、本種の採餌に影響を与える可能性があります。ただし、汚濁防止膜の設置等により、濁りの拡散範囲は限定的であること、本種の採餌環境である砂・砂泥質の干潟は工事中も周囲に分布していることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟が約 43ha のうち約 3.1ha 減少します。ただし、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂・砂泥質の干潟を利用する鳥類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 36(6) 重要な鳥類の予測結果

種名		ハマシギ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		日本では旅鳥として飛来するほか、日本各地の海岸や河川で少数が越冬します。渡り期や越冬地では海岸の砂浜、干潟、水溜まり、潟湖、溜池、水を張った水田、内陸の湖沼や大きい河川の砂泥地などに生息し、水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を捕食します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：2 個体 冬季：3 個体 春季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	海岸部干潟周辺
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は干潟でゴカイ類等を捕食することから、工事による濁りにより、餌となるゴカイ類等の生息への影響が想定されるため、本種の採餌に影響を与える可能性があります。ただし、汚濁防止膜の設置等により、濁りの拡散範囲は限定的であること、本種の採餌環境である砂・砂泥質の干潟は工事中も周囲に分布していることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟が約 43ha のうち約 3.1ha 減少します。ただし、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である砂・砂泥質の干潟への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂・砂泥質の干潟を利用する鳥類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、事業実施後も周囲に砂・砂泥質の干潟は約 40ha 残ることから、限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 36(7) 重要な鳥類の予測結果

種名		ミサゴ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT	
生態情報		日本では留鳥として、北海道から沖縄で少数が繁殖します。海岸、大きな川、湖などで魚類を捕食し、人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に巣を作ります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：1 個体 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：2 個体 冬季：4 個体 春季：1 個体 夏季：1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	海岸部
		対象事業実施区域外	海域、干潟、耕作地、ため池上空
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は海域で魚類を捕食することから、工事による濁りにより、上空からの海域の視認性低下や餌となる魚類の生息への影響が想定されるため、本種の採餌に影響を与える可能性があります。ただし、汚濁防止膜の設置等により、濁りの拡散範囲は限定的であること、本種の採餌環境である海域は工事中も周囲に分布していること、本種の行動圏は広範囲であることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である海域が約 21ha 減少します。ただし、事業実施後も周囲に採餌環境は分布すること、本種の行動圏は広範囲であることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により、採餌環境である海域への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は海域を利用する鳥類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、事業実施後も周囲に採餌環境は分布することから、限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



② 昆虫類

本事業が昆虫類の重要な種に与える可能性のある影響要因を表 8-7. 37 に、予測結果を表 8-7. 38 に示します。なお、対象事業は既存の築城基地の地先の埋立に伴う滑走路延長であるため、一般的な生態情報及び現地での確認状況を踏まえて明らかに本事業の影響を受けないと考えられるものについては、予測の対象外としました。


表 8-7. 37 重要な種への影響要因区分（昆虫類）

種 名	重要な種の 選定基準	造成等の施工による 一時的な影響	飛行場（埋立地） の存在	
		間接的	直接的	間接的
タバサナエ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	—	—	—
ミヤマアカネ	福岡県 RDB:NT	—	—	—
コオイムシ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	—	—	—
ミズカマキリ	福岡県 RDB:NT	—	—	—
ツマグロトビケラ	福岡県 RDB:DD	—	—	—
マイマイカブリ	福岡県 RDB:NT	—	—	—
タナカツヤハネゴミムシ	環境省 RL:DD	—	—	—
ヒコサンセスジゲンゴロウ	福岡県 RDB:EN	—	—	—
コガタノゲンゴロウ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	—	—	—
ウスイロシマゲンゴロウ	福岡県 RDB:NT	—	—	—
スジヒラタガムシ	環境省 RL:NT	—	—	—
コガムシ	環境省 RL:DD 福岡県 RDB:VU	—	—	—
ヨコミゾドロムシ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	—	—	—
クロキオビジョウカイモドキ	福岡県 RDB:VU	—	—	○(注 1)
ヤマトアシナガバチ	環境省 RL:DD	—	—	—

注 1:クロキオビジョウカイモドキについては、海岸砂丘等に生息するため、海岸地形の変化といった飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響を受けると考えられることから、予測対象としました。

注 2:それ以外の種については、主に陸域に生息するため、造成等の施工による一時的な影響、飛行場(埋立地)の存在による直接的及び間接的な影響を受けないことから、予測対象外としました。

表 8-7.38 重要な昆虫類の予測結果

種名		クロキオビジョウカイモドキ	
重要な種の選定基準		福岡県 RDB:VU	
生態情報		海岸砂丘や海岸砂礫地に生息します。詳しい生活史はよくわかっていませんが、他の昆虫の幼虫などを捕食していると考えられます。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：成虫 1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	砂丘植生
影響予測	飛行場(埋立地)の存在	間接的	飛行場(埋立地)の存在により、生息環境である海岸砂丘や海岸砂礫地への影響が考えられます。しかし、供用後の海岸地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は海岸砂丘等に生息する昆虫類です。 飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	
			

③ 底生生物（干潟・付着生物を含む）

本事業が底生生物（干潟・付着生物を含む）の重要な種に与える可能性のある影響要因を表 8-7. 39 に、予測結果を表 8-7. 40 に示します。

表 8-7. 39(1) 重要な種への影響要因区分（底生生物）

種 名	重要な種の 選定基準	造成等の施工による 一時的な影響	飛行場（埋立地） の存在	
		間接的	直接的	間接的
ウミサボテン	福岡県 RDB:NT	○	○	○
ミドリシャミセンガイ	福岡県 RDB:NT	○	○	○
ツボミ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ミヤコドリ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ウミニナ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
イボウミニナ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:EN	○	○	○
フトヘナタリ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ヘナタリ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
カワアイ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	○	○	○
クリイロカワザンショウ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ヒナタムシヤドリカワザンショウ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ウミゴマツボ	環境省 RL:NT	○	○	○
オリエシラタマ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
バイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:VU	○	○	○
マクラガイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
コメツブツララガイ	環境省 RL:VU	○	○	○
カミスジカイコガイダマシ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	○	○	○
キヌカツギハマシイノミガイ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	○	○	○
タイラギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
リシケタイラギ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
イセシラガイ	環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:EN	○	○	○
ニッポンマメアゲマキ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○

表 8-7. 39(2) 重要な種への影響要因区分（底生生物）

種 名	重要な種の 選定基準	造成等の施工による 一時的な影響	埋立地等の存在	
		間接的	直接的	間接的
ウネナシトマヤガイ	環境省 RL:NT	○	○	○
イチョウシラトリ	環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:EN	○	○	○
ユウシオガイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
テリザクラ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	○	○	○
ウズザクラ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:DD	○	○	○
サクラガイ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
クチバガイ	環境省 RL:NT	○	○	○
スジホシムシモドキ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
スジホシムシ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
ムギワラムシ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
サラサフジツボ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
ヤドリカニダマシ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
ヒメムツアシガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ウモレベンケイガニ	環境省 RL (海域) :VU 福岡県 RDB:VU	○	○	○
ユビアカベンケイガニ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
ベンケイガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ヨコナガモドキ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
ヒメアシハラガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ムツハアリアケガニ	環境省 RL (海域) :NT	○	○	○
オサガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ヒメヤマトオサガニ	環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
ハクセンシオマネキ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	○	○	○

表 8-7. 40(1) 重要な底生生物の予測結果

種名		ウミサボテン	
重要な種の選定基準		福岡県 RDB:NT	
生態情報		波の静かな泥砂海の干潮線より 20m くらいの海底に生息します。県内では、行橋市長井浜でのみ記録がありますが、大分県中津干潟でも確認されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：4 個体 春季：23 個体 冬季：8 個体 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：6 個体 春季：4 個体 冬季：9 個体 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯（礫混砂泥・砂・砂泥・シルト）
		対象事業実施区域外	潮下帯（礫混砂泥・砂）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮下帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 64.8% となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮下帯に生息する移動能力の低い刺胞動物です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40(2) 重要な底生生物の予測結果

種名		ミドリシヤミセンガイ	
重要な種の選定基準		福岡県 RDB:NT	
生態情報		潮間帯～水深 50m までの砂泥底に肉茎を下にして潜っています。県内では、有明海（筑後川、沖端川、大和干拓地先（柳川市）や豊前海（曾根干潟など）で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：1 個体 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息する腕足動物です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40(3) 重要な底生生物の予測結果

種名		ツボミ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		内湾の砂泥底上の礫や貝（ウミニナ類）に付着しています。県内では玄界灘・響灘・博多湾・周防灘から記録されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：3 個体 冬季：3 個体 夏季：2 個体
		対象事業実施区域外	秋季：6 個体 春季：44 個体 冬季：33 個体 夏季：30 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥、砂）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、礫）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 6.6%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する一枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40(4) 重要な底生生物の予測結果

種名		ミヤコドリ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		内湾に面した岩礁域の飛沫帯のよどんだタイドプールに生息します。近年は、豊前市、福岡市、糸島市で生息が確認されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：2 個体 冬季：－ 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：10 個体 春季：3 個体 冬季：5 個体 夏季：5 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、礫）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である礫質の潮間帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である礫質の潮間帯が含まれます。供用後も礫質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 11.5%となることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である礫質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は礫質の潮間帯に生息する二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	

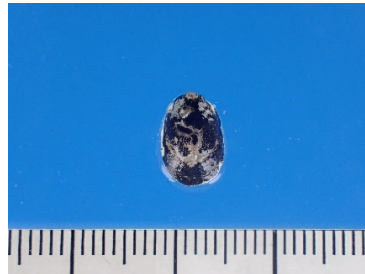


表 8-7. 40(5) 重要な底生生物の予測結果

種名		ウミニナ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		大きな湾の干潟、潮間帯の泥底上に生息します。周防灘沿岸では豊富に生息しています。築上町、豊前市、行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：110 個体(概数) 冬季：60 個体(概数) 春季：200 個体(概数) 夏季：200 個体(概数)
		対象事業実施区域外	秋季：1700 個体(概数) 冬季：960 個体(概数) 春季：2100 個体(概数) 夏季：1400 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥、砂）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、礫）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である泥質の潮間帯が含まれます。供用後も泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 8.5%となることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は泥質の潮間帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40(6) 重要な底生生物の予測結果

種名		イボウミニナ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:EN	
生態情報		やや開放的な内湾の潮間帯中部～下部に生息します。県内では分布域が限定されており、現在の生息地は少ない状況です。北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：30 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯(砂泥)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40(7) 重要な底生生物の予測結果

種名		フトヘナタリ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		内湾の潮間帯、アシ原やマングローブ林の泥上に生息します。築上町、豊前市、行橋市、北九州市曾根干潟・江川で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：17 個体 夏季：80 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	塩沼地植生付近
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は塩沼地植生付近に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40(8) 重要な底生生物の予測結果

種名		ヘナタリ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		汽水域、潮間帯、内湾の干潟に生息します。県内では現在、周防灘沿岸、津屋崎、今津干潟に分布し、周防灘では比較的豊富に生息しています。豊前市、行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：4 個体 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：125 個体 冬季：34 個体 春季：157 個体 夏季：480 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂泥質）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥） 河口域
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である泥質の潮間帯が含まれます。供用後も泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 0.5%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40(9) 重要な底生生物の予測結果

種名		カワアイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	
生態情報		内湾の潮間帯、汽水域の干潟に生息します。北九州市曽根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：150 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯 (砂泥質)
		対象事業実施区域外	潮間帯 (泥質)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 1.3%となることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (10) 重要な底生生物の予測結果

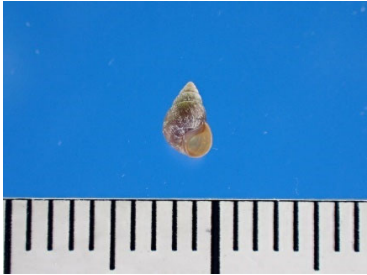
種名		クリイロカワザンショウ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		内湾奥部汽水域ヨシ原に生息します。 県内では周防灘・響灘・玄界灘・博多湾・有明海の河川河口域、潮間帯上部の塩性湿地・葦原に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 夏季：－ 冬季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 夏季：150 個体(概数) 冬季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	河口域 塩沼地植生付近
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は塩沼地植生付近に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (11) 重要な底生生物の予測結果

種名		ヒナタムシヤドリカワザンショウ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		河口の汽水域、ヨシ原の泥上に生息します。県内では行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：10 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	塩沼地植生付近
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は塩沼地植生付近に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	

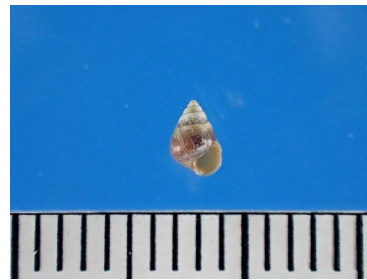


表 8-7. 40 (12) 重要な底生生物の予測結果

種名		ウミゴマツボ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT	
生態情報		内湾河口部の潮間帯干潟泥上に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：10 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	汽水域潮間帯 (砂泥質)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である汽水域潮間帯を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である汽水域潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は汽水域潮間帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	

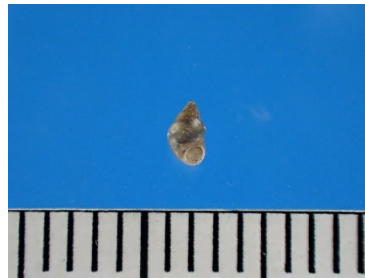


表 8-7. 40 (13) 重要な底生生物の予測結果


種名		オリイレンラタマ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		水深 5～30m の砂底に生息します。 県内では小戸、百道、地行、西公園、志賀島、津屋崎、神湊、玄界灘、博多湾、福岡町、福津市福岡海岸で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：1 個体 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮下帯（泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内でのみ確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息環境である砂質の潮下帯が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂質の潮下帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (14) 重要な底生生物の予測結果

種名		バイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:VU	
生態情報		潮間帯～水深 30m の砂底に生息します。 県内では行橋市長井、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：15 個体 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：6 個体
		対象事業実施区域外	秋季：4 個体 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：4 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯（礫、砂、砂泥、シルト）
		対象事業実施区域外	潮下帯（砂）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮間帯から潮下帯が含まれます。供用後も砂質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 71.0% となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂質の潮間帯から潮下帯に生息する移動能力の低い巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (15) 重要な底生生物の予測結果

種名		マクラガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		潮間帯～水深 30m の砂底に生息します。県内では行橋市長井、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：1 個体 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：1 個体 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥） 潮下帯（砂質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮下帯が含まれます。供用後も砂質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 25.0% となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂質の潮間帯から潮下帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	

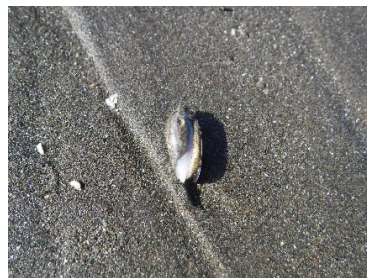


表 8-7. 40 (16) 重要な底生生物の予測結果

種名		コメツブツララガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU	
生態情報		潮間帯～水深 60m の砂泥底に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：5 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯 (泥質)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (17) 重要な底生生物の予測結果

種名		カミスジカイコガイダマシ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	
生態情報		潮間帯～水深 100m の砂泥底に生息します。 県内では周防灘で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：2 個体 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：2 個体 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯（泥質）
		対象事業実施区域外	潮下帯（泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内でのみ確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息環境である砂泥質の潮下帯が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮下帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 50.0% となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮下帯に生息する移動能力の低い貝類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (18) 重要な底生生物の予測結果

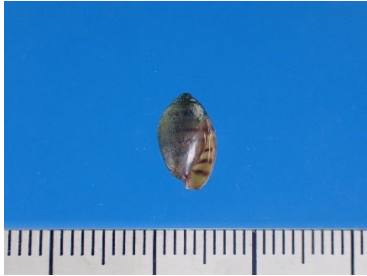
種名		キヌカツギハマシイノミガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	
生態情報		内湾のヨシ原等の潮上帯の表面に生息します。 県内では周防灘・玄界灘・博多湾・有明海沿岸の河口域に生息します。行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：30 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	塩沼地植生付近
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は塩沼地植生付近に生息する巻貝です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (19) 重要な底生生物の予測結果

種名		タイラギ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		水深 30m までの泥底に生息します。 県内では周防灘で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：2 個体 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥）
		対象事業実施区域外	－
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である泥質の潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息環境が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である泥質の潮下帯が含まれます。供用後も泥質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 100%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である泥質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は泥質の潮下帯に生息する移動能力の低い二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	
			

表 8-7. 40 (20) 重要な底生生物の予測結果

種名		リシケタイラギ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		瀬戸内海と有明海の水深 30m までの泥底に生息します。 県内では周防灘で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：1 個体 春季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮下帯（砂質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である泥質の潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である泥質の潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も泥質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である泥質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は泥質の潮下帯に生息する二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (21) 重要な底生生物の予測結果


種名		イセシラガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:EN	
生態情報		潮間帯直下～水深 20m の砂泥底に生息します。 県内各地から記録があるが、殻による記録がほとんどで、過去の生息状況はよく分かっていません。北九州市曾根干潟、行橋市長井で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：2 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯（シルト質）
		対象事業実施区域外	－
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内でのみ確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 100% となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息する移動能力の低い二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (22) 重要な底生生物の予測結果

種名		ニッポンマメアゲマキ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		潮間帯、礫底に生息します。 県内では周防灘沿岸と博多湾今津周辺で、生息が確認されています。豊前市、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：5 個体 冬季：－ 夏季：3 個体
		対象事業実施区域外	秋季：1 個体 春季：5 個体 冬季：2 個体 夏季：13 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、礫）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である礫質の潮間帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である礫質の潮間帯が含まれます。供用後も礫質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 27.6%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である礫質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は礫質の潮間帯に生息する二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (23) 重要な底生生物の予測結果

種名		ウネナシトマヤガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT	
生態情報		汽水域潮間帯の礫などに足糸で付着しています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：2 個体 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：4 個体 春季：－ 冬季：1 個体 夏季：30 個体(概数)
確認地点の 生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、礫）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である礫質の潮間帯が含まれます。供用後も礫質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 5.4%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である礫質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は礫質の潮間帯に生息する二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (24) 重要な底生生物の予測結果

種名		イチョウシラトリ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:EN	
生態情報		内湾湾奥部や河口部の潮間帯中下部泥底に生息します。 県内では近年は、曾根干潟と今津干潟で生息が確認されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：3 個体 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：4 個体 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂泥質）
		対象事業実施区域外	潮間帯（砂泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である泥質の潮間帯下部が含まれます。供用後も泥質の潮間帯下部は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 50.0% となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である泥質の潮間帯下部への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は泥質の潮間帯下部に生息する移動能力の低い二枚貝です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (25) 重要な底生生物の予測結果


種名		ユウシオガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		内湾の潮間帯の砂泥底に生息します。 県内では周防灘、苅田町、行橋市、北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：1 個体 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：1 個体 春季：2 個体 冬季：－ 夏季：5 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂泥質）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、礫）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 20.0%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂泥質の潮間帯に生息する二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (26) 重要な底生生物の予測結果


種名		テリザクラ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	
生態情報		内湾の水深 20m までの細砂底に生息します。 北九州市曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施 区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施 区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：30 個体(概数)
確認地点の 生息環境	現地調査	対象事業実施 区域内	－
		対象事業実施 区域外	潮間帯（泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂質の潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂質の潮下帯に生息する二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (27) 重要な底生生物の予測結果


種名		ウズザクラ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:DD	
生態情報		潮間帯～水深 40m の細砂底に生息します。 県内では周防灘、北九州市新門司港、曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：1 個体 春季：5 個体 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮下帯（礫混砂泥）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂質の潮間帯から潮下帯に生息する二枚貝です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (28) 重要な底生生物の予測結果


種名		サクラガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		内湾の潮間帯～水深 10m の砂泥底に生息します。 県内では周防灘、豊前市、行橋市、北九州市新門司港で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：2 個体 春季：5 個体 冬季：－ 夏季：3 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：3 個体 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂質） 潮下帯（砂泥質）
		対象事業実施区域外	潮下帯（礫混砂泥、シルト）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 76.9% となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息する移動能力の低い二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (29) 重要な底生生物の予測結果

種名		クチバガイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT	
生態情報		内湾の潮間帯上部の砂礫中に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：22 個体 春季：38 個体 冬季：55 個体 夏季：10 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫、砂・砂泥） 塩沼地植生付近
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である礫質の潮間帯上部が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も礫質の潮間帯上部は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である礫質の潮間帯上部への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は礫質の潮間帯上部に生息する二枚貝です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (30) 重要な底生生物の予測結果

種名		スジホシムシモドキ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		暖水性の広分布種で、通常潮間帯～浅海域の砂泥に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：5 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯 (礫混砂泥、砂) 潮下帯 (礫混砂泥)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息するホシムシです。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (31) 重要な底生生物の予測結果

種名		スジホシムシ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		暖水性の汎世界種で、潮間帯～水深 100m 程度の砂泥に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯 (礫混砂泥)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息するホシムシです。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (32) 重要な底生生物の予測結果


種名		ムギワラムシ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		本州中部以南に分布し、内湾砂浜の潮間帯に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：40 個体(概数) 冬季：－ 春季：160 個体(概数) 夏季：180 個体(概数)
		対象事業実施区域外	秋季：640 個体(概数) 冬季：160 個体(概数) 春季：1050 個体(概数) 夏季：1400 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯 (砂質)
		対象事業実施区域外	潮間帯 (礫混砂泥、砂) 潮下帯 (砂)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り (SS) の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮間帯が含まれます。供用後も砂質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 10.5% となることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である砂質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂質の潮間帯に生息する環形動物です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (33) 重要な底生生物の予測結果

種名		サラサフジツボ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		本州以南の内湾潮間帯下部に分布します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：100 個体(概数) 冬季：－ 春季：－ 夏季：100 個体(概数)
		対象事業実施区域外	秋季：220 個体(概数) 冬季：100 個体(概数) 春季：160 個体(概数) 夏季：480 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯 (転石)
		対象事業実施区域外	潮間帯 (転石)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である礫質の潮間帯下部が含まれます。供用後も礫質の潮間帯下部は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 17.2%となることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である礫質の潮間帯下部への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は礫質の潮間帯下部に生息する甲殻類です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。</p> <p>飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (34) 重要な底生生物の予測結果

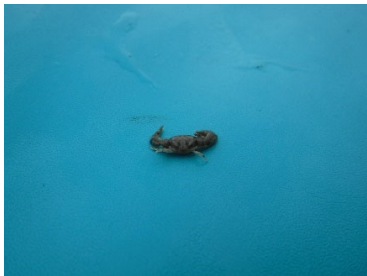
種名		ヤドリカニダマシ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		砂泥質干潟に生息しているムギワラムシの棲管に共生しています。 県内では 1945 年以来確認されていませんでしたが、1999 年に築上郡椎田町西角田漁港で確認されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：2 個体 春季：4 個体 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：22 個体 春季：5 個体 冬季：－ 夏季：1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯 (砂質)
		対象事業実施区域外	潮間帯 (砂質)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り (SS) の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮間帯が含まれます。供用後も砂質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 17.6% となることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境での砂質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂質の潮間帯に生息する甲殻類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (35) 重要な底生生物の予測結果

種名		ヒメムツアシガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		国内では有明海・八代海のみに分布し、泥質～砂泥質の干潟に生息するトゲイカリナマコやツバサゴカイ・フサゴカイ類の巣穴に共生します。 県内では曾根干潟と沖端川で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：1 個体 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯 (泥質)
		対象事業実施区域外	潮下帯 (泥質)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内でのみ確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り (SS) の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 50.0% となることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生育環境での砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する移動能力の低い甲殻類です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (36) 重要な底生生物の予測結果

種名		ウモレベンケイガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :VU 福岡県 RDB:VU	
生態情報		内湾の干潟やヨシ原に生息します。 県内では上り松川 (築上町)、曾根干潟などで記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施 区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施 区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：10 個体 (概数)
確認地点の 生息環境	現地調査	対象事業実施 区域内	－
		対象事業実施 区域外	塩沼地植生付近
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近を含まないことから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は塩沼地植生付近に生息する甲殻類です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (37) 重要な底生生物の予測結果

種名		ユビアカベンケイガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		雑食性で、河口域や内湾のヨシ原や川堤に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：10 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	塩沼地植生付近
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は塩沼地植生付近に生息する甲殻類です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (38) 重要な底生生物の予測結果

種名		ベンケイガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		河口のヨシ原、土手、石垣、林、草原などに生息します。水辺の暗く湿った物陰を好みます。県内では紫川、西川（遠賀川水系）、筑後川、沖端川、矢部川などで記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：1 個体 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯（転石）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近等を含まないことから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近等への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は塩沼地植生付近等に生息する甲殻類です。工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	

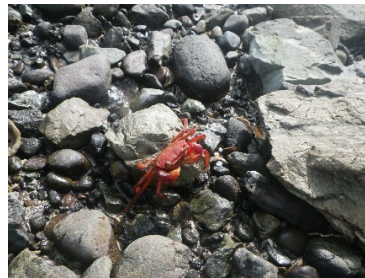


表 8-7. 40 (39) 重要な底生生物の予測結果

種名		ヨコナガモドキ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		泥～砂泥底に生息します。自由生活を行うとの報告もありますが、有明海ではトゲイカリナマコの巣穴内に共生することが知られていま	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯 (泥質)
		対象事業実施区域外	－
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内でのみ確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り (SS) の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されますが、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 100% となることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は大きいと予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息する移動能力の低い甲殻類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、移動能力や個体数の改変割合を踏まえ、大きいと予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (40) 重要な底生生物の予測結果

種名		ヒメアシハラガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		河口域や内湾のヨシ原などに穴居します。 県内では曾根干潟、津屋崎、花鶴川 (古賀市)、和白干潟、多々良川、今津湾、筑後川、矢部川などで記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：10 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯(砂)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である塩沼地植生付近を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である塩沼地植生付近への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は塩沼地植生付近に生息する甲殻類です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 40 (41) 重要な底生生物の予測結果


種名		ムツハアリアケガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT	
生態情報		泥干潟に生息します。 県内では 1995 年に曾根干潟と筑後川河口域で採集されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：5 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯 (砂泥)
		対象事業実施区域外	潮間帯 (泥)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である泥質の潮間帯が含まれます。供用後も泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は約 16.7%となることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は泥質の潮間帯に生息する甲殻類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (42) 重要な底生生物の予測結果



種名		オサガニ		
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT		
生態情報		内湾・河口域の海寄りの砂質干潟低潮帯に生息します。 長井浜（行橋市）、曾根干潟では比較的豊富です。		
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：1 個体	冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：19 個体 春季：5 個体	冬季：4 個体 夏季：50 個体(概数)
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂泥質）	
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、砂・砂泥）	
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂質の潮間帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。	
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮間帯が含まれます。供用後も砂質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 1.3%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。	
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	
まとめ		<p>本種は砂質の潮間帯に生息する甲殻類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 		

表 8-7. 40 (43) 重要な底生生物の予測結果

種名		ヒメヤマトオサガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		西日本の外洋水の影響を強く受ける泥質干潟に多く分布します。県内では境川・響灘 (北九州市) でのみ記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：1 個体 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯 (砂泥質)
		対象事業実施区域外	－
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である泥質の潮間帯が含まれ、本種の生息個体の改変割合は 100% となります。ただし、供用後も泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、本種の移動能力は高いことから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は泥質の潮間帯に生息する甲殻類です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 40 (44) 重要な底生生物の予測結果

種名		ハクセンシオマネキ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	
生態情報		砂泥干潟の高潮線付近に生息します。 県内では曾根干潟で記録があります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施 区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施 区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：30 個体(概数)
確認地点の 生息環境	現地調査	対象事業実施 区域内	－
		対象事業実施 区域外	潮間帯(砂)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。また、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮間帯上部を含まないことから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は小さいと予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である砂質の潮間帯上部への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂質の潮間帯上部に生息する甲殻類です。 工事による濁りの影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。 飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ小さいと予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

④ カブトガニ

本事業がカブトガニに与える可能性のある影響要因を表 8-7.41 に、予測結果を表 8-7.42、カブトガニの生息が想定される環境を図 8-7.9 に示します。

表 8-7.41 カブトガニへの影響要因区分

種 名	重要な種の 選定基準	造成等の施工による 一時的な影響	飛行場（埋立地） の存在	
		間接的	直接的	間接的
カブトガニ	環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:CR	○	○	○

表 8-7.42 カブトガニの予測結果

種名		カブトガニ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:CR+EN 福岡県 RDB:CR	
生態情報		比較的波がおだやかで遠浅の砂泥内湾に生息しています。豊前海域では曽根干潟や中津干潟等に分布しています。	
確認状況	現地調査	築城基地周辺の潮間帯で生息は確認されませんでした。	
	漁業関係者からの聞き取り	令和3年7月に西八田漁港の沖に設置された刺網で成体が3個体確認されました。	
	その他	令和3年7月に稲童漁港内で成体の死骸が1個体確認されました。	
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による変更区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯から潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯から潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息する甲殻類です。工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



図 8-7.9 カブトガニの生息が想定される環境

⑤ 魚類

本事業が魚類の重要な種に与える可能性のある影響要因を表 8-7. 43 に、予測結果を表 8-7. 44 に示します。

表 8-7. 43 重要な種への影響要因区分（魚類）

種 名	重要な種の 選定基準	造成等の施工による 一時的な影響	飛行場（埋立地） の存在	
		間接的	直接的	間接的
ツバクロエイ	環境省 RL (海域) :DD	○	○	○
ニホンウナギ	環境省 RL:EN 福岡県 RDB:EN	○	○	○
タケノコメバル	環境省 RL:NT	○	○	○
コイチ	環境省 RL (海域) :EN	○	○	○
アオギス	環境省 RL:CR 福岡県 RDB:EN	○	○	○
ヒモハゼ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
タビラクチ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	○	○	○
トビハゼ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:VU	○	○	○
シラヌイハゼ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
マサゴハゼ	環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	○	○	○
シロチチブ	環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	○	○	○
トラフグ	環境省 RL:NT	○	○	○

表 8-7. 44(1) 重要な魚類の予測結果

種名		ツバクロエイ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :DD	
生態情報		底生性で熱帯～温帯域に分布し、砂泥質を好みます。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：5 個体 春季：－ 冬季：－ 夏季：3 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：3 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯 (砂泥質)
		対象事業実施区域外	潮下帯 (砂泥質)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り (SS) の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮下帯が含まれ、本種の生息個体の改変割合は 27.3% となります。ただし、供用後も砂泥質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持され、本種は移動能力の高い魚類であることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮下帯に生息するエイ類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44(2) 重要な魚類の予測結果

種名		ニホンウナギ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:EN 福岡県 RDB:EN	
生態情報		北海道以南に分布し、河川の中流～河口域、湖沼、沿岸域に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：5 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂泥質）
		対象事業実施区域外	潮下帯（礫混砂泥）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が2mg/Lを超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されましたが、生活史において河川から海域にかけて広く利用する種であるため、対象事業による改変区域が主な生息環境であるとは考えられにくいことから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である河川から海域への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は河川から海域にかけて生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44(3) 重要な魚類の予測結果

種名		タケノコメバル	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT	
生態情報		沿岸の岩礁域の藻場に生息しており、北海道南部～九州に分布しています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：3 個体 春季：14 個体 冬季：－ 夏季：－
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯（シルト）
		対象事業実施区域外	潮下帯（礫混砂泥、ガラモ場）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境であるガラモ場が含まれ、本種の生息個体の改変割合は 5.6% となります。ただし、供用後もガラモ場は対象事業実施区域周辺において維持され、本種は移動能力の高い魚類であることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境であるガラモ場への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種はガラモ場に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

表 8-7. 44(4) 重要な魚類の予測結果

種名		コイチ	
重要な種の選定基準		環境省 RL (海域) :EN	
生態情報		瀬戸内海から有明海に多く、水深 100m 以浅の内湾砂泥底上に生息します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯 (砂)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されること、本種は比較的移動能力の高い魚類であることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮下帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44(5) 重要な魚類の予測結果

種名		アオギス	
重要な種の選定基準		環境省 RL:CR 福岡県 RDB:EN	
生態情報		九州の一部にわずかに生息しており、沿岸の砂底に生息し、若魚は夏期に川を遡ります。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：1 個体 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：2 個体 冬季：－ 夏季：2 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯（砂質）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、砂）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が 2mg/L を超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮下帯が含まれ、本種の生息個体の改変割合は 20.0% となります。ただし、供用後も砂質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持され、本種は移動能力の高い魚類であることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂質の潮下帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44(6) 重要な魚類の予測結果

種名		ヒモハゼ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		河口域の砂泥底に生息しており、日本では青森県以南に分布しています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：7 個体 夏季：6 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮間帯（砂質、泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持されること、本種は比較的移動能力の高い魚類であることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する魚類です 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44(7) 重要な魚類の予測結果

種名		タビラクチ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:VU	
生態情報		干潟や内湾、河口域の軟泥底に生息しており、和歌山県～九州に分布しています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：10 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂泥質）
		対象事業実施区域外	潮間帯（泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれます。供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、移動能力の低い本種の生息個体の改変割合は 9.1%となることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や個体数の改変割合等を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。 また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44(8) 重要な魚類の予測結果

種名		トビハゼ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:VU	
生態情報		汽水域の干潟にすみ、陸上を活発に動きまわります。 日本では、東京湾～沖縄島に分布しています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：－ 夏季：5 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：1 個体 夏季：7 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂質）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、砂・砂泥）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれ、本種の生息個体の改変割合は 38.5% となります。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、本種は比較的移動能力の高い魚類であることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	

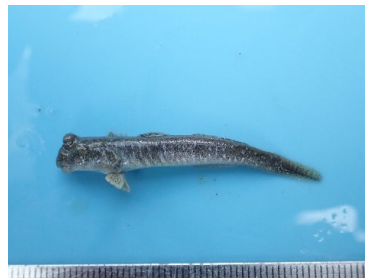


表 8-7. 44(9) 重要な魚類の予測結果

種名		シラヌイハゼ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		周防灘、響灘、玄界灘、有明海の前浜干潟、浅海域に分布しています。有明海では、シルトを含む砂泥底でも確認されることがありますが、それ以外の海域では砂底で確認されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 冬季：－ 春季：44 個体 夏季：4 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 冬季：－ 春季：42 個体 夏季：5 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（礫混砂泥、砂質）
		対象事業実施区域外	潮間帯（礫混砂泥、砂質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が2mg/Lを超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮間帯が含まれ、本種の生息個体の改変割合は50.5%となります。ただし、供用後も砂質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、本種は比較的移動能力の高い魚類であることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂質の潮間帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44(10) 重要な魚類の予測結果

種名		マサゴハゼ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:VU 福岡県 RDB:NT	
生態情報		河口の汽水域に生息していますが、まれに淡水域にも入る小型種で泥底を好みます。日本では、宮城県～沖縄島に分布しています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：20 個体 冬季：－ 夏季：2 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：43 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮間帯（砂泥質）
		対象事業実施区域外	汽水域潮間帯（泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。また、汚濁防止膜の設置範囲内は本種の主な生息環境とは考えられにくいことから、工事に伴う濁りの影響は小さいと予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認され、対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂泥質の潮間帯が含まれ、本種の生息個体の改変割合は 33.8% となります。ただし、供用後も砂泥質の潮間帯は対象事業実施区域周辺において維持され、本種は比較的移动能力の高い魚類であることから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境である砂泥質の潮間帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種は砂泥質の潮間帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、影響は小さいと予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	

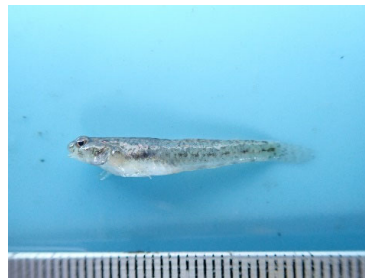
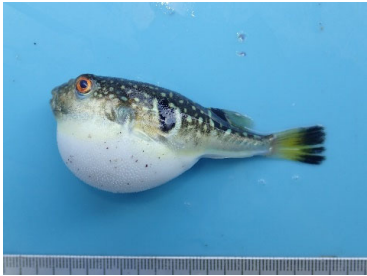


表 8-7. 44(11) 重要な魚類の予測結果

種名		シロチチブ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT 福岡県 RDB:NT	
生態情報		周防灘、有明海、一部の玄界灘・響灘の前浜干潟に分布しており、大規模な湾の遠浅な浅海域に生息しています。生息地の底質は、アサリやカキなどの貝殻が多数表在している砂や砂泥であることが多く、産卵期は5～9月で、有明海の干潟で複数例確認されています。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：1 個体
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：12 個体 冬季：－ 夏季：8 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	潮下帯（シルト）
		対象事業実施区域外	潮下帯（礫混砂泥、砂泥質）
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されたことから、工事に伴う濁りの影響が考えられます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、濁り（SS）の寄与濃度が2mg/Lを超える範囲は汚濁防止膜の内側にとどまると予測されたこと、汚濁防止膜の設置範囲外においても本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場（埋立地）の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されましたが、アサリやカキなどの貝殻が多数表在している砂泥質の潮下帯に生息する魚類であるため、対象事業による改変区域が主な生息環境であるとは考えられにくいことから、飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場（埋立地）の存在により本種の生息環境であるアサリやカキなどの貝殻が多数表在している砂泥質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		本種はアサリやカキなどの貝殻が多数表在している砂泥質の潮下帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場（埋立地）の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。	



表 8-7. 44 (12) 重要な魚類の予測結果

種名		トラフグ	
重要な種の選定基準		環境省 RL:NT	
生態情報		室蘭以南の太平洋岸、日本海西部、東シナ海に分布しており、水深 200m 以浅に生息しています。幼魚は内湾の砂泥底で過ごし、孵化してから満 1 年を過ぎると外海に移動します。	
確認状況	現地調査	対象事業実施区域内	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：－
		対象事業実施区域外	秋季：－ 春季：－ 冬季：－ 夏季：1 個体
確認地点の生息環境	現地調査	対象事業実施区域内	－
		対象事業実施区域外	潮下帯 (砂質)
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は汚濁防止膜の設置範囲内で確認されませんでした。汚濁防止膜の設置範囲内には、本種の生息環境である砂質の潮下帯が含まれることから、工事に伴う濁りの影響が想定されます。ただし、工事に伴う濁りは一時的なものであり、汚濁防止膜の設置範囲外において本種の生息が確認されていることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場 (埋立地) の存在	直接的	本種は対象事業実施区域内で確認されませんでした。対象事業による改変区域には、本種の生息環境である砂質の潮下帯が含まれることから、対象事業による直接的な影響があることが想定されます。ただし、供用後も砂質の潮下帯は対象事業実施区域周辺において維持されること、本種は比較的移動能力の高い魚類であることから、飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場 (埋立地) の存在により本種の生息環境である砂質の潮下帯への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は砂質の潮下帯に生息する魚類です。 工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。 飛行場 (埋立地) の存在による直接的な影響は、生息環境を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場 (埋立地) の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p> 	

⑥ 海生哺乳類

本事業が海生哺乳類の重要な種に与える可能性のある影響要因を表 8-7. 45 に、予測結果を表 8-7. 46 に示します。

表 8-7. 45 重要な種への影響要因区分（海生哺乳類）

種 名	重要な種の 選定基準	造成等の施工による 一時的な影響	飛行場（埋立地） の存在	
		間接的	直接的	間接的
スナメリ	種の保存法：国際 福岡県 RDB：NT	○	○	○

表 8-7.46 重要な海生哺乳類の予測結果

種名		スナメリ	
重要な種の選定基準		種の保存法:国際 福岡県 RDB:NT	
生態情報		人間活動の影響の及ぶ極めて沿岸域にのみ生息する海生哺乳類です。日本では、伊勢湾や瀬戸内海・玄界灘など本邦南部の沿岸域に分布しています。	
確認状況	現地調査	定点観測において、定置網の周辺で年間を通じて摂餌行動、移動、息継ぎを行う様子が確認されました。また、船上からの目視観測においても年間を通じて確認され、移動している様子が多く確認されました。なお、調査期間中に繁殖行動は確認されませんでした。	
影響予測	造成等の施工による一時的な影響	間接的	本種は海域に生息し、魚類を捕食することから、工事による濁りにより、生息環境の悪化や餌となる魚類の生息への影響が想定されるため、本種の生息に影響を与える可能性があります。ただし、汚濁防止膜の設置等により、濁りの拡散範囲は限定的であること、本種の生息環境である海域は工事中も周囲に分布していること、スナメリの行動圏は広範囲であることから、工事に伴う濁りの影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
	飛行場(埋立地)の存在	直接的	飛行場(埋立地)の存在により、生息環境である海域が約21ha減少します。ただし、事業実施後も周囲に生息環境は分布すること、スナメリの行動圏は広範囲であることから、飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響はありますが、限られた範囲にとどまると予測されます。
		間接的	飛行場(埋立地)の存在により本種の生息環境である沿岸域への影響が考えられます。しかし、供用後の流況、水質、海底地形の変化は小さいと予測されたことから、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。
まとめ		<p>本種は沿岸域に生息する海生哺乳類です。</p> <p>工事による濁りの影響は、汚濁防止膜の設置により、限られた範囲にとどまると予測されます。</p> <p>飛行場(埋立地)の存在による直接的な影響は、生息環境や移動能力を踏まえ限られた範囲にとどまると予測されます。また、飛行場(埋立地)の存在による間接的な影響は小さいと予測されます。</p>	



(6) 環境保全措置

本事業の事業計画において、基本施設の配置の検討にあたっては、滑走路と誘導路の間隔及び着陸帯の幅を最小限とすることで、埋立面積を可能な限り小さくするよう環境配慮を行いました。

上記を基に検討した結果、対象事業による影響が大きいと予測された重要な種については、表 8-7.47 に示す環境保全対策を実施することとしました。さらに、表 8-7.48 に示す環境配慮事項に取り組んで影響の低減を図ります。

また、造成等の施工による水の濁りに対する環境保全措置として、汚濁防止膜の設置（海上）、濁水低減対策（沈砂池等）、濁りのモニタリング、洗浄された石材の使用に取り組み、動物への影響の低減を図ります。

表 8-7.47 動物に対する環境保全対策の概要

内容	実施主体	実施方法	効果	効果の不確実性の程度	措置の実施に伴い生ずるおそれのある環境影響
重要種の移植	事業者	工事実施前に、対象事業実施区域内に生息する重要種のうち、事業による影響が大きいと予測された種を施工範囲外の生息適地に可能な限り移植します。 【移植対象種】 ・ウミサボテン ・バイ ・カミスジカイコガイ ・ダマシ ・タイラギ ・イセシラガイ ・イチョウシラトリ ・サクラガイ ・ヒメムツアシガニ ・ヨコナガモドキ	重要種に対する事業の影響が小さくなります。	水生生物の移植に係る知見が不十分であり、不確実性があると考えられます。	他の環境要素に対する影響はほとんどないものと考えられます。

注：移植対象種には、サイズが小さい種、採泥器を用いた採取で確認されるような埋在性の種、確認例が少ない種が含まれていることから、具体的な移植方法については、学識者の意見も踏まえて検討し、実施することとします。

表 8-7.48 動物に対する環境配慮事項の概要

内容	実施主体	実施方法	効果	効果の不確実性の程度	措置の実施に伴い生ずるおそれのある環境影響
海藻等の生育場の補償	事業者	海藻類の着生機能を高めた被覆ブロックを使用します。	海藻等に依存する動物の生息環境が整備されます。	海藻等の生育場の補償の効果に係る知見が不十分であり、不確実性があると考えられます。	生態系についても影響が緩和されるものと考えられます。他の環境要素に対する影響はほとんどないものと考えられます。
水生生物（移植対象種以外）のモニタリング	事業者	事後調査の対象種以外についても、対象事業実施区域周辺において生息状況調査を実施します。	— (供用後の状況把握)	—	他の環境要素に対する影響はほとんどないものと考えられます。

(7) 事後調査

飛行場（埋立地）の存在による影響に対しての動物の予測及び環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、また不確実性があると考えられることから、表 8-7.49 に示す事後調査を実施します。

表 8-7.49 事後調査の項目及び手法

調査項目	行うこととした理由	調査手法			環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合の対応方針
		調査方法	調査時期	地域・地点	
補償した海藻等の生育場における水生生物の生息状況	海藻等の生育場の補償の効果に係る知見が不十分であり、不確実性があるため	目視等による水生生物の生息状況の確認	供用後の海域の状況が安定した時期	海藻等の生育場の補償箇所	海藻等の補償が進まない場合には、その時点の状況に応じ、工法の改善や新たな手法による補償を検討します。
供用後の滑走路周辺の海域における移植対象種の生息状況	水生生物の移植に係る知見が不十分であり、不確実性があるため	採取等による生物の生息状況の確認	供用後の海域の状況が安定した時期	滑走路周辺の海域	供用後の滑走路周辺の海域において、移植対象種の生息状況が著しく変化した場合には、その時点の状況に応じ、対応を検討します。

(8) 評価の結果

飛行場（埋立地）の存在による直接的な影響が大きいと予測された重要な種については、環境保全措置のうち、環境保全対策として、移植を実施することとします。

それ以外の種については、造成等の施工による一時的な影響及び飛行場（埋立地）の存在による影響は限られた範囲にとどまる、または小さいと予測されました。

また、環境保全措置のうち、環境配慮事項として、海藻等の生育場の補償及び水生生物（移植対象種以外）のモニタリングを行うとともに、事後調査により環境保全措置の効果を確認します。

さらに、造成等の施工による水の濁りに対する環境保全措置を行います。

これは、事業者の実行可能な範囲で、造成等の施工による一時的な影響及び飛行場（埋立地）の存在による、動物への影響を低減しているものと評価します。